



福島県公立学校退職校長会
創立 60 周年記念誌

60 年のあゆみ



福島県公立学校退職校長会

60年のあゆみ



S60. 1. 20発行



H6. 5. 1 発行



H17. 4. 1 発行



H27. 4. 1 発行

「60年のあゆみ」発刊にあたって

福島県公立学校退職校長会 会長 福 士 寛 樹



昭和40年4月9日に設立された福島県公立学校退職校長会は、令和6年（2024年）4月9日創立60年を迎えました。機関誌「松風」創刊号を紐解きますと、当時の教育界の諸問題を憂慮し、1日も早い「教育の正常化」を願い、校長会長経験者が中心となり、行政や現職校長の全面的な協力の下、「教育の正しき発足」「恩給年金のスライド制の確立」「親睦と同志の団結」を主目標とし本会を設立されました。386名の会員の教育に対するたぎる熱き思いを十分に感じ取ることができます。また、「二十年」「三十年」「四十年」「50年」の各「あゆみ」からは、当時の社会情勢に起因する教育諸課題の解決に向け、真正面から真摯に取り組んでこられた先輩方の素晴らしい実践とご労苦が読み取れ、衷心より敬意を表する次第です。

60年間脈々と受け継がれた会則の目標には、「会員相互の親睦」「本県並びに我が国の教育の向上」を掲げており、今なおそれが事業や活動の基本となっています。現在約2,500名の会員の皆様が県内16支部においてそれぞれのお立場で活躍されています。

本会は、東北地区では会員数が最も多く、小、中、高、特別支援の各学校の退職校長が一体となった全国的にもモデルとなる強力な組織として高い評価をいただいております。これもひとえに県内16支部において、着実にそして脈々と諸活動をお支えいただきました歴代の支部長様方をはじめ関係の皆様、重ねて心より感謝の意を表する次第です。

さて、本県においては、少子化による小学校や高等学校の統廃合、新たな義務教育学校や特別支援学校の設立、教員志望者の減少による採用試験の低倍率、地方公務員法の一部改正による定年の延長、子供たちとのふれあいの時間を増やす「学校の在り方変革」、ギガスクール構想ICT教育のための児童・生徒に一人1台のタブレット貸与など、子供たちを取り巻く教育環境は大きく様変わりしました。その上、令和元年（2019年）に発生した新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックも我が国の教育の在り方を大きく変化させました。

平成23年（2011年）に発生した東日本大震災及びそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故から14年が経ちました。被災地区では、インフラや新しい産業の創出はなされてきていますが、本会の双葉支部の会員もそのほとんどが避難生活を余儀なくされており、県内外に避難した方々がなかなかふるさとに戻れない現状にあります。また、東京電力福島第一原子力発電所においては、デブリの試験的な取り出しや処理水の海洋放出などがようやく始まりましたが、廃炉にはほど遠く、復興道半ばと言えます。本会は、現在でも「双葉の灯を消さない」を合い言葉に会員の心を一つにした取組を続けています。

昨年、第50回東北地区退職校長会協議会福島大会が福島市で開催され、2日目に視察研修として、全国連合退職校長会の田中会長様をはじめ東北各県の会長様、役員の皆様が被災地にご案内し、復興・創生状況を視ていただいたところです。また、全連退の活動目標や大会宣言文の中にも「東日本大震災・原発事故」の文言を継続して記してくださるよう強く要望し、総会で認められ実現しました。

「60年のあゆみ」は、このような現状を踏まえ、平成27年度（2015年）から令和6年度（2024年）までのおよそ10年間の県事務局と県内16支部の取組等を記したものです。紙面の都合上、すべてを網羅することはできませんが、県事務局と県内16支部の着実な実践の足跡と努力の成果等をお酌み取りいただければ幸いです。

結びに、設立に当たった方々の熱き思いに応え、60年にわたり、それぞれのお立場でご活躍いただいた諸先輩の皆様への姿勢・実績等に真摯に学ばせていただき、課題を一つ一つ丁寧に解決しながら、本会を更に発展させていきますこととお誓い申し上げますとともに、執筆に当たられた関係の皆様へ衷心より御礼申し上げ、「60年のあゆみ」刊行にあたっての挨拶といたします。

（令和7年2月 記）

も く じ

「60年のあゆみ」発刊にあたって

会 長 福 士 寛 樹

第1章 本会のあゆみ

I 福島県公立学校退職校長会60年のあゆみ	2
II 本会の組織と運営	6
III 本会の活動	8
IV 支部組織の運営と活動	13

第2章 大震災・原発事故及び新型コロナウイルス感染症に関わる記録

I 東日本大震災，東京電力福島第一原子力発電所事故の概要	62
II 県事務局の対応	63
III 被害・影響が顕著だった支部のその後	68
IV 3.11から10年以上が経過して	75
V 被災地の学校のその後	77
VI 新型コロナウイルス感染症の発生と対応	80

* 福島県公立学校退職校長会会則並びに規程	90
* 令和6年度福島県公立学校退職校長会役員一覧	93
* 参考文献等，編集後記	94



第1章 本会のあゆみ

I 福島県公立学校退職校長会60年のあゆみ	2
II 本会の組織と運営	6
III 本会の活動	8
IV 支部組織の運営と活動	13
1 福島支部	13
2 伊達支部	16
3 安達支部	19
4 郡山支部	22
5 岩瀬支部	25
6 石川支部	28
7 田村支部	31
8 西白河支部	34
9 東白川支部	37
10 北会津支部	40
11 耶麻支部	43
12 両沼支部	46
13 南会津支部	49
14 相馬支部	52
15 双葉支部	55
16 いわき支部	58



I 福島県公立学校退職校長会60年のあゆみ

1 始動・創立（「福島県公立学校退職校長会」誕生の経緯）

昭和39年、東京都退職校長会（千代田会）の呼びかけもあり、本会の設立を見据え、直近の元県小・中学校長会会長5名が有志会を結成した。

昭和40年1月19日、県小・中学校長会元会長会が開催された。その席上、「40年度に会を創立、政治的には中立、発起人は元県小・中学校長会会長・副会長」との意見が集約され、早速、設立趣意書、会則案、創立総会案を策定し、昭和40年4月の「創立総会」を目指した。

昭和40年4月9日、福島市偕楽亭において、発起人、準備員、県内都市代表50余名が参加し、来賓として木村守江県知事、折笠興四郎県教育長、石原幹市郎参議院議員がご臨席され、県・市関係首脳部のご参会のもと、「創立総会」を開催。提案議題を可決し、ここに「福島県公立学校退職校長会」が誕生した。

なお、全国連合退職校長会は、昭和40年6月20日、東京国立教育会館において創立総会を行い、各県退職校長会の連合体として組織された。

2 成 長（本格始動）

(1) 本会の活動目標

発足当時、次の3つの活動目標が挙げられ、その後の活動の基本となった。

- ① 本県ならびに日本教育の正しき発足に総力を結集する。
- ② 経済の変動に伴う恩給年金のスライド制を確立促進する。
- ③ 会員相互の親睦を図り、同志の団結を強める。

(2) 支部の結成と会員の募集

創立総会后、旧教育事務所単位に設けられた支部ごとに、設立の趣旨の周知、会員の勧誘が行われ、会員数は4月末には441名、年度末には771名と伸びていった。

(3) 第2回総会福島大会後、本格的始動

昭和41年5月28日、福島市偕楽亭において第2回総会福島大会を開催した。本格的な事業、予算、組織等が審議され可決した。本会は次のように他に例を見ないような優れた組織となった。

- ① 16支部（各旧教育事務所内単位）全部が発足と同時に支部組織として確立
- ② 小学校・中学校・高等学校の校種を一本化して発足
- ③ 行政機関との連携が円滑に行われながら発足

3 活動の推移

(1) 総会から大会へ

- 当初は総会を置き、評議員会で決議された事項を総会で報告。しかし、開催地区以外の参加者が少なく、県総会の持ち方、評議員会と総会の関係、権限等が検討された。昭和57年度から、本会の決議機関は評議員会とし、総会での報告は必要ないことを確認。会則の「会議」から「総会」を削除し「大会」を付け加え、本会の目標を達成するために必要な事業（会員の体験発表や講演、会員の交流、大会宣言）などを行うこととした。
- 昭和40年の設立総会、同41年の第2回総会以来続いた総会は、昭和56年第17回総会いわき大会で幕を閉じ、昭和57年第18回福島県公立学校退職校長会福島大会から新たに「大会」としてスタートした。

(2) 要望活動の継続

- 昭和40年からは陳情活動として、平成10年からは要望活動（名称変更）として、知事部局、県教育庁、県議会、市長会、町村長会、地教委等への陳情、要望活動を毎年実施している。

- 平成16年度からは県小・中学校長会、県高等学校長協会と事前に懇談会をもち、県教委等への要望活動に生かしている。
- (3) **事務所の推移**
- 当初の事務所は福島第一小学校内（福島市杉妻町1-24）に設置。
 - 昭和42年福島県教育会館内（福島市上浜町10-38）に移転。
 - 昭和45年に学生協館内（福島市上町1-13）に移転。
 - 昭和63年八百善ビル内（福島市北五老内町6-30）に移転。
 - 平成17年富士ビル2F（福島市浜田町4-16）に移転し、現在に至る。
- (4) **事務局規定の設定**
- 昭和56年、本会の充実に伴い、会則に「第9条 事務局」を付け加え、「事務局規程」を定め、事務局長、事務担当（庶務、会計、研究調査、広報の係）を配置。
 - 平成24年、庶務係を総務部に、他の係も部に、また、事務局理事の呼称を常任理事と変更。
 - 令和5年には、東北地区退職校長会協議会福島大会開催準備のため事務局次長を新たに置いた。
- (5) **理事会の創設**
- 理事を選任し、発足当初なかった理事会を創設し、支部長会前と評議員会前の年2回開催した。
 - 令和元年度からは本会予算の減少に伴い、年1回の開催とした。
- (6) **支部長会の創設**
- 会務の円滑な執行を図るため、発足当初なかった支部長会を創設し、必要に応じて開催できるようにした。平成16年から申し合わせ事項により年1回開催とした。
- (7) **賛助会員の設置**
- 昭和59年、会則を改正し、現職にある公立学校長を賛助会員とすることができるようにした。各種会合をもったり、会報を配ったりするなどして、退職校長と現職校長との連携を一層密にした。
- (8) **会則（組織）の見直し**
- 令和5年、定年引上げに係る条例改正により令和5年4月から2年に1歳ずつ定年を引き上げ、令和13年4月には65歳となった。そのため、校長の退職時を何時にするか課題となり、会則の改正を行い、役職（校長）定年者を退職校長とみなし、入会の勧誘をすることとした。
- (9) **周年事業の実施**
- 〈創立10年〉 創立10周年記念第11回総会会津若松大会（S50.5.31）
松風「10周年記念特集号」発行（S50）
- 〈創立20年〉 創立20周年記念第20回福島県公立学校退職校長会郡山大会（S59.5.18）
「二十年のあゆみ」刊行、無償配付（S60）、「会員名簿」第4回改訂版刊行
- 〈創立30年〉 創立30周年記念第30回福島県公立学校退職校長会福島大会（H6.5.25）
「三十年のあゆみ」刊行、無償配付（H6）、「会員名簿」第6回改訂版刊行
- 〈創立40年〉 創立40周年記念第40回福島県公立学校退職校長会白河大会（H16.6.18）
「四十年のあゆみ」刊行、無償配付（H16）、「会員名簿」第8回改訂版刊行
- 〈創立50年〉 創立50周年記念第50回福島県公立学校退職校長会いわき大会（H26.6.18）
「50年のあゆみ」刊行、無償配付（H27）
- 〈創立60年〉 創立60周年記念第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会（R6.6.12）
「60年のあゆみ」刊行、無償配付（R7）
- (10) **東北地区退職校長会協議会福島大会の開催**
- 昭和49年11月第2回大会実施。会則制定の大切な会を本県で開催した。
 - 以後S55年（第8回）、S61年（第14回）、H4年（第20回）、H10年（第26回）、H16年（第32回）、H22年（第38回）、H28年（第44回）、R6年（第50回）に開催。

(11) 高齢会員への祝慶と配慮

① 会費免除

- ・85歳以上の会員について会費を免除することとした（S59～）。
- ・85歳以上の会費免除会員を90歳以上に改訂した（H12～）。

② 感謝状等の贈呈

- ・95歳の会員に感謝状を贈呈することとした（S61～）。
 - ・95歳の会員に賀寿を贈呈することに改訂した（H2～）。
 - ・95歳および100歳の会員に記念品を添えて賀寿を贈呈することとした（H24～）。
- （全連退からの100歳の会員への記念品の贈呈が廃止されたことに伴う措置）

(12) 時の要請に即した事業の展開

① 福島県退職教職員就職促進協議会の設立と解散

- ・発足当時は退職教職員の就職が大きな課題に。S44年福島県退職教職員就職促進協議会を設立し、就職状況の実態調査を行いその促進に努力。目的を達成後S58年3月に解散。

② 年金特別委員会の設置

- ・H4年度から年金特別委員会を設置。現状分析や陳情等を進め、役割を果たして閉じた。

③ 事務担当者研修会の開催

- ・H2年度から事務担当者研修会を開催。経費削減のためH16年度から「事務の手引き」を作成。連絡は支部長会を活用し、当研修会を取り止めた。

④ 会員の功績調書預託運動の徹底

- ・H4年「高齢者叙勲制度の運用の適正化について」（文部省通知）を受け、死亡者叙位叙勲と併せ、申請漏れのないよう当該者への緊密な連絡、会員の功績調書預託の徹底を図った。

⑤ 第50回国民体育大会への協力

- ・H7年の第50回国民体育大会（本県開催）では、本会会員および現職校長の中にその推進の役割を担っている者もあり、その成功に向け本会あげて協力した。

(13) 本会の主な出版物

- ・会員名簿の発行（S42, S47, S51, S55, S59, H元, H6, H11, H16改訂版発行・希望会員へ頒布、現在はデータベース化し毎年改訂。各支部にのみ送付。）
- ・会報「松風」の発行
 - ◇創刊号S40.5。令和7年3月現在195号。
 - ◇S50「10周年記念号」発行。
 - ◇特集号（H3「長寿社会を生き抜くために」、H11「介護保険実施に向けての会員の声」、H12「介護保険利用について」、H13「介護保険Q&A」、H14「教育の日とは」、H23「東日本大震災」など。県大会実施後は「県大会特集号」を発行。
- ・「明治百年福島県教育回顧録」（S43, 1400頁）刊行。
- ・「よくわかる恩給・年金のしおり」（S54）刊行。
- ・「叙位叙勲申請の手引き」（S58）刊行、改訂版をS61, H3に刊行。
- ・「教育問題等に関する調査報告書」（S63）刊行。
- ・「二十年のあゆみ」（S60）, 「三十年のあゆみ」（H6）, 「四十年のあゆみ」（H17）, 「50年のあゆみ」・抜き刷り版「大震災・原発事故に関する記録」（H27）, 「60年のあゆみ」（R7）刊行。

(14) デジタル化への歩み

- ・全国的にデジタル化が進む中、本会会員の減少等により経費削減や事務の効率化、情報の共有化を図る必要性が出てきたため、本会の目指す姿を明確にしながらデジタル化将来ビジョンを設定し、令和2年度からデジタル化の方向へ歩み出した。

- ・令和2年、各支部のデジタル化推進委員設置等の推進（県事務局と支部の連絡等の効率化）。
- ・令和4年、福島県公立学校退職校長会ホームページの開設。

4 東日本大震災・東電福島第一原発事故の被災と対策

(1) 被災後当面の措置

- ・被災、避難支部、会員の支援・応援を第一義とした対応措置を講じた。
- ・第47回福島県公立学校退職校長会会津大会は中止し、諸会議も延期した。
- ・被災支部（相馬、双葉、いわき）の全会員及び他支部被災会員の会費を免除した（～H29年度）。
- ・会費免除に伴う収入減に対応した緊縮予算案に組み替えた。
- ・全連退に対し被災会員の会費免除を要請。免除措置を受けた（～H29年度）。

(2) 義援金等の活用

- ・全国からの義援金の活用（被災支部・学校等への支援金）。
- ・「ぬくもり基金」の創設（秋田県退職校長会からの約130万円の浄財を基に、H27年度から県大会等への補助として運用）。

(3) ワンコイン・サポート事業の展開

- ・平成25年度～29年度の5年間、一口500円の募金活動を実施。被災支部・学校等を支援。

5 新型コロナウイルス感染症の発生（令和元年12月～）と対策

(1) 措置

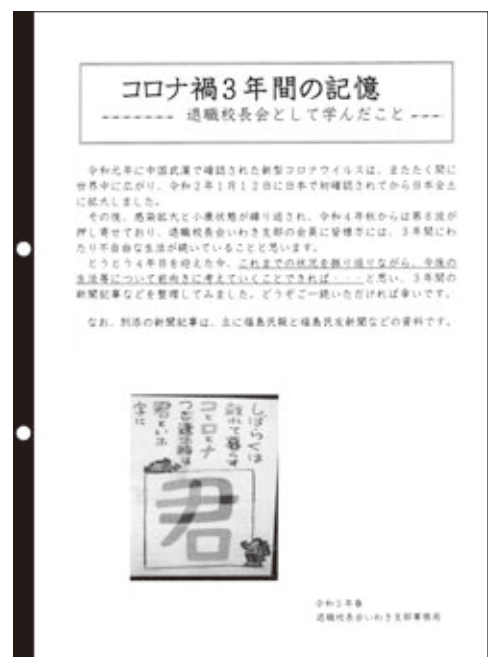
- ・新型コロナウイルス感染防止を第一義とし、令和2年から対応措置を講じた。
- ・令和2年4月、評議員会は書面開催とした。
- ・令和2年第56回福島県公立学校退職校長会会津大会を延期。翌年度（令和3年度）に紙面開催とした（大会要項を全会員に配付）。
- ・令和3年3月「新型コロナウイルス感染症にかかるガイドライン」を設定し、諸会議等での感染防止の徹底を促した。
- ・令和4年度第57回福島県公立学校退職校長会郡山大会も延期した。
- ・令和5年度郡山大会から通常開催となった（令和5年5月に新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同じ5類に移行したため）。

※右の冊子は、いわき支部事務局がコロナ禍の状況等を新聞報道をもとに3年間にわたりまとめたものである。

コロナ禍3年間の記憶

……退職校長会として学んだこと……

令和5年春 退職校長会いわき支部事務局



Ⅱ 本会の組織と運営

1 歴代役員

年	会 長	副 会 長						監 事		
S 40	水野 末治	幸野 岩男	鈴木 豊蔵	牛渡 整	×	×	稲村良之助	松本 茂寿	坂内 萬	
41	〃	〃	〃	〃	×	×	〃	〃	〃	
42	〃	〃	〃	甲斐 操	千葉 右近	×	〃	田代 文弥	牛渡 整	
43	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	
44	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	
45	〃	〃	〃	吉田 昌証	牛渡 整	×	〃	〃	高木 長年	
46	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	
47	〃	〃	高木 長年	〃	×	×	〃	室井 恒平	牛渡 整	
48	〃	〃	〃	〃	菅野 勝美	×	〃	〃	〃	
49	遠藤 経	池田 季蔵	牛渡 整	〃	〃	×	〃	三橋 重	高木 長年	
50	〃	〃	稲村良之助	〃	〃	高木 長年	森 盛五郎	〃	牛渡 整	
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	×	
52	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	×	
53	青木喜八郎	安井 健夫	菅野 増見	三橋 重	青木 勇夫	×	新田 清吾	目黒 利雄	鈴木 忠徳	
54	〃	〃	〃	〃	〃	新家 芳美	〃	〃	〃	
55	〃	〃	新田 清吾	〃	〃	〃	五十嵐 要	〃	〃	
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
57	〃	〃	佐藤 末雄	〃	〃	〃	〃	〃	斎藤 一夫	
58	今井 豊蔵	〃	〃	〃	玉川 春雄	〃	〃	玉川 真助	〃	
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
60	〃	〃	〃	〃	〃	松野 栄吉	塩田 正夫	小松藤治郎	秋元 宏	
61	〃	〃	吉田 左京	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
62	玉川 春雄	色摩 勝夫	〃	小松藤治郎	鈴木 正一	秋元 宏	佐藤 美礼	佐藤 景芳	慶徳 健	
63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
H元	〃	〃	遠藤 景芳	根本芳之助	〃	〃	佐久間悠一	石橋 仁	〃	
2	〃	〃	×	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
3	色摩 勝夫	鈴木 勝枝	小松 茂吉	〃	石橋 仁	〃	君島 正一	佐久間佐一	赤津 千町	
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
5	〃	〃	〃	〃	根本 久	松崎健一郎	〃	松崎健一郎	遠藤 榮	
6	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	田中 義衛	〃	
7	塙 保貞	佐藤 昌志	佐藤 光	樽井 四郎	伊藤 森三	荒 盛政	〃	横山 重郎	松本 久	
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
9	佐藤 昌志	村岡房之助	小島 喜一	佐久間守勝	横山 重郎	高橋 義一	渡辺 保男	今井 新一	荒 盛政	
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	矢作 良朔	〃	〃	
11	〃	〃	〃	〃	今井 新吉	磯上 昌弘	〃	林 俊	齋藤 春義	
12	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	川島 忠夫	〃	
13	〃	〃	今出 昭三	金澤 正	川島 忠夫	根本 重信	松本 春帆	斎藤 重幸	阿部 武	
14	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	×	
15	村岡房之助	安原 滋	〃	〃	浅沼 恒昭	志賀 英隆	〃	佐藤 孝二	柴 愛吉	
16	安原 滋	岩谷 敬恒	〃	〃	〃	〃	〃	〃	坂本 和夫	
17	〃	〃	本多 孝	橋本 義信	宗像 精	佐藤 老松	〃	室井 恒男	〃	
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	坂本 迪郎	〃	渡邊 茂	
19	岩谷 敬恒	車田 喜宏	〃	〃	〃	渡邊 茂	〃	濱須 義昌	角田七兵衛	
20	〃	〃	〃	〃	〃	渡部 祐亨	〃	〃	〃	
21	車田 喜宏	鈴木 信光	遠藤 秋夫	坂本 迪郎	渡部 悦夫	〃	矢内 俊彦	木下 宇平	門馬 洋二	
22	〃	〃	〃	〃	〃	山内 正衛	〃	〃	高田 久夫	
23	〃	〃	大槻 太	〃	〃	〃	津田 智	金子 文哉	〃	
24	〃	〃	〃	星 輝夫	〃	賀澤 裕三	〃	〃	〃	
25	鈴木 信光	熊田 晴彦	佐藤 榮壽	津田 智	山内 徳次	〃	木村 澄男	児島 昌詮	鈴木 則久	
26	〃	〃	〃	〃	〃	三星 賢二	二瓶 正夫	〃	江尻 邦夫	
27	小野 孝雄	室井 君男	佐藤 敦躬	津田 智	新國 正明	廣瀬 要人	〃	横山 恒廣	〃	
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	渡辺 勇喜	五十嵐利明	〃	
29	室井 君男	佐藤俊市郎	國分 幸男	福島 俊男	湯田 一秋	鈴木 雅之	飯島 裕	五十嵐昭義	佐藤 史生	
30	〃	〃	〃	〃	〃	増井 健二	〃	〃	〃	
R元	佐藤俊市郎	金澤 武男	伊藤 末吉	佐藤 光男	星 幸雄	〃	八木沼智恵子	石井 幸雄	杉浦 伸吉	
2	〃	飯沼 信一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
3	〃	〃	〃	萩原 照夫	星 憲隆	〃	根本 保男	小林 宗一	鈴木 恵一	
4	〃	〃	〃	栗林 正樹	〃	沢 宏一	〃	〃	〃	
5	福士 寛樹	〃	鈴木 昭雄	工藤 博	齋藤 秀一	〃	栗林 正樹	菅井 一良	〃	
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

2 会員数、会費、予算、総会・大会、特記事項

年	会員数 (人)	会 費 (円)	予 算 (円)	総会・大会	特 記 事 項
S 40	677	200	100,000	1 総会 (福島市)	恩給増額署名、陳情
41	845	〃	180,000	2 総会 (福島市)	
42	891	〃	〃	3 総会 (会津若松市)	事務所移転 (福島県教育会館)
43	964	〃	265,889	4 総会 (郡山市)	明治100年教育回顧録刊行
44	1,001	〃	360,974	5 総会 (いわき市)	県退職教職員就職促進協議会発足
45	1,118	300	373,004	6 総会 (福島市)	事務所移転 (学生協会館)
46	1,293	〃	390,549	7 総会 (会津若松市)	
47	〃	〃	409,230	8 総会 (郡山市)	会員名簿改訂版発行
48	1,361	400	536,108	9 総会 (いわき市)	
49	1,401	500	696,071	10 総会 (福島市)	東北地区協議会本県開催
50	1,425	700	1,030,964	11 総会 (会津若松市)	創立10周年記念事業、松風特集号「十年のあゆみ」
51	1,516	〃	1,199,295	12 総会 (郡山市)	会員名簿改訂版発行
52	1,562	900	1,653,781	13 総会 (相馬市)	
53	1,610	〃	1,539,139	14 総会 (福島市)	
54	1,656	1,000	1,801,273	15 総会 (会津若松市)	「恩給・年金のしおり」発行
55	1,727	〃	1,935,431	16 総会 (郡山市)	東北地区協議会本県開催、会員名簿改訂版発行
56	1,828	1,300	2,408,154	17 総会 (いわき市)	本会運営特別委員会設置
57	1,853	〃	3,065,341	18 大会 (福島市)	評議員会と大会を分離、県退職教職員就職促進協議会解散
58	1,882	〃	3,215,427	19 大会 (会津若松市)	叙位叙勲申請の手引刊行、クラブ活動調査・活動推進
59	1,929	〃	3,111,861	20 大会 (郡山市)	創立20周年記念事業、「二十年のあゆみ」刊行、現職校長を賛助会員に
60	1,976	〃	3,154,896	21 大会 (原町市)	85歳以上会費免除
61	2,054	1,500	3,391,267	22 大会 (二本松市)	東北地区協議会本県開催、運営資金積み立て開始
62	2,125	〃	3,475,483	23 大会 (会津若松市)	
63	2,182	〃	3,593,923	24 大会 (須賀川市)	事務局移転 (八百善ビル3F)
H 元	2,263	〃	3,487,169	25 大会 (富岡町)	会員名簿改訂版発行
2	2,325	〃	3,482,122	26 大会 (保原町)	満95歳以上会員に「賀寿」贈呈
3	2,380	〃	3,612,019	27 大会 (会津若松市)	
4	2,439	〃	3,614,154	28 大会 (白河市)	東北地区協議会本県開催、年金問題特別委員会設置
5	2,515	〃	3,712,296	29 大会 (いわき市)	
6	2,574	〃	3,726,264	30 大会 (福島市)	創立30周年記念事業、「三十年のあゆみ」刊行
7	2,651	〃	3,919,796	31 大会 (会津若松市)	
8	2,681	〃	3,932,942	32 大会 (郡山市)	
9	2,730	〃	4,701,325	33 大会 (原町市)	
10	2,781	〃	4,838,780	34 大会 (二本松市)	東北地区協議会本県開催
11	2,800	〃	4,814,204	35 大会 (喜多方市)	広報「松風」保存版作成
12	2,811	〃	4,939,906	36 大会 (須賀川市)	90歳以上会費免除
13	2,828	〃	4,899,023	37 大会 (大熊町)	
14	2,860	〃	5,052,523	38 大会 (伊達町)	
15	2,887	〃	5,087,895	39 大会 (下郷町)	本会活動の再確認と改善
16	2,895	〃	4,649,804	40 大会 (白河市)	東北地区協議会本県開催、事務所移転 (富士ビル2F)、小中高校長会との懇談会実施
17	2,932	〃	4,683,243	41 大会 (いわき市)	創立40周年記念事業、「四十年のあゆみ」刊行、「松風」A4版化・年4回発行
18	2,912	〃	4,569,465	42 大会 (福島市)	
19	2,890	〃	4,634,438	43 大会 (会津坂下町)	会員名簿データベース化
20	2,885	〃	4,680,095	44 大会 (田村市)	
21	2,870	〃	4,609,708	45 大会 (南相馬市)	県大会開催ローテーション・開催時期の変更
22	2,843	〃	4,572,927	46 大会 (二本松市)	東北地区協議会本県開催
23	2,777	〃	3,500,410	47 大会 中止	震災のため県大会中止、浜3支部会員の県会費免除
24	2,775	〃	3,871,351	48 大会 (会津若松市)	事業・予算の組み替え措置・対応、「双葉の灯を消さない」大会宣言
25	2,750	〃	4,104,781	49 大会 (棚倉町)	特別委員会の設置と事業推進
26	2,713	〃	4,048,952	50 大会 (いわき市)	創立50周年記念事業、「50年のあゆみ」刊行、ワンコイン・サポート事業開始、ぬくもり基金創設
27	2,666	〃	3,981,011	51 大会 (伊達市)	ワンコイン・サポート支援基金創設
28	2,648	〃	4,004,010	52 大会 (会津若松市)	東北地区協議会本県開催
29	2,529	〃	4,220,813	53 大会 (石川町)	被災会員会費免除措置終了、ワンコイン・サポート事業終了
30	2,522	〃	4,150,010	54 大会 (相馬市)	事務連絡のデジタル化、ワンコイン・サポート支援基金終了
R 元	2,530	〃	4,128,953	55 大会 (福島市)	理事会を年1回開催とする、県大会の持ち方検討 (双葉支部主管の浜ブロック開催を抜かず)
2	2,564	〃	4,258,934	56 大会 延期	新型コロナウイルス感染症のため評議員会書面開催、県大会延期
3	2,500	〃	4,759,656	56 大会 (会津若松市)	新型コロナウイルス感染症のため県大会津大会紙面開催
4	2,480	〃	4,366,003	57 大会 延期	県大会郡山大会延期、本会ホームページ開設
5	2,425	〃	4,551,042	57 大会 (郡山市)	県大会郡山大会通常開催
6	2,272	〃	4,100,895	58 大会 (二本松市)	創立60周年記念事業、東北地区協議会本県開催、「60年のあゆみ」刊行

Ⅲ 本会の活動

1 調査活動

(1) 慶 事

- ・満95歳を迎えた会員に記念品を添えて「賀寿」を贈呈。また平成24年度からは満100歳迎える会員に対しても記念品を添えて「賀寿」を贈呈している。全連退からの記念品の贈呈が廃止された措置である。
- ・全連退からは、満100歳及び88歳の会員に対して「寿詞」及び「賀詞」が贈呈されている。

(2) 弔 意

- ・規程に基づき弔辞及び香典等を贈呈している。

(3) 調査活動

- ・令和元年度に各支部における「社会貢献活動の状況調査」を行い、令和2年2月に結果をまとめた。
- ・令和2年度「学校の九月入学」の意見調査を実施し、各支部からの意見を取りまとめた。
- ・令和2年度「新型コロナウイルス禍における各支部の対応等に関する調査」を行い、各支部の状況を把握した。
- ・令和5年度各支部における「各支部のクラブ（同好会）活動状況調査」を行い、令和6年2月に結果をまとめた。

2 広報活動

(1) 会報創刊～50周年まで

- ・創刊は昭和40年5月「福島県退職校長会会報 第1号」。偕楽亭における創立総会の様子をB5判4段組み4ページにまとめ発行した。
- ・昭和50年7月1日「特集号 創立十周年記念」として会報22号を発行した。
- ・第37号より会報の名称を「松風」とした（名称は会員からの公募による）。
- ・平成17年の創立40周年を機に、B5判からA4判に改訂。「県大会に出席できない会員のために詳しい内容を伝達する」目的で、県大会詳報紙を号外として発行した（～平成20年度）。
- ・平成21年度には、号外ではなく、「県大会特集号」として発行した。以後、従来の年3回の発行の会報と合わせ、年4回の会報発行に改めた。
- ・平成23年度は、3月11日の「東日本大震災」及び「東電福島第一原発の事故」により、震災5か月後の8月によりやく第142号「東日本大震災特集号」を発行した。内容は「今、学校では」「被災・避難会員の声」「応援メッセージ」「全国各地からの応援の声、見舞」など、全会員に震災後の福島の姿と県内外からの応援の声を伝えた。

(2) 50周年以降

- ・平成28年度、東北地区退職校長会協議会が本県開催となり、その内容や様子を「松風」で紹介し、会員全員に伝えた。
- ・令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の感染防止により、県大会会津大会が延期になったため、県大会特集号は休刊とした。この年は「松風」は年3回発行となった。
- ・令和3～4年度は、コロナ禍のため県大会特集号は休刊したが、「松風」は年4回発行した。
- ・令和5年度は、延期となっていた県大会郡山大会が通常開催となり、県大会特集号を含めて年4回発行に戻った。
- ・令和4年度から令和5年度に本会以外の「社会貢献活動」の内容を取材し、「社会貢献活動の先人に学ぶ」と題し、4回にわたり掲載した。

3 要望活動

(1) 平成27年度から令和元年度

- 東日本大震災及び原発事故の被災後の実態から、校舎等の耐震化・老朽化対策、汚染土壌の中間貯蔵施設への速やかな搬出、加配教員の手厚い配置など「児童・生徒が安全で安心して学べる教育環境づくり」「避難児童生徒が速やかに戻ることのできる魅力ある学校づくり」「復興のための福島県らしい教育施策の展開」「年金生活者や高齢者の生活再建・安定」等を要望してきた。

(2) 令和2年度

- 新型コロナウイルス感染症が全国的な広がりを見せ、それに伴い「新型コロナウイルス感染症拡大防止」「ICTの環境整備」「教員の魅力発信」等を要望してきた。

(3) 令和5年度から

- 「新型コロナウイルス感染症拡大防止」を継続しながら、「ICT環境の整備充実」「SNS等の問題への対応」「教員の多忙化解消、働き方改革」「教員の魅力発信」と「福島ならではの教育の推進」などを中心に要望してきている。

4 その他の活動

(1) 東日本大震災・原発事故からの復興に向けて（平成27年度以降）

- 平成23年度からの被災者の会費免除措置は平成29年度をもって終了し、平成30年度からは震災前と同様とした。それに伴い、被災会員の全連退会費免除措置も終了した。
- 大震災及び原発事故による被災支部等への支援として平成25年度から5年間続けたワンコイン・サポート事業を平成29年度で終了した。5年間で総額4,940,677円が集まり、「ワンコイン・サポート支援基金」として運用し、平成30年度までに被災支部支援と学校支援に充てられた。（詳細は第2章を参照）
- 平成26年4月に秋田県退職校長会から寄せられた浄財（1,297,930円）をもとに平成27年度設立された「ぬくもり基金」は、「ぬくもり基金運用要綱」に基づき執行し、県大会補助、東北地区協議会開催助成等に充てられている。
- 本会全体で「双葉の灯を消さない」を合い言葉に双葉支部への支援を続けるとともに、全連退や東北地区退職校長会に双葉支部や双葉地区の現状を訴えている。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応（令和2年度以降）

- 令和2年2月、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症が日本にも上陸し、政府は3月から小・中学校等を臨時休校とするなど、未知のウイルスに対する措置を発表した。その後WHOはパンデミックを宣言し、猛威をふるう新型コロナウイルス感染症の感染防止を促した。日本でも全国的な広がりを見せ、感染の拡大と収束、変異等を何度も繰り返しながら、ワクチン接種等によりようやく沈静化した。
- 令和5年5月に政府はインフルエンザと同じ扱いにした。この間、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、平成2年度の評議員会の紙面開催、県大会の延期など、その後の本会活動にも大きな影響を与えた。

(3) 地震被災地への義援金の贈呈

- トルコ大地震への対応

令和5年2月6日に発生したトルコ大地震への支援として、会員より義援金を募り、令和5年10月5日福士寛樹会長が上京した折、トルコ大使館に赴き、目録（383,000円）を贈呈した。

- 能登半島地震への対応

令和6年1月1日に発生した能登半島地震への支援として、会員に義援金を呼びかけ、6月に200,000円、8月に354,100円、10月に10,000円の3回にわたって石川県退職校長会に計

564,100円の義援金を贈呈した。

【令和6年能登半島地震義援金拝受御礼】

この度は、本年元旦に発生しました令和6年能登半島地震に対して多額の義援金を賜り、誠にありがとうございました。皆様のご厚意に心より感謝申し上げます。

報道のとおり、金沢市以北の能登地方を中心に、地震直下の珠洲市、輪島市、能登町、志賀町、七尾市に加え、液状化被害の灘田町は、甚大な被害を被っています。

特に被害の大きな珠洲市と輪島市においては、地震のためにお亡くなりになった会員もあり、仮設住宅への入居も進んでいますが、いまだに避難所での暮らしを続けざるを得ない会員もいる状況です。また、未だに地元を離れ他地域の避難施設で暮らしている会員もあり、珠洲市や輪島市では会員の安否確認もできない状況が続いています。

いただきました義援金につきましては、被災地区支部の要望や、被災会員の状況等を丁寧に把握して、復興の支援に使ってまいりたいと考えています。

今後とも何卒よろしく願いいたします。

まずは、取り急ぎ御礼まで。

(令和6年6月27日、石川県退職校長会会長 川上憲治 様より)

(4) 創立60年記念第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会の開催

- 令和6年6月12日(水)、二本松市の二本松御苑において、各支部代表210余名の参加のもと、創立60年記念第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会を開催した。
- 本大会は、コロナ禍後、2回目の通常開催となり、会員の和やかな交流風景が多く見られた。
- 大会内容は次のとおりである。

I 開 会 式 (10:30~11:10)

- 開式のことば
- 国歌斉唱
- 会長あいさつ
- 大会実行委員長あいさつ
- 来賓祝辞
 - 福島県教育委員会教育長 様
 - 二本松市長 様
- 来賓紹介・祝電披露
- 閉式のことば



福士寛樹大会会長



伊藤末吉大会実行委員長

II 講 演 (11:20~12:20)

「生きることは描くこと、生きるとは演じること」
～大山忠作とわたし～

大山 采子 様



講演 大山采子 氏

(二本松が生んだ日本画家 大山忠作 氏の長女)

III 昼食・懇談 (12:20~13:10)

IV 体 験 発 表 (13:10~14:25)

- 石川支部 小針 良仁
 - 石川町歴史民俗資料館移転オープンにあたって
- 耶麻支部 神田 優子
 - 「人づくりの指針」への関わりを通して
- いわき支部 矢内 金五



大会風景

- 富士山に見える阿武隈の山々
- Ⅳ 大会宣言（14：35～14：45）
- Ⅴ 閉会式（14：45～14：55）
 - 1 開式のことば
 - 2 次期開催支部（南会津支部）代表あいさつ
 - 3 閉式のことば

5 全国連合退職校長会、東北地区退職校長会協議会との連携（文中職名当時）

(1) 全国連合退職校長会との連携

- 平成27年10月の全連退設立50周年記念式典では、設立50周年功労者として車田喜宏顧問が表彰された。また、特別顕彰者として佐藤寛理事に感謝状が贈られた。
- 全連退会報「都道府県だより」に掲載。第197号「本県退職校長会の活動状況」（小野孝雄会長）、第212号「復興・創生を願い、日々の生活に勤しむ」（佐藤俊市郎会長）、第225号「双葉の灯を消さない」（佐藤俊市郎会長）、第228号「人生百年にふさわしい退職校長会を目指して」（福士寛樹会長）、また、「各地の会報紙より」には、第199号「将来の会員との絆づくり」（室井君男副会長）、第203号「植物の力をいただく」（新國正明副会長）、第216号「古文書を親しむ」（いわき支部 伊藤紘 氏）、第221号「へたでいい、へたがいい」（東白川支部 山口彌代 氏）、第223号「湿原ガイドとして」（南会津支部 五十嵐利明 氏）、第228号「挑戦!!」（耶麻支部 松原実 氏）が紹介された。
- 年間紀要の「各都道府県のニュース紹介」には、平成28年度「双葉の灯は消さない」（江尻邦夫双葉支部長）、同じく「会員の心のメッセージ」には「3.11を忘れない・双葉の灯を消さないを合い言葉に」（佐藤俊市郎事務局長）、令和3年度の「各都道府県のニュース紹介」には「野球に恋して」（田村支部 山内光樹 氏）が掲載された。
- 平成30年3月発刊全連退教育図書『心を育む学校の力』に、本県が取り組んでいる社会貢献活動の一つとして「鏡石町の学校応援団活動」を岩瀬支部の石山晃司氏が執筆し、掲載された。
- 全連退理事として、小野孝雄会長（平成27～28年度）、室井君男会長（平成29～30年度）佐藤俊市郎会長（令和元～4年度）、福士寛樹会長（令和5年度～）らが活躍。平成2年度全連退の宣言文の中から「原発事故」の文言が削られたが、本県の強い要望により平成3年度からその文言は復活した。また、平成5年度もその文言が削除されそうになったが、これも本県の要望により削除は免れ、本県の深刻な原発事故の影響を全国に発信し、理解を求めた。
- 全連退監事として平成29・30年度は佐藤俊市郎副会長、令和5・6年度は坂爪靖夫事務局長が就任した。
- 全連退の調査研究活動に協力している。（例 教育の日の制定状況、学校週5日制の現状と課題、小学校における教科担任制の導入の在り方、新型コロナウイルス禍における各県の対応等に関する調査、デジタル教科書導入について、教育の日の制定推進と活動状況等）
- 全連退からの「賀寿」祝いを伝達している。

(2) 東北地区退職校長会協議会との連携

- 東北地区退職校長協議会は、昭和49年11月7日、初めて東北6県の退職校長会が一堂に会して、福島市飯坂町「あづま荘」で、第2回総会を開いた。ここで、会則が制定された。
- 以後6年周期で本県で大会を開催。昭和49年（第2回総会）、昭和55年（第8回総会）、昭和61年（第14回総会）、平成4年（第20回総会）、平成10年（第26回大会）、平成16年（第32回大会）、平成22年（第38回大会）、平成28年（第44回大会）と過去8回開催している。
- 令和6年は本県「ホテル福島グリーンパレス」において、「第50回東北地区退職校長会協議会福島大会」を2日間にわたって開催した。1日目は本大会で協議題「充実した生き方や地域

の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」のもと協議がなされた。2日目は浜通りの東日本大震災・原子力災害被災地（双葉郡大熊町・双葉町）の視察研修を行い、「大熊町立学び舎ゆめの森」,「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学し、原子力災害の現状の理解を深めた。

【平成27年から令和6年までの東北地区退職校長協議会の大会開催場所と協議題】

回	年月	会 場	協 議 題
43	平27. 10	仙台市 ホテル白萩	組織の拡充に努め、効果的な活動を展開するにはどうすればよいか －「教育の日」の実施状況等にも触れながら－
44	28. 10	福島市 ホテル福島グリーンパレス	同上
45	29. 10	山形市 山形国際ホテル	充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか
46	30. 10	秋田市 秋田ビューホテル	同上
47	令元. 10	青森市 ウェディングプラザアラスカ	同上
48	2. 10	盛岡市 繋温泉ホテル紫苑	※新型コロナウイルス感染症拡大のため延期
48	3. 10	盛岡市 繋温泉ホテル紫苑	※新型コロナウイルス感染症拡大のため延期
48	4. 10	盛岡市 盛岡グランドホテル	充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか
49	5. 10	仙台市 ホテル白萩	同上
50	6. 10	福島市 ホテル福島グリーンパレス	同上 ※2日目に震災・原発事故被災地区（浜通り）の視察研修を実施



第50回東北地区退職校長会協議会福島大会
令和6年10月8日(火) 福島市：ホテル福島グリーンパレス



令和6年10月9日(水) 視察研修
東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

Ⅳ 支部組織の運営と活動

1 福島支部

1 支部の現況（令和6年 福島支部）

- ・会員数 388名，支部会費 2,500円，支部報「ふくしま」（年3回発行）
- ・定例行事（総会 年1回，理事会 年3回，クラブ長会 年1回）
- ・他団体との懇親活動（教育懇談会 年1回⇒方部によって現職小中校長会と当面する教育課題等について話題提供を受け懇談している。）
- ・会員同士の交流活動（総会・懇親会 年1回⇒米寿・喜寿者と新入会員を招き長寿者の表彰，新入会員の紹介をしている。また，先輩や会員の多様な実践を聴講している。）
- ・設置クラブ8（囲碁，テニス，ゴルフ，ウォーキング，写真，郷土史研究，釣り，陶芸）
- ・事業（①会員相互の親睦と慶弔～支部報「ふくしま」発行，クラブ活動の充実，長寿祝記念品贈呈，逝去会員への弔意，新入会員の加入促進，②功績調書預託の推進，③本県学校教育の復興・充実及び高齢者福祉に関する要望～福島市・川俣町教育長への要望書による要望懇談，④地域教育の振興～○学校教育・社会教育関係，国際貢献・社会貢献関係，司法・更生関係機関への協力，○福島市「スクールアシスタント活用事業」への協力，○子供の安全確保対策活動，社会福祉，健全育成，伝統行事，スポーツ等の地域活動への協力，○芸術文化面での各種分野での活躍，○福島県「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」の審査協力）

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 県大会の開催

令和元年（2019年）6月に第55回県大会福島大会を福島グリーンパレスで開催した。記念講演（荒川守アナウンス学院主宰 荒川守氏，演題「ことばの力」），体験発表等充実した内容だった。県内会員約300名が参加。大会運営を通じて会員の連帯が深まり支部活動が活性化した。

平成30年（2018年）4月に準備委員会を組織，平成31年（2019年）4月に実行委員会を組織して大会を運営した。平成31年（2019年）から，県大会開催はブロック順に，開催地はブロック内支部に一任された。県北ブロックでは，各支部が順に主管することを申し合わせて，令和最初の福島大会となった。

(2) 支部創立50周年記念歌の発表

平成26年（2014年）9月の理事会で創立50年を記念して支部の歌を作ることが提案された。支部報を通じて作詞を会員から募集した。作曲は理事の尾形秀重会員に依頼した。

平成27年（2015年）5月の支部総会において，支部歌「信夫望楼の歌」が披露された。作詞した高橋重義会員が歌に込めた思いを講話した。総会要項の歌詞と楽譜を見ながらCDから流れる曲を皆で斉唱した。一同たいへん感激した総会になった。

平成29年（2017年）6月の県大会石川大会において，県北地区代表として高橋重義会員が「信夫野讃歌～創立50周年記念支部歌を詠んで」を発表した。

支部参加者全員で，福島支部歌「信夫望楼の歌」を石川大会会場に響かせた。



支部歌「信夫望楼の歌」の披露

(3) 支部報「ふくしま」第100号記念特集号を発行

平成28年（2016年）3月15日、8ページの記念特集号を発行した。100号記念に寄せる支部長、顧問、理事の寄稿や、支部報の初期から現在に至る発行号の中から掲載された記事を抽出して編集した。これまでの支部の歩みを示す貴重な資料である記念号となった。現在は9月・12月・3月に発行しており、令和6年は125号～127号の発行を計画している。

(4) クラブ活動の充実

平成17年（2005年）以降、会員自らの生きがいに満ちた人生を目指し、会員の要望に応える形でクラブを新設してきて、平成27年（2015年）には11クラブとなった。助成金によりクラブ活動の充実を図っている。会員の高齢化やコロナ禍を経て現在は8クラブになっている。年度初めに「クラブ活動紹介」を作成して各クラブの活動を会員に知らせて入会を呼びかけている。

(5) 福島市教委「スクールアシスタント活用事業」への協力

平成23年（2011年）より福島市教委からの依頼を受け、授業研究会の指導助言や子供たちへの読み聞かせなどの協力を行ってきた。現場から、研修や教育活動の充実に対する感謝の声を頂いている。ボランティア活動に協力して学校支援を一層拡大していきたい。

(6) 「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」への審査協力

平成28年（2016年）から審査協力を行っている、一次審査に3人、県北地区審査に1名を支部会員から選出し、協力した。一次審査委員の依頼人数が毎年のように増えている。

(7) 東日本大震災の支援

平成23年（2011年）3月の東日本大震災に対する県本部の「ワンコイン・サポート」事業への協力は、平成26年（2018年）より募金活動を開始し5年次29年度（2017年）まで行った。復興はいまだ途上であり新たな課題も出て来ている。

(8) 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年（2020年）からの“コロナ禍”も令和5年5月から5類に移行したことで、活動が元の形にもどりつつある。縮小や制限の中で進めた運営や方式は、県の感染症ガイドラインを踏まえて、総会・懇親会の運営や理事会等の会議や懇親会に生かしている。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長		副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
S 40	栗原 茂	池田 季蔵	白石 猪次	×	栗原 茂	×	77	100	創立
41	〃	〃	〃	×	〃	×	123	〃	
42	〃	〃	〃	×	〃	×	104	〃	恩給・年金改善陳情
43	〃	〃	〃	×	〃	池田 季蔵	118	〃	喜寿祝記念写真贈呈
44	〃	〃	〃	×	〃	〃	153	200	児童遊園地調査設置運動
45	〃	〃	〃	×	〃	〃	155	〃	老人医療費改善陳情
46	〃	〃	〃	×	〃	〃	163	300	クラブ新設
47	〃	〃	〃	×	〃	〃	180	〃	
48	池田 季蔵	佐藤 周吉	〃	×	〃	〃	192	〃	慶弔規程定める
49	〃	〃	〃	×	佐藤 周吉	陰山 亮心	218	500	
50	〃	〃	〃	×	〃	〃	220	800	
51	〃	〃	〃	×	〃	〃	240	〃	年金実態調査
52	岩谷 唯近	青木 勇夫	今井 豊蔵	×	〃	〃	250	1,000	慶弔規程改正
53	〃	〃	〃	×	菜花 利政	〃	257	〃	
54	今井 豊蔵	〃	浦井 芳蔵	×	〃	〃	269	1,200	
55	〃	〃	〃	×	長谷川秀夫	鈴木善兵衛	275	〃	
56	浦井 芳蔵	色摩 勝夫	斎藤重千代	×	〃	〃	283	1,500	事務局規程定める

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
57	〃	〃	〃	×	村上 四郎	〃	290	〃	福島大会開催運営
58	色摩 勝夫	斎藤重千代	岡部 一三	×	〃	〃	302	3,000	ここより県会費を含む
59	〃	〃	〃	×	山内 兵衛	大和田 弘	308	〃	規約改正（賛助会員新設）
60	〃	〃	〃	×	〃	〃	313	〃	規約改正（名誉会員新設）
61	〃	〃	〃	×	〃	〃	317	3,200	改訂年金諸問題講演協議
62	岡部 一三	山内 兵衛	菅野 定次	×	〃	大谷 芳男	338	〃	
63	〃	〃	〃	×	〃	〃	354	〃	
H元	〃	〃	〃	×	〃	小坂 金夫	378	〃	
2	〃	〃	〃	×	〃	〃	394	〃	会務処理手引の刊行
3	〃	〃	〃	×	〃	〃	411	〃	事務処理手引の刊行
4	〃	〃	〃	×	〃	〃	435	〃	
5	〃	〃	斎藤 正夫	×	〃	尾形 清司	451	〃	
6	〃	〃	〃	×	〃	〃	457	〃	30周年記念福島大会開催
7	山内 兵衛	斎藤 正夫	瀬川 政一	×	〃	〃	465	〃	高齢福祉陳情
8	〃	〃	〃	×	〃	×	476	〃	支部報名称を「ふくしま」
9	〃	〃	〃	×	〃	山縣 昇	489	〃	方部会員調整と方部新設
10	〃	〃	〃	×	〃	〃	490	〃	
11	〃	若杉 榮	遠藤 忠蔵	×	〃	佐久間英夫	494	〃	
12	〃	〃	〃	×	〃	〃	493	〃	支部規約改正
13	服部 秀文	〃	佐藤 晃暢	×	服部 秀文	古関 尚夫	495	〃	
14	〃	〃	本田 孝	×	〃	〃	506	〃	慶弔規程改正
15	〃	本田 孝	樋口 和史	×	〃	〃	504	〃	高齢福祉陳情内容見直し
16	本田 孝	樋口 和史	神田 紀	×	本田 孝	〃	510	〃	事務局規程改正
17	〃	高橋 薫	阿部 絵	×	〃	〃	518	〃	クラブ新設
18	〃	〃	大和田紀男	×	〃	〃	514	〃	福島大会開催運営
19	〃	〃	〃	×	〃	〃	504	〃	支部報ふくしまA4版化
20	〃	〃	〃	×	〃	〃	508	〃	クラブ新設
21	大和田紀男	〃	遠藤 慶繁	×	大和田紀男	穴戸 清道	499	4,000	支部報発行年3回へ
22	〃	〃	〃	×	〃	〃	493	〃	23. 3. 11東日本大震災発生
23	〃	〃	〃	×	〃	〃	463	〃	総会延期，義援金贈呈
24	〃	〃	〃	佐藤 敦躬	〃	〃	465	〃	支部報震災特集23～24
25	〃	〃	佐藤 敦躬	×	〃	門脇 孝徳	463	〃	ワンコイン・サポート協力
26	佐藤 敦躬	〃	大橋 勝彌	×	佐藤 敦躬	〃	460	〃	創立50年
27	〃	鈴木 暉夫	〃	×	〃	持地 隆一	441	〃	50周年記念歌「信夫望楼の歌」
28	〃	〃	〃	×	〃	〃	417	〃	28. 3 支部報第100号記念特集号
29	大橋 勝彌	〃	丹野 学	×	大橋 勝彌	〃	423	〃	
30	〃	〃	佐藤 和彦	×	〃	〃	416	〃	福島大会準備委員会組織
R元	〃	〃	〃	×	〃	〃	417	〃	第55回福島大会開催運営
2	〃	〃	〃	×	〃	〃	414	〃	総会開催中止，書面開催
3	鈴木 暉夫	星 浩次	〃	×	鈴木 暉夫	〃	401	〃	
4	鈴木 昭雄	〃	〃	×	鈴木 昭雄	〃	400	〃	
5	〃	〃	〃	×	〃	〃	398	〃	
6	〃	〃	〃	×	〃	〃	388	〃	創立60年

2 伊 達 支 部

1 支部の現況

- 会員数 113名，支部会費 2,500円，会報「伊達の松風」現在73号（年2回発行）
- 定例行事（総会・懇親会 年1回，事務局会 年3回，理事会 年2回）
- 他団体との懇親活動（教育懇談会：7つの方部ごとに現職小・中校長会と地域の教育課題を共有し，取組を協議するとともに懇親を深めている。）
- 会員同士の交流活動（研修旅行：旅行クラブ員が企画運営し，年1回会員に呼びかけ1泊2日で話題の地などを訪問し研修を深めてきた。）
- 設置クラブ3（囲碁，俳句，旅行）

2 創立50～60年の間の大きな出来事

(1) 支部規則改正

会の出納事務の透明性，適正化を図るとともに，支部組織の整理統合を進めるために，令和5年度支部総会で支部規則改正を提案し，紙面評決結果が確定した令和5年6月3日より施行となった。主な改正点は以下のとおり。

- ① 名称 福島県公立学校退職校長会伊達支部→福島県公立学校退職校長会伊達支部会
- ② 支部長，副支部長→会長，副会長
- ③ 方部役員，方部役員会→理事，理事会
- ④ 支部会則→支部会会則，支部会規則

(2) 県大会の開催

平成27年6月17日，第51回福島県公立学校退職校長会伊達大会を伊達市ふるさと会館で開催した。県内各地区から200余名の参加者を迎え，伊達地区会員62名が大会役員及び実行委員として運営に携わった。

伊達大会は，講演やアトラクション中心の過去大会に捉われず，地区会員の活動の様子を報告することに焦点化した。東日本大震災の被災でプレハブ校舎生活を余儀なくされるも明るく前向きに生きる小学生，原発事故による果樹風評被害の解決に立ち上がった中学生，震災瓦礫を前に「がれきに花を咲かせよう」活動を継続している高校生等々，頑張る子供たちを支援してきた支部会員の取組を「伊達の風」と銘打ち発表した。また，体験発表では田部洋靖氏（田村），山田明氏（南会津），鈴木雅之氏（いわき）の3名が落語や琴の実演等を交えながら発表され充実の大会となった。

(3) 支部総会の再開

新型コロナウイルス感染症の影響により，令和2年，3年，4年と3年連続でやむを得ず書面総会とした。他の会合も同様で会員同士が顔を合わせる機会がめっきり少なくなったが，コロナ禍終息とともに令和5年に対面による支部総会を4年ぶりに再開した。総会後は茶話会を企画し，久しぶりの会員同士の元気な姿を確認し合う有意義な会となった。



総会後の懇親会（令和5年4月）

(4) クラブ活動の充実

- ① 旅行クラブ…平成6年に結成されて以降，年1回クラブ世話人が計画を立てて，毎年20名程度の参加を得て，研修し懇親してきた。平成27年は台風18号のため中止。平成28年は花巻南温泉郷渡り温泉，平成29年は南三陸・気仙沼大島と旧大川小学校，平成30年は鳥海山と湧水群，令和元年は新潟県下越の村上市に旅行に行った。令和2年からはコロナ禍のため中止が続いた。そして，令和5年にクラブ員の高齢化もあり，やむを得ず廃部となった。

- ② 俳句クラブ…定例会の他、クラブ員が中心となり福島県教育委員会主催のふくしま絆ふれあい支援事業「ふくしまを十七字で奏でよう」に選考委員として協力している。

(5) 現職校長との情報交換と懇親会

伊達支部は7支部（桑折、伊達、国見、梁川、保原、霊山、月舘）に分かれ、それぞれの方部で独自の活動を展開している。活動の一部として、年に1度、現職校長との懇談会を設けている。地域の児童・生徒の活躍の様子や学校教育の成果、教育課題等々について協議し、これからの学校教育について語り合う機会となっている。また、情報交換の中で現職校長と退職校長の懇親が深まっている。

(6) ボランティア活動の推進

10年前までには、児童の宿泊学習のサポート、登下校の見守り、地域の文化や歴史学習の説明、障がい者就労支援等々、会員によるボランティア活動が盛んになってきていた。令和の時代を迎え、コロナ禍の影響で活動が停滞している分野もあるが、様々な社会活動の復活、再開を受け、会員のボランティア活動の順調な発展のために、今後も支部会報「伊達の松風」での紹介を続けていきたい。

(7) 支部会報「伊達の松風」発行

昭和62年から発行されてきた支部会報「伊達の松風」は、現在9月と3月の年2回、編集委員が中心となり編集し作成してきている。令和6年の夏で73号の発行を迎える。これからも支部会員の情報交換の貴重な場として継続して発行していきたい。楽しみに待っている先輩方がおられることを励みに…。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副	支	部	長	県	評	議	員	会員数	会費	特	記	事	項
S 40	長谷川 潔	八島 収蔵	×		×	八島 収蔵		×		34	100	創立			
41	〃	〃	×		×	〃		×		38	〃				
42	〃	〃	×		×	〃		×		39	〃				
43	〃	〃	×		×	〃		×		42	〃				
44	八島 収蔵	長谷川 潔	×		×	長谷川 潔	斎藤 一男			44	200	遊園地調査・設置運動			
45	〃	〃	×		×	〃	〃			48	〃	会員研修旅行開始～S 56			
46	〃	〃	×		×	〃	〃			53	300				
47	〃	〃	×		×	〃	〃			59	〃				
48	長谷川 潔	斎藤 一男	×		×	斎藤 一男	菅野 賢助			〃	400				
49	〃	菅野 賢助	×		×	菅野 賢助	佐藤 吉次			〃	500	会報（語らい）発行～H26			
50	〃	〃	×		×	〃	〃			63	700				
51	〃	〃	×		×	〃	〃			66	〃				
52	菅野 賢助	小野 鶴雄	×		×	佐藤 吉次	小野 鶴雄			64	900				
53	〃	〃	×		×	〃	〃			67	1,100				
54	〃	〃	×		×	〃	〃			〃	1,400				
55	〃	〃	×		×	〃	〃			73	〃				
56	八巻 佐基	小野 鶴雄	遠藤 勉	金谷 年蔵	八巻 佐基	〃				〃	〃				
57	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			74	1,500				
58	田村 操	鈴木 正一	脇屋 泰助	大橋 恭也	田村 操	鈴木 正一				71	〃	退公連と本会事務局の分離			
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			70	〃				
60	鈴木 正一	大橋 恭也	松田 徹二	萩原 盛良	鈴木 正一	大橋 恭也				72	3,000	会費大幅値上げ			

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
61	〃	〃	〃	〃	〃	萩原 盛良	77	〃	
62	萩原 盛良	菅野 甫	宮口 恵男	松田 徹二	萩原 盛良	菅野 甫	80	3,500	「伊達の松風」, 賛助会員制
63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	78	4,000	俳句クラブ, 囲碁クラブ発足
H元	〃	〃	〃	〃	菅野 甫	宮口 恵男	82	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	86	〃	第26回県大会保原大会
3	宮口 恵男	齋藤 松吉	佐藤 光	半沢 正	宮口 恵男	佐藤 光	89	〃	
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	87	〃	賛助金値上げ(1,000円)
5	〃	〃	〃	大杉 光夫	〃	〃	90	〃	
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	92	〃	旅行クラブの結成
7	佐藤 光	大友 寛	丹治金三郎	今出 昭三	今出 昭三	大戸 勇	98	〃	
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	97	〃	ゲートボールクラブ県優勝
9	〃	〃	〃	〃	佐藤 光	〃	102	〃	
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	俳句クラブ温泉で吟行会
11	今出 昭三	佐藤 昭雄	須永 英次	引地 延男	今出 昭三	須永 英次	101	〃	
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	104	〃	
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	103	〃	
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	105	〃	第38回県大会伊達大会
15	〃	須永 英次	陸 勤	大槻 太	〃	〃	109	〃	
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	会員の生涯学習の実態調査
17	須永 英次	大槻 太	佐藤 榮壽	鈴木 絢子	須永 英次	大槻 太	113	〃	
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	112	〃	
19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	116	〃	
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
21	大槻 太	佐藤 榮壽	鈴木 絢子	菅野 弘明	大槻 太	佐藤 榮壽	117	〃	
22	〃	〃	〃	〃	〃	〃	115	〃	
23	〃	〃	菅野 弘明	小野 孝雄	〃	〃	113	〃	会報で震災後の学校活動紹介
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	117	〃	
25	佐藤 榮壽	菅野 弘明	小野 孝雄	石岡 恒憲	佐藤 榮壽	菅野 弘明	118	〃	叙位・叙勲で教委と会合
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	115	〃	第51回県大会の準備
27	〃	〃	石岡 恒憲	佐藤 忠夫	〃	〃	118	〃	第51回県大会伊達大会(伊達)
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
29	石岡 恒憲	〃	佐藤 忠夫	古宮 睦男	石岡 恒憲	〃	113	〃	
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
R元	〃	佐藤 忠夫	古宮 睦男	渡辺 勝則	〃	古宮 睦男	114	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	113	〃	支部総会中止(コロナ対策)
3	古宮 睦男	〃	渡辺 勝則	蓬田 吉穂	古宮 睦男	蓬田 吉穂	111	〃	支部総会中止(コロナ対策)
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	116	〃	支部総会中止(コロナ対策)
5	〃	渡辺 勝則	蓬田 吉穂	宍戸 弘治	〃	〃	113	〃	会則改正
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

3 安 達 支 部

1 支部の現況

- 会員数 122名, 支部会費 3,500円, 会報「阿多多羅」年3回発行～現在103号発行
- 定例行事（総会・懇親会 年1回, 役員会 年2回, 事務局会 年5回, 会計監査会 2年に1回）
- 令和5年度, 6年度は, 「第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会」開催のため, 実行委員会主任・副主任会を2回, 実行委員会全体会を3回開催
- 他団体との懇親活動（現職校長との教育懇談会・懇親会 年1回→現職小・中・高校長から, 当面する教育課題の話題提供を受け, 協議, 懇談するとともに, 懇親会を開催している。）
- 会員同士の交流活動（会員研修会 年2回→支部会員による講話聴講, 「ふるさとを巡ろう」のテーマのもと, 歴史, 文化, 芸術, 民間活動などについて, 地区内に在住する講師の講話聴講や, 地区内の公共施設や史跡, 企業等の現地見学を実施し, 研修を深めている。）
- 設置クラブ1（フォトαクラブ→2か月に一度例会, 総会や教育懇談会等において活動するなど, 年4回発表の機会を設定。）

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 創立60年記念第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会の開催

令和6年6月12日(水), 二本松御苑にて, 二本松大会を開催した。本支部では, 令和5年度より実行委員会を立ち上げ各係を組織編成し, 大会運営に万全を期してきた。記念講演は「生きることは描くこと, 生きることは演じること」～大山忠作とわたし～を演題として, 女優であり, また二本松観光大使として活躍している大山采子様より父上である日本画家大山忠作氏（文化勲章受章・日展会長歴任）の生き様や人生について講話をいただいた。会員一同, 大いに感銘を受けた記念すべき講演となった。

さらには石川, 耶麻, いわきの各支部代表者より, 示唆に富む体験発表がなされ, 創立60年記念を飾る実に意義ある大会とすることができた。



講師 大山采子氏



県大会時の集合写真

(2) 安達支部会報「阿多多羅」発行「第100号」を突破, 現在第103号を発行

本支部会報「阿多多羅」は, 令和5年7月28日, 記念すべき「第100号」を発行するに至った。これまでの本支部会報発行に携わってくださった方々の努力と苦勞に, 感謝と敬意を表す特別寄稿を掲載し, 支部会員一同, 記念すべき「第100号」発行の喜びを分かち合った。そして令和6年度現在, 第103号の発行に至り, 本支部の歴史と伝統を継承しつつ, 退職校長会安達支

部の新たな歴史を刻み、安達支部会員の心の拠り所となる会報作りに努めている。

(3) 本支部会員講話による研修会及び「ふるさとを巡ろう」研修会の実施

「中国近代史に関する安達郡の人物」「我が国に現存する藩校を訪ねて」「十七字に季節の感動を込めた俳句の楽しさ」「福島県史 原瀬上原遺跡の特徴と意義」「我がスポーツ人生」「中国内モンゴル自治区植樹行について」「世界の国々を訪ねて」「塩松領石川分の成り立ち」、これらは、ここ10年の間に、本支部会員より講話頂いた演題である。その内容の深さに感銘や感動を受ける充実した研修会であった。また「ふるさとを巡ろう」をテーマとして「菅野伝授美術館」「大七酒造」「野内与吉資料館」「二本松市資料館」「新五星山展」「にほんまつ城報館」「大山忠作襖絵展」等の見学会を実施した。ふるさとの新たな一面、その素晴らしさに触れ、ふるさとへの愛着を深める研修会となった。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副	支 部 長		県 評 議 員	会員数	会費	特 記 事 項	
S 40	佐久間彦吉	朝倉 弥市	竹内 実	×	朝倉 弥市	×	32	100	10月 6 日設立総会
41	〃	〃	〃	×	〃	×	35	〃	
42	〃	〃	〃	×	〃	×	47	200	退公連との懇談会
43	〃	〃	〃	×	〃	×	53	〃	
44	〃	〃	〃	×	〃	×	64	300	教育問題懇談会、新年会
45	〃	〃	〃	×	〃	×	71	〃	
46	〃	〃	〃	×	〃	×	75	〃	
47	〃	〃	〃	×	〃	×	78	600	
48	〃	〃	〃	×	〃	×	77	1,000	老人医療無料化陳情
49	〃	〃	〃	×	〃	×	76	〃	
50	〃	〃	安井 健夫	×	竹内 実	×	79	1,200	
51	〃	〃	〃	×	〃	×	82	1,400	
52	安井 健夫	渡辺祐次郎	平田 勇	×	渡辺祐次郎	平田 勇	88	1,800	退職教職員互助会加入勧奨
53	〃	〃	〃	×	〃	〃	87	〃	
54	〃	〃	〃	×	菅野 徳政	〃	85	〃	
55	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	2,000	叙勲資料預託運動
56	〃	〃	〃	×	安井 健夫	竹内 実	82	2,600	
57	〃	〃	〃	×	平田 勇	小松 茂吉	81	〃	福島大学金谷川キャンパス視察
58	〃	〃	〃	×	〃	〃	75	〃	
59	〃	〃	〃	×	〃	〃	78	〃	現職校長が賛助会員となる
60	〃	〃	中村 昌幸	×	中村 昌幸	〃	〃	〃	第 1 回現職校長との懇談会
61	〃	〃	〃	×	〃	〃	81	3,000	第22回県大会二本松大会
62	小松 茂吉	小沢 安治	〃	×	竹内 健	〃	83	〃	クラブ活動開始
63	〃	〃	〃	×	〃	〃	87	〃	現職校長との教育懇談会 (以後、毎年実施)
H 元	〃	〃	〃	小島 喜一	佐久間文二	〃	95	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	101	〃	支部会報「阿多多羅」創刊 (B 5 版 6 頁、年 3 回発行)

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
3	〃	村越 庄太	〃	〃	〃	村越 庄太	104	4,000	
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	111	〃	支部会報10号「記念特集号」
6	〃	〃	〃	〃	三田 和夫	〃	107	〃	
7	中村 昌幸	市川 清雄	根本 三郎	〃	〃	中村 昌幸	106	〃	
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	107	〃	
9	小島 喜一	高守 正憲	本多 剛	遠藤 康代	〃	高守 正憲	109	〃	
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	117	〃	
11	〃	〃	遠藤 秋男	〃	小島 喜一	伊藤 惇	121	〃	支部会報28号（以後、A 4 版）
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	115	〃	
13	〃	大澤堂勝永	〃	武田 昭三	〃	〃	117	〃	
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	123	〃	
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	124	〃	
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
17	大澤堂勝永	久保 恒義	〃	峯岸 和男	大澤堂勝永	〃	127	〃	
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	123	〃	
19	遠藤 秋男	〃	伊藤 惇	〃	遠藤 秋男	伊藤 正	120	5,000	
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	121	〃	
21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
22	〃	〃	〃	〃	〃	〃	120	〃	第46回県大会二本松大会
23	久保 恒義	伊藤 正	石川不二雄	小松 佑	久保 恒義	國分 幸男	〃	〃	《東日本大震災発生》
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	117	〃	
25	石川不二雄	丹治 光雄	國分 幸男	石川 福子	石川不二雄	伊藤 末吉	111	〃	グループ協議の教育懇談会
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	第50回記念総会・講演会
27	〃	國分 幸男	伊藤 末吉	松浦 健二	〃	矢吹 哲三	114	〃	菅野伝授美術館鑑賞研修
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	116	〃	大七酒造見学研修
29	國分 幸男	矢吹 哲三	〃	〃	國分 幸男	佐藤 英之	117	〃	野内与吉資料館見学研修
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	113	〃	二本松歴史資料館見学研修
R元	伊藤 末吉	〃	佐藤 英之	〃	伊藤 末吉	高島 徹也	120	〃	大山忠作美術館新五星山展
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	116	〃	創立10周年記念写真展開催
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	120	〃	総会，研修会，教育懇談会
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	安達三十三観音に関する研修
5	〃	角田 恒男	〃	〃	〃	〃	〃	〃	会報「阿多多羅」第100号発行
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	122	〃	第58回退職校長会二本松大会

4 郡 山 支 部

1 支部の現況

- 会員数 404名, 支部会費 2,500円, 会報「燃える」9月現在82号(年2回発行)
- 定例行事(総会 年1回, 理事会 年1回, 方部委員会 年1回, 会員研修会 年1回, 特別委員会・クラブ長合同会議 年1回)
- 他団体との懇親活動(教育懇談会 年1回→現職小・中校長会との共催により開催, 当面する教育課題等についての話題提供を受け, 懇談・懇親会を実施している。)
- 会員同士の交流活動(会員研修会 年1回→教育, 文化, 歴史, 医療, 時事, 人生などのテーマで主に市内在住の著名人を講師に招き聴講している。)
- 設置クラブ6(園芸, 書道, 写真, 囲碁, 詩吟, 卓球)

2 創立50～60年の間の大きな出来事

(1) 担当幹事制へ移行

代表幹事に負担が集中することを避けるため, 平成27年度より「担当幹事制」へ移行した。各幹事の負担を考慮して分担した。年度当初に役割を明文化した「幹事必携」をもとに, 全員で担当内容を確認するようにしている。これにより, 幹事全員で支部を支えていく体制が整った。

(2) クラブの充実

昭和55年本支部において初めて結成された3クラブの一つ「旅行クラブ」は, 趣味の多様化等に伴い部員数の減少が続き活動継続が難しくなった。同クラブ員の意向を受け, 令和元年支部総会で廃部が承認された。これまでの貢献に対して厚く感謝され幕を閉じた。

翌令和2年度新たに「卓球クラブ」が誕生した。本クラブは平成19年度から愛好会として発足していたものである。現在部員も増え, 健康増進とともに相互の交流と親睦を深めている。

(3) 時代に即応した特別委員会の名称見直し

特別委員会の一つである「医療福祉委員会」が, 令和元年度支部総会で承認を受け, 「健康生活推進委員会」に名称を変更した。人生100年時代を見据え, 会員各人が生きがいをもち, より健康に過ごすための課題に対応できるようにするためである。地域の史跡を見学しながら散策を楽しむことを中心に活動している。地域ごとに特色ある史跡があり, 楽しみにしている会員が多い。



健康生活推進委員会 令和5年度健康ウォーク
—天性寺暴れ地蔵の体験—

(4) 会報「燃える」の充実

会報「燃える」は昭和56年度創刊された。平成17年度, B5版からA4版と大きくした。さらに令和3年度からは, 全8ページのうち表裏2ページをカラー印刷にした。会員の作品等がより忠実に伝わり, 見やすくなったと評判がよい。

(5) 第57回県大会の開催

令和5年6月14日第57回県大会郡山大会を, 郡山ビューホテルアネックスで開催することができた。記念講演(安積国造神社宮司 安藤智重氏「近代日本の礎 安積良斎」), 体験発表など充実した内容だった。コロナ禍で準備委員会, 実行委員会の活動にも制約が多かったものの, 力を結集し滞りなく実施できた。会員参加者は約230名だった。

(6) 理事会開催数の見直し

平成24年度から, 重要案件の審議や課題解決のために理事会を年2回に増やした。これによ

り審議が深まり課題を解決することができた。ただ、新型コロナウイルス感染症対応等で年1回開催にせざるを得ない状況下、特別委員会・クラブ長合同会等で課題解決のヒントを得るよう努めた結果、概ね目的を達成することができた。そのため令和6年度から年1回開催にもどすこととした。

(7) 「退職校長会研究奨励賞」の充実

郡山市教育委員会主催の「郡山市公立学校教職員研究物展」が、コロナ禍のため令和2年度は中止となった。そこで、市内教職員の研究の励みになればと、研究物展が再開された令和3年度と翌4年度に「退職校長会研究奨励賞」を例年の倍の4作品に増やした。

(8) 退職延長に伴う規約の改正

退職延長に伴い支部規約第4条【会員】を改正した。具体的には、「郡山在住の公立学校長の職にあった退職者を会員として組織する」を「郡山在住の公立学校長の職にあった退職者、および役職（校長）定年者を会員として組織する」と改正した。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
S40	鈴木 豊蔵	菅野 勝美	黒河内忠孝	星 正喜	菅野 勝美	×	101	300	退職校長会郡山支部発足
41	〃	〃	〃	〃	〃	×	110	〃	組織の強化・会員加入勧誘
42	〃	〃	〃	〃	〃	×	113	400	恩給・年金改善陳情
43	〃	〃	〃	〃	〃	星 正喜	122	〃	第4回県総会開催
44	〃	〃	加瀬 義助	〃	〃	〃	132	500	就職促進協議会結成
45	〃	〃	〃	〃	〃	〃	136	〃	
46	菅野 勝美	白石 兵庫	〃	国分 久	〃	〃	142	〃	
47	〃	〃	〃	〃	〃	白石 兵庫	144	700	第8回県総会開催
48	〃	〃	〃	〃	国分 久	〃	148	800	老人福祉の実施促進
49	〃	〃	押切 良純	〃	〃	〃	153	1,300	クラブ結成＊1
50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	161	1,500	会員名簿作成（～R6）
51	新田 清吾	佐藤 末雄	〃	森川 藤次	〃	〃	165	〃	第12回県総会開催
52			〃	〃	新田 清吾	佐藤 末雄	179	1,800	方部委員会開催（～R6）
53			〃	〃	〃	〃	186	〃	社会参加実態調査実施
54			〃	〃	〃	〃	199	2,000	会員研修会開催（～R6）
55	佐藤 末雄	佐藤 為治	〃	〃	押切 良純	〃	206	〃	第16回県総会開催＊2＊3）
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	210	2,800	会報創刊（～R6）＊4
57	〃	〃	中野 正彦	〃	中野 正彦	〃	211	〃	高齢者人材推薦
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	217	3,500	叙勲の手引き作成配付
59	〃	〃	〃	渡辺 太郎	〃	〃	225	3,300	第20回県大会開催＊5
60	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	特別委員会設置（～R6）＊6
61	渡辺 太郎	〃	〃	神野 忠雄	〃	渡辺 太郎	241	3,500	会報年2回発行（～R6）＊7・8
62	〃	〃	〃	〃	〃	〃	257	〃	
63	神野 忠雄	増井 四郎	〃	鈴木 格也	〃	神野 忠雄	259	〃	
H元	〃	〃	〃	〃	〃	〃	282	4,000	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	295	〃	功績調書作成委員を増員
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	291	〃	「私の健康法」第1集発刊
4	樽井 四郎	鈴木喜美雄	郡司 悟郎	〃	樽井 四郎	郡司 悟郎	292	〃	「私の健康法」第2集発刊
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	302	〃	会報創刊20号記念増頁発行

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
6	〃	〃	〃	佐久間守勝	〃	〃	320	〃	
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	335	〃	
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	352	〃	第32回県大会開催
9	佐久間守勝	金澤 正 星	与喜 遠藤 時江	佐久間守勝	星 与喜	354	〃		
10	〃	〃	〃	〃	〃	370	〃		写真クラブ新設（5クラブ）
11	〃	〃	森 修一	〃	金澤 正 森 修一	381	〃		
12	〃	〃	〃	〃	〃	393	〃		教職員研究物展に参加＊9
13	金澤 正	橋本 義信	〃	〃	〃	401	〃		「私の健康法」第3集発刊
14	〃	〃	〃	〃	〃	409	〃		
15	〃	〃	佐藤 正与 佐藤 光代	〃	佐藤 正与	414	〃		「年金と暮らし」第8集発刊
16	〃	〃	〃	〃	〃	413	〃		
17	橋本 義信	相楽 達 岡部 文雄	〃	橋本 義信	相楽 達	420	〃		会報A 4版構成発行
18	〃	〃	〃	〃	〃	418	〃		
19	〃	〃	〃	本名 正一	〃	414	〃		
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		会報創刊50号記念増頁発行
21	矢内 俊彦	〃	八代 育郎 津田 智	矢内 俊彦	〃	419	〃		
22	〃	〃	〃	〃	〃	403	〃		
23	津田 智	渡部 俊朗	〃	今泉 護	津田 智 八代 育郎	401	〃		総会5月末に遅れて実施
24	〃	〃	〃	〃	〃	406	〃		恩給年金委員会廃止＊10・11
25	〃	滝波 久雄 鈴木 隆一	遠藤 久夫	〃	滝波 久雄	401	〃		学校支援委員会設立＊12
26	〃	〃	〃	〃	〃	388	〃		
27	〃	〃	渡辺 嗣雄 木村 孝雄	〃	木村 孝雄	389	〃		担当幹事制移行
28	〃	〃	〃	〃	〃	399	〃		
29	木村 孝雄	折笠 悦男 大堀 満広	佐藤 光男	木村 孝雄	遠藤 育夫	411	〃		
30	〃	〃	〃	〃	〃	402	〃		
R元	佐藤 光男	〃	〃	遠藤 育夫	佐藤 光男	〃	〃		旅行クラブ廃部＊13
2	〃	〃	〃	〃	〃	414	〃		卓球クラブ新設
3	遠藤 育夫	〃	工藤 博 村上 利行	遠藤 育夫	工藤 博	413	〃		会報カラー頁＊14
4	〃	〃	〃	〃	〃	407	〃		
5	工藤 博 村上 利行	皆川 晃 皆川 正信	工藤 博	皆川 晃	410	〃			第57回県大会開催
6	〃	〃	〃	〃	〃	404	〃		理事会年1回＊15

〈特記事項補追〉

- ＊1 クラブ結成3クラブ（旅行、園芸、囲碁）
- ＊2 叙勲資料の預託開始
- ＊3 会員文書発送網の確立
- ＊4 現職校長との共催による教育懇談会
- ＊5 総会で「会員の発表」実施（～R6）
- ＊6 特別委員会設置5委員会
（医療福祉、恩給年金、就職促進、功績調査、会報作成）
- ＊7 賛助会員制を導入
- ＊8 書道クラブ新設（4クラブとなる）

- ＊9 市教職員研究物展示会に特別賞（退職校長会賞）を贈る
- ＊10 理事会の改善（年2回開催）
- ＊11 旅費・交通費のワンコイン化実施
- ＊12 詩吟クラブ新設（6クラブとなる）
- ＊13 医療福祉委員会を健康生活推進委員会に名称変更
- ＊14 「退職校長会研究奨励賞」増やす（2年間）
- ＊15 退職延長に伴う規約改正

5 岩 瀬 支 部

1 支部の現況

- 会員数 121名, 支部会費 3,000円, 会報「いわせ」現在77号（年2回発行）
- 定例行事（総会・懇親会 年1回, 役員会 年6回, 理事会 年2回）
- 他団体との懇親活動
退職・現職校長会研修会・懇談会（年1回）…現職の小・中・義務教育学校長, 県立学校長が参加, 研修会は現職と退職が1年ごとの当番制で実施。研修会後に懇談会。
- 会員同士の交流活動
懇親会（年1回）…総会後に開催。
会員研修会（年1回）…上記のとおり現職校長会と合同開催。
クラブ活動…それぞれの計画で交流。
- 設置クラブ 3
ゴルフ…月1回のコンペを目標に開催。
グラウンド・ゴルフ…月2回第2・3水曜日に開催。7・9・12月には大会を実施する計画。
囲碁…毎月第4木曜日に開催。
- 要望, 陳情活動（地区内3市町村教育委員会を訪問し, 教育条件改革, 年金等福利厚生に関する要望活動を継続陳情）

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 支部規約改正

平成27年度総会にて, 会の運営費が厳しい現状から平成28年度より会費を4,500円（県会費, 全連退負担金を含む）にすることが提案され, 承認された。

令和5年度総会にて, 賛助会員からの会費も退職校長会の運営に充てられていることを会則の中に明文化した。

(2) 県大会での体験発表

平成28年度第52回県大会会津大会にて, 石山晃司氏が「会員の学校支援活動」と題して, 下記のような, 支部会員の様々な学校支援活動について発表し, 会員の奉仕活動や地域に貢献する姿などを県内各支部に伝えることができた。

- 「国際ソロプチミスト須賀川」での女兒や女生徒への支援を中心とした活動。
- 「鏡石町学校地域本部学校応援団」としての活動。
- 退職校長も会員となっている「須賀川地方ユネスコ協会」の活動。

(3) 社会貢献活動

平成29年10月, 社会教育団体の一員として「子どもの祭典」に参加し, 来場した幼児から小学生を対象にものづくり体験活動を行った。これ以降, 現在まで毎年参加させていただいており, 子供たちの笑顔がブースいっぱいに広がる充実した活動となっている。

平成29年10～11月には, 天栄村教育委員会より教育ボランティアの要請があり, 会員の協力を得て学校応援活動を実施した。

令和3～5年には, 7～8月に行われる須賀川市民交流センター主催の「tetteスクールジュニア夏休み宿題対策&寺子屋」事業への協力依頼を受け, 会員がボランティアで, 小学生が持参したドリル等に取り組む学習を支援する活動を行った。

(4) 豪雨災害

これまで昭和61年の8.5水害, 平成23年9月水害などの大規模水害を経験してきたが, 令和元年10月, 台風19号の記録的な豪雨により, 支部会員9世帯も浸水被害に遭った。「これま

でない暑さ・未曾有の災害」等の言葉が頻繁に聞かれるようになった。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策

令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画されていた事業や活動が中止または縮小せざるを得ない状況がしばらく続いた。会員相互の交流や親睦が激減し、退職校長会の存在意義を改めて実感させられた。

(6) クラブ活動の状況

会員の交流や親睦を図っているクラブ活動だが、令和3年に会員の高齢化と会場確保の困難さから「麻雀クラブ」が休会となった。その後、令和5年度に正式に麻雀クラブが終了し、現在はゴルフ、グラウンド・ゴルフ、囲碁の3クラブを設置している。活動する会員は相変らず固定的で高齢化も進んできているが、それぞれ創意工夫しながらコロナ禍を乗り越え、活発に活動している。

(7) 現職校長を賛助会員に

これまで同様、小・中・義務教育学校33校、県立学校5校の現職校長と須賀川市教育委員会事務局の校長経験者3名を賛助会員としている。

夏休み中に退職校長会・現職校長会合同開催の研修会と懇談会を実施し、親睦を深めている。

(8) 叙位叙勲資料預託の推進強化

須賀川市、鏡石町、天栄村の各教育委員会事務局総務担当者の協力を得て、叙位叙勲手続き事務が実施されている。

会員及び退職年の現職校長に功績調書基礎資料作成のお願いをし、資料の提出を依頼している。提出された資料は、教育委員会事務局総務担当者の協力を得て、保管・管理している。



退職・現職校長会合同研修会

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
S 40	吉田 孝一	古川 弥	小針 清史	吉田 孝一	×	27	300	創立総会（7月18日）
41	〃	〃	〃	〃	×	31	〃	組織強化、各種陳情活動
42	古川 弥	小針 清史	五十嵐 要	〃	×	40	500	組織強化と諸規程づくり
43	〃	〃	〃	古川 弥	×	44	〃	退職者就職実態調査
44	〃	〃	〃	〃	×	49	〃	県中地区研修会組織
45	〃	〃	〃	〃	×	50	〃	叙勲資料作成準備
46	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	恩給年金格差調査、クラブ活動組織
47	〃	〃	〃	〃	×	52	600	
48	〃	〃	〃	〃	蓬田 ヨウ	57	〃	支部展望原稿提出、会報発行
49	〃	〃	〃	〃	〃	58	800	退職・現職校長懇談会、就職促進懇談会
50	〃	〃	〃	〃	〃	60	1,400	規約改正（会費を県負担金の倍額に）
51	〃	〃	〃	〃	〃	65	〃	恩給年金の実態調査、大正会発足
52	〃	〃	〃	〃	〃	63	〃	県退職教職員互助会加入に協力
53	〃	〃	〃	〃	〃	67	1,800	
54	〃	〃	〃	〃	〃	68	2,000	囲碁名人戦に参加
55	〃	〃	〃	〃	〃	71	〃	叙勲資料整理促進
56	吉田 佐京	西間木正巳	半谷 一三	吉田 佐京	半谷 一三	72	2,600	役員・方部理事組織替え
57	〃	〃	〃	〃	〃	81	〃	
58	〃	〃	〃	〃	〃	83	〃	

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
59	〃	〃	〃	〃	〃	86	〃	特別委員会構成（叙勲資料記入用紙準備）
60	〃	〃	〃	〃	〃	89	〃	規約一部改正，会報「いわせ」増刊
61	〃	半谷 一三	橋本 秀夫	〃	〃	93	〃	現職校長賛助会費1,000円に増額
62	〃	〃	〃	〃	〃	100	3,000	県大会準備
63	〃	〃	〃	半谷 一三	竹内 敏郎	99	〃	県須賀川大会開催，規約一部改正
H元	君島 正一	竹内 敏郎	森尾 政真	君島 正一	〃	102	〃	組織連絡網の確立
2	〃	〃	〃	〃	〃	99	〃	全連退記念事業「賀詞」の伝達，昭和会発足
3	〃	〃	大原 良夫	竹内 敏郎	大原 良夫	108	〃	顧問制度設立
4	〃	〃	〃	〃	〃	109	〃	第1回功績調書作成講習会
5	〃	〃	〃	〃	〃	108	4,000	クラブ活動促進，規約改正
6	〃	〃	〃	〃	〃	109	〃	会報「いわせ」20号到達記念事業
7	〃	〃	〃	〃	〃	115	〃	功績調書作成特別委員委嘱
8	〃	〃	〃	〃	〃	114	〃	
9	磯崎 修	佐藤 兵衛	平岩 敏男	平岩 敏男	佐藤 兵衛	120	〃	昭和会ボランティア活動開始
10	〃	〃	〃	〃	〃	124	〃	
11	〃	〃	〃	〃	〃	127	〃	須賀川大会諸準備
12	〃	〃	〃	〃	〃	128	〃	第36回県退職校長会須賀川大会開催
13	上遠野五郎	藤田 徳幸	鈴木 雄一	上遠野五郎	藤田 徳幸	〃	〃	退職・現職校長会懇親会運営改善
14	藤田 徳幸	水口 雄祐	〃	藤田 徳幸	水口 雄祐	125	〃	囲碁大会，グラウンドゴルフ大会開催
15	〃	〃	〃	〃	〃	121	〃	会則・慶弔規程一部改正，功績調書作成委員委嘱
16	〃	〃	〃	〃	〃	116	〃	会則一部改正，囲碁・グラウンドゴルフ大会年2回実施
17	水口 雄祐	川田 昌利	高谷 孝二	水口 雄祐	川田 昌利	117	〃	当年度で「昭和会」解散
18	〃	〃	〃	〃	〃	113	〃	広報「いわせ」A4版6頁で年2回発行
19	川田 昌利	金田 武士	〃	川田 昌利	金田 武士	115	〃	会津坂下大会で体験発表
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	県教育委員長を講師に現職との研修会を実施
21	〃	〃	中澤 千早			116	〃	
22	金田 武士	中澤 千早	古旗 恂	金田 武士	中澤 千早	109	〃	須賀川市内「歴史散歩」実施
23	中澤 千早	吉田 明宣	〃	中澤 千早	吉田 明宣	110	〃	東日本大震災により現職との懇談会中止
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2年ぶりに現職との懇談会実施
25	〃	東条 正記	〃	〃	東条 正記	〃	〃	市町村教育長との懇談会実施
26	〃	〃	〃	〃	〃	103	〃	
27	〃	〃	〃	〃	〃	101	〃	会則一部改正
28	〃	〃	阪路 裕	〃	〃	102	4,500	会費値上げ，県大会発表
29	八木沼智恵子	渡部 修一	〃	八木沼智恵子	渡部 修一	109	〃	子どもの祭典参加
30	〃	〃	〃	〃	〃	107	〃	
R元	〃	鈴木 和一	〃	〃	鈴木 和一	111	〃	台風19号豪雨被害
2	〃	〃	〃	〃	〃	112	〃	コロナ禍による事業中止
3	鈴木 和一	渡邊 真二	〃	鈴木 和一	渡邊 真二	116	〃	三密を避けた事業実施
4	〃	〃	〃	〃	〃	120	〃	3年ぶりに子どもの祭典参加
5	渡邊 真二	須田 元大	〃	渡邊 真二	須田 元大	122	〃	麻雀クラブ終了
6	〃	〃	〃	〃	〃	121	〃	宇津峰会活動停止

6 石 川 支 部

1 支部の現況

- 会員数 61名, 支部会費 3,500円, 会報「石かわ」現在110号（年2回発行）
- 定例行事（総会・懇親会 年1回, 理事・委員長会 年1回, 役員会 年1回）
- 委員会活動（履歴書・功績調書預託推進委員会, 会報編集委員会, 旅行委員会の3委員会）
 - *それぞれの活動
 - ◇履歴書・功績調書預託推進委員会→叙勲申請時ばかりでなく, 慶弔時にも利用する。
 - ◇会報委員会→会報年2回発行。（8月1日と3月1日）
 - ◇旅行委員会→新型コロナウイルス感染防止のため中止していた活動を令和5年度より再開。
「東日本大震災・原発事故から12年半浜通り地方の復興状況を知る旅」16名参加。
- 設置クラブ 4（文化財, ゴルフ, 園芸野草, 書道絵画）
- ボランティア活動（退職公務員連盟石川支部との共催で年2回6月, 9月に実施。令和2年度より3年間中止していた活動を令和5年度より再開。石川郡内にある特別養護老人ホーム5施設のうち, 毎年2施設で花壇の除草, 植木の剪定等を行っている。各回, 25名ほどの参加者がある。）
- 他団体との懇親活動（年1回現職校長との合同研修会を開催, 終了後懇親会）
 - *懇親活動内容
 - ◇現職校長との合同研修会8月
令和5年度：講話「歴史民俗資料館, 近時資料調査から」～地域の先人, その再評価～
講師「石川町立歴史民俗資料館 学芸員 佐原崇彦氏」 34名の参加
 - ◇ゴルフクラブ主催の合同コンペ11月
令和5年度：現職校長との交流ゴルフ 白河国際カントリークラブ 18名の参加

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 支部規約改正

- ① 規約改正
 - 令和4年4月 第11条「会員長期療養の場合は見舞金を呈する」の文言を削除
 - 令和6年4月 第4条「会員の組織」に「役職（校長）定年者」を加える
- ② 申し合わせ事項の改正
 - 令和4年4月 3規約11条に関すること「会員の長期療養1か月以上の場合, 見舞金として5,000円を呈する」の文言を削除
 - 令和6年4月 7事務局長・庶務・会計手当に関することの支給額を値上げ改正
 - 令和6年4月 8方部幹事手当に関することの支給額を値上げ改正

(2) 県大会における体験発表

- ① 令和6年 創立60年記念第58回県大会二本松大会において石川支部発表
 - 発表者は支部会員の小針良仁氏 石川町立歴史民俗資料館：調査員
 - 発表題「石川町歴史民俗資料館移転オープンにあたって」
 - 主な発表内容
 - 歴史民俗資料館の現状と移転理由及び移転事業費や工事経過
 - 新しい資料館の展示構成（展示コンセプトと5つのゾーン）
 - 館内の便利説明案内アイテム（自立走行型ロボット案内やVR展示など）

(3) 第53回福島県公立学校退職校長会石川大会の開催

- 創立40～50年（平成27年度から令和6年度）の間で支部における最も大きな出来事として挙

げておきたいのは第53回県大会石川大会（平成29年度）の開催である。小規模支部のため、県大会開催という大きな行事運営に会場や予算など幾多の不安・課題もあったが、県本部はもちろん県中南ブロック各支部のご協力・ご支援、また予算面では「ぬくもり基金」等の助成もあり、盛会に開催運営することができた。おもてなし日本一の宿と称される母畑温泉「八幡屋」を会場に、280名の参加会員相互の交流が図られ、盛況のうちに大会の目的を達成することができた。

- ・期 日 平成29年 6 月21日(水) 10：00～15：00
- ・会 場 石川町 母畑温泉「八幡屋」
- ・講 演 演題 「自由民権運動と河野広中」
講師 石陽史学会代表委員 鈴木吉重氏（石川支部会員）
- ・体験発表 福島・耶麻・相馬 各支部代表



県大会時の集合写真

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長	県 評 議 員	会員数	会費	特 記 事 項
S 40	添田 久司	十文字新寿	車田 徳治	添田 久司	×	30 500 創立総会
41	〃	〃	〃	〃	×	31 〃 総会、県大会出席
42	〃	〃	車田 藤雄	〃	×	26 〃 大東村須賀川市へ編入
43	〃	〃	〃	〃	×	〃 〃 会員の履歴書整理
44	〃	〃	〃	〃	×	28 700 恩給年金増額について陳情
45	〃	〃	〃	〃	×	32 〃 老人医療費について陳情
46	〃	〃	〃	〃	×	30 1,000 教育振興懇談会開催
47	〃	〃	〃	〃	×	28 〃 恩給年金スライド制実施陳情
48	〃	〃	〃	〃	×	31 〃 老人医療費無料化要望
49	〃	〃	〃	〃	×	29 1,500 会事務所を支部長宅に置く
50	〃	〃	〃	〃	×	31 1,700 賛助会員として現職校長加入
51	〃	〃	〃	〃	×	32 〃 恩給年金の実態調査
52	〃	〃	〃	〃	×	31 2,000 退公連と共催で叙勲祝賀会
53	〃	〃	〃	〃	×	〃 〃 退公連と共催で叙勲祝賀会
54	十文字新寿	車田 藤雄	芳賀 善男	十文字新寿	×	34 2,500 就職促進運動展開

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
55	〃	芳賀 善男	熊谷 忠	〃	×	36	〃	現職校長との懇談会
56	〃	熊谷 忠	永沼 源一	〃	×	38	〃	支部会報創刊号発行
57	〃	〃	〃	〃	×	〃	3,500	会報発行 2 号
58	〃	〃	〃	〃	熊谷 忠	40	〃	会報発行 3 号
59	〃	〃	〃	〃	〃	44	〃	会報発行 4 号
60	〃	〃	〃	〃	〃	45	〃	クラブ活動組織化する
61	〃	〃	〃	〃	〃	49	〃	退職校長代表による懇談会
62	熊谷 忠	永沼 源一	蓬田謙太郎	熊谷 忠	蓬田謙太郎	〃	〃	現職・退職代表による懇談会
63	〃	〃	〃	〃	〃	50	〃	会報発行（年 3 回）13号
H元	矢吹 廣實	南條 知一	高坂 啓作	矢吹 廣實	南條 知一	〃	〃	富岡大会で健康について発表
2	〃	〃	〃	〃	〃	53	〃	研修視察（宮城県方面）
3	南條 知一	高坂 啓作	荒川 義弥	南條 知一	高坂 啓作	54	5,000	研修視察（栃木県方面）
4	〃	〃	〃	〃	〃	55	〃	85歳以上会費半額とする
5	高坂 啓作	荒川 義弥	二瓶 保房	高坂 啓作	荒川 義弥	57	〃	懇親旅行（岩手県方面）
6	荒川 義弥	二瓶 保房	白岩 金造	荒川 義弥	二瓶 保房	〃	〃	現職校長との教育懇談会
7	草野 榮壽	小針 孝定	内田 利男	草野 榮壽	小針 孝定	56	〃	ボランティア活動実施
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	会報発行33・34・35号
9	〃	〃	〃	〃	〃	54	〃	ボランティア活動 2 回
10	〃	〃	〃	〃	〃	55	〃	懇親旅行（新潟県方面）
11	小針 孝定	鈴木俊三郎	川音 正平	小針 孝定	鈴木俊三郎	56	〃	ボランティア（さくら荘、さぎそう）
12	〃	〃	〃	〃	〃	55	〃	会報発行45・46・47号
13	〃	〃	〃	〃	〃	56	〃	90歳以上会費半額とする
14	〃	〃	〃	〃	〃	54	〃	懇親旅行（山形、秋田県方面）
15	鈴木俊三郎	本郷 孝夫	村越 傳	鈴木俊三郎	村越 傳	55	〃	現職校長との教育懇談会
16	〃	〃	〃	〃	〃	57	〃	台風により懇親旅行中止
17	〃	村越 傳	水野 純一	〃	〃	60	〃	会報発行60・61・62号
18	村越 傳	×	〃	村越 傳	水野 純一	62	〃	新会員歓迎懇親旅行（都内神社）
19	〃	水野 純一	棚瀬 英一	〃	村上 進	60	〃	現職校長と合同研修会
20	〃	〃	〃	〃	〃	61	〃	ボランティア活動 2 回
21	棚瀬 英一	車田 政美	村上 進	棚瀬 英一	飯島 裕	62	〃	会報発行72・73・74号
22	〃	〃	〃	〃	〃	61	〃	新会員歓迎懇親旅行日帰り
23	〃	〃	〃	〃	〃	59	〃	現職校長と合同研修会
24	〃	〃	〃	〃	〃	58	〃	ボランティア活動 2 回
25	村上 進	西牧 庸一	奥貫 四郎	村上 進	〃	59	〃	会報発行84・85・86号
26	〃	〃	〃	〃	〃	61	〃	歓迎懇親旅行（茨城県方面）
27	飯島 裕	〃	〃	飯島 裕	根本源太郎	60	〃	会報発行90・91・92号
28	〃	〃	〃	〃	〃	62	〃	懇親旅行（相馬）17名参加
29	〃	〃	〃	〃	矢吹 一彦	60	〃	第53回県大会石川大会開催
30	〃	〃	〃	〃	〃	57	〃	会報年 2 回発行に変更99・100号
R元	奥貫 四郎	〃	富岡 高春	奥貫 四郎	〃	60	〃	懇親旅行（会津）14名参加
2	〃	〃	〃	〃	〃	64	〃	コロナ感染のため諸活動中止
3	西牧 庸一	矢吹 一彦	〃	西牧 庸一	矢吹 伸一	66	〃	コロナ感染のため諸活動中止
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	コロナ感染のため諸活動中止
5	富岡 高春	大樂 宣和	田口 和憲	富岡 高春	〃	65	〃	会報発行109・110号
6	〃	〃	〃	〃	〃	61	〃	二本松大会（石川発表：小針良仁）

7 田 村 支 部

1 支部の概要

- 会員数 74名（支部会費 2,500円、会報「たむら」現在30号）
- 定例行事（総会・懇親会 年1回、理事会〈役員会〉年3回）
- 他団体との懇親活動
現職校長会との交流会 年1回（9月第1金曜日に行事化）
- 会員同士の交流活動
毎年会員研修旅行を実施（コロナ禍で、令和2、3年度は実施できなかったが、令和4年度より再開）
- 設置クラブ
令和6年度にクラブ活動の提案を行い、実施可能な活動より設置
- その他
小・中学校への放課後学習指導やボランティア活動等への参加奨励

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 専門部の設置

新型コロナウイルス感染症拡大防止の環境下でありながらも、その収束後において、田村支部の運営、活動等の活性化をどのように図っていくかを役員会で検討を重ね、3つの専門部を新たに組織することとした。それぞれの部に部長、副部長を置いて会務の処理にあたってもらうとともに、それぞれの専門部の部長、副部長も本会の理事となり、より広い視点から支部活動の充実を図っている。

○研修部

これまでは庶務、会計が担当していた研修や懇親旅行の企画・立案を担当することとした。
また、毎年9月に開催する「現職校長との懇親会」の連絡調整を行い実施することとした。

○広報部

田村支部会報「たむら」の発行、県公立学校退職校長会ホームページ田村支部コーナーの掲載原稿の作成等を担当するとともに、支部事業の記録、写真等を累積することとした。

○調査部

各種調査の実施や回答、功績調書の提出促進と確認等を行うこととした。

(2) 現職校長に対する退職校長会加入等に関わる意識調査の実施

学校統合による学校数の減少に伴い、地元出身の校長が減ったことに加え、年金支給年齢の引き上げや役職定年制度の導入等が、現職校長が退職後の生活設計を考える際に、退職校長会へ加入するかどうかの判断に影響をあたえるのではないかと危惧から、令和5年度末に加入意向や役職定年後の不安などについてアンケート調査を行った。

(3) 支部活動の見直しと活性化の話し合い

新型コロナウイルス感染症拡大防止期間以降、本会活動や会員相互の関係が以前に比べて疎遠化している傾向にあるとともに、会員の高齢化が進み、会合や事業への参加数が減少していることから、今後、中長期的に田村支部の組織運営、事業活動等をどのようにしていくべきかを役員会にて検討、協議を進めている。

(4) 支部活動の充実に向けて

会員の親睦事業の拡充・充実、支部内公立学校の教育振興に資する貢献活動、デジタル社会に応じた連絡体制の整備構築の必要性などがあげられている。

特に、親睦事業については、これまで継続してきた懇親研修旅行に加え、釣り、ゴルフ、パー

クゴルフ、麻雀、囲碁、テニスなどの項目を挙げ、クラブ活動を会員に提案し参加希望を募った。令和6年度は、第一段階として、希望状況に応じ実施していくこととした。

(5) 現職校長と共に

現在の教育事情や課題に関して退職校長会員の理解が疎くなりがちであることから、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2、3、4年度と中止せざるをえなかった現職校長と退職校長会会員の交流会・懇親会を4年ぶりに令和5年度から再開。交流を通し、現職校長代表による具体的な経営課題や支部内の学校の様子などを報告してもらうとともに、退職校長会活動の趣旨、退職後のライフスタイルの展望などについても懇親の中で意見交換を行うことができた。

現職校長との交流会では、事前に内容などを互いに調整し合い、話題を出し合って交流を深めてきた。今後も、激務の先生方を労い、何かあったら互いに声を掛け合うことのできる関係を育てていきたい。

総会・懇親会においては、毎年、現職小学校長会会長、現職中学校長会会長の出席をいただき開催している。



総会・懇親会時の集合写真

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副	支	部	長	県 評 議 員	会員数	会費	特 記 事 項
S 40	大谷 研明	橋本 篤世	佐藤 勝美	山口 広喜	大谷 研明	×	24	500	創立
41	〃	〃	〃	〃	〃	×	32	〃	組織強化会員増加に努力
42	〃	〃	〃	〃	〃	×	30	〃	組織強化恩給年金改善陳情
43	〃	〃	〃	〃	〃	×	〃	600	湊代議士に恩給年金陳情
44	〃	〃	〃	〃	〃	×	50	〃	退職校長会実態調査協力
45	〃	〃	〃	〃	〃	×	51	700	児童遊園地設置運動
46	〃	〃	〃	〃	〃	×	50	〃	就職促進協力
47	〃	〃	〃	〃	〃	×	47	〃	年金不均衡是正陳情
48	〃	〃	〃	〃	〃	×	43	800	老人医療費陳情
49	〃	〃	〃	〃	〃	×	47	1,000	会員名簿作成、 諸調査
50	〃	〃	吉田大丈夫	〃	〃	×	48	1,200	恩給年金陳情
51	〃	〃	〃	〃	〃	×	51	1,400	郡内教育団体との提携
52	〃	〃	〃	〃	〃	×	53	1,800	退職教職員互助会加入協力
53	〃	〃	〃	〃	〃	×	56	〃	老人医療費陳情

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
54	橋本 篤世	山田 清	渡辺 半二	佐藤 藤七	橋本 篤世	×	〃	2,000	諸調査とりまとめ
55	〃	〃	〃	〃	〃	×	57	〃	親睦旅行（岳温泉）
56	〃	〃	〃	〃	〃	×	54	3,000	同（磐梯）、囲碁将棋ク誕生
57	〃	志賀 三郎	〃	〃	〃	×	〃	〃	老人福祉の充実陳情
58	〃	〃	〃	〃	〃	渡辺 半二	〃	〃	退職校長会20周年大会参加
59	志賀 三郎	佐久間 悠	〃	〃	志賀 三郎	〃	56	〃	会員名簿作成
60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	旅行クラブ（裏磐梯）
61	佐久間 悠	塩田 正夫	〃	山田 静夫	佐久間 悠	〃	59	3,200	全連退調査協力
62	〃	〃	〃	〃	〃	〃	61	〃	旅行クラブ（二股温泉）
63	〃	佐藤 光一	宇田 良平	〃	〃	山田 静夫	63	〃	退職校長会須賀川大会協力
H元	〃	〃	〃	〃	宇田 良平	〃	67	〃	支部活動調査協力
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	70	〃	囲碁支部大会開催（～H25まで）
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	76	〃	支部慶弔規定制定
4	山田 静夫	渡邊 保男	〃	斉藤 七郎	〃	〃	73	3,500	功績調書作成資料充実
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	74	〃	「三十年のあゆみ」作成協力
6	〃	〃	〃	〃	〃	渡邊 保男	75	〃	退職校長会名簿作成
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	77	〃	功績調書作成
8	渡邊 保男	不破 敬也	〃	〃	〃	〃	78	〃	退職校長会郡山大会参加
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支部会報「たむら」1号(継続)
10	市川 守孝	佐久間末男	佐久間林作	飛田 昭栄	市川 守孝	佐久間林作	77	〃	地教委に要望書提出
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	78	〃	現職校長会との第一回交流会
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	退職校長会須賀川大会協力
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	81	〃	地教委陳情書
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	83	〃	会員親睦
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	82	〃	県中地区囲碁大会開催
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	83	〃	退職校長会白河大会協力
17	〃	佐藤 雄一	〃	〃	〃	〃	84	〃	共済年金制度の維持要求
18	佐藤 雄一	柳沼 照栄	中目 貞夫	渡辺 邦雄	佐藤 雄一	渡辺 邦雄	〃	〃	会報カラー印刷
19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	県大会開催地諸準備
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	82	〃	県大会開催・事後処理
21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	78	〃	教育実践発表会参加
22	吉田 勝人	〃	渡辺 宗一	大谷 明弘	吉田 勝人	柳沼 照栄	81	〃	共済年金等要望活動
23	〃	〃	〃	〃	〃	〃	77	〃	復興支援活動
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	73	〃	会員交流会囲碁麻雀散策懇親会
25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	72	〃	組織強化と功績調書作成に力点
26	柳沼 照栄	武田 亮	先崎 憲一	山内 敏夫	柳沼 照栄	武田 亮	77	〃	会員旅行（仙台方面）
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	71	4,000	会員研修（会津方面）
28	山内 敏夫	〃	渡邊 勝雄	先崎 憲一	山内 敏夫	〃	70	〃	会員研修（新潟方面）
29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	会員研修（山形方面）
30	船田 隆典	渡邊 勝雄	高橋 和行	會田 慶吾	船田 隆典	高橋 和行	67	〃	会員研修（日光方面）
R元	〃	〃	〃	〃	〃	〃	73	〃	会員研修（茨城方面）
2	根本 保男	會田 慶吾	佐久間光春	管野 正秀	根本 保男	佐久間光春	77	〃	コロナ禍支部事業中止(会報複数回発行)
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	79	〃	コロナ禍支部事業中止(会報複数回発行)
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	会員研修3年ぶりに再開(双葉方面)
5	〃	佐久間光春	管野 正秀	山内 光樹	〃	〃	78	〃	現職校長会との交流会4年ぶりに再開
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	74	〃	クラブ活動の検討・新設

8 西白河支部

1 支部の現況

- ・会員数 146名，支部会費 3,500円，会報「白河の関守」現在80号（年3回発行）
- ・定例行事（総会・理事会 年4回，評議員会 年2回）
- ・他団体との懇親活動（現職小・中・高校長と退職校長との研修会・交流会）
- ・会員同士の交流活動 懇親会（年1回，総会終了後開催）
- ・親睦旅行（年1回会員のみで1泊2日で実施）
- ・叙勲祝賀会（叙勲者があり，本人の出席可能な時に実施）
- ・設置クラブ 2（囲碁クラブ，ゴルフクラブ）
- ・配付作業（全連退会報，県会報「松風」，支部会報「白河の関守」，各種案内等の配付作業）
- ・組織（顧問，役員，評議員，理事，方部委員）

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 支部総会

- 毎年4月の第2土曜日に開催していた。総会後には懇親会を開催し会員同士の親睦を深めた。
- 令和2年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のために支部総会を中止し，書面での承認となった。
- 令和3年度は，新型コロナウイルス感染症防止のため支部総会のみ実施した。
- 令和4年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のために支部総会は開催せず書面による承認を行った。
- 令和5年度は，新型コロナウイルス感染症が5類になったので支部総会を実施したが，懇親会は中止となった。

(2) 支部規約改正

- ① 令和3年4月10日一部改正
- ② 令和6年4月1日に，第4条会員について，定年退職の延長に伴い，会員の対象について役職定年を迎えた校長が会員になることが可能となるように改正した。

(3) 設置クラブの変遷

本会には会員の趣味を生かすための3つのクラブを設定していたが，昨年度，里山散策クラブが休止となった。クラブ員の高齢化や減少で，活動を継続できないことなどから，クラブ数が減少傾向にある。

現在は囲碁クラブとゴルフクラブの2つのクラブとなった。新たなクラブ創設に向けて会員に声をかけているところである。

(4) 現職校長との研修会・交流会

平成9年度から現職校長との研修会・交流会を実施している。平成23年度は東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故発生により中止となった。また，令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となった。昨年度から再開した。新型コロナウイルス感染症拡大前までは，バズセッションや現状についての発表等を行ってきたが，再開後は懇親会のみを実施した。

(5) 叙勲祝賀会

会員が叙勲を受けたとき，祝賀会を行っている。令和元年度までは毎年12月の第一日曜日に実施し，40名から50名の会員が参加した。

令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施しなかった。令和5年度に令和2年度から令和5年度までの叙勲者（18名）に声をかけ実施した。

受章者2名、来賓3名、参加者38名、合計43名で実施した。

(6) 親睦旅行

毎年10月ごろに親睦旅行を行っている。担当が計画し参加者を募集し1泊2日で実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために令和2年度から4年度まで実施を控えていたが、令和5年度に4年ぶりに実施した。参加者は少なかったが充実した旅行となった。

(7) 支部会報「白河の関守」の発行

毎年3回、支部会報「白河の関守」を発行した。退職校長会の情報や支部の活動状況、会員の声等を掲載し、活動の様子を会員に伝えるとともに支部活動の記録として保管しておく。

(8) 福島県公立学校退職校長会ホームページ

令和4年度より福島県公立学校退職校長会ホームページが立ち上げられた。同時に西白河支部として、役員名簿、事業計画、支部会報「白河の関守」を掲載するようにした。

(9) 創立50周年記念事業

創立50周年記念事業として記念誌の発行と講演会を行った。

記念誌については、各学校の沿革や児童・生徒数の変遷、歴代校長等の記録と会員からのメッセージ等を記載した。また、記念講演は第51回総会の際に福島県教育庁県南教育事務所長よりご講演をいただいた。その後、記念懇親会を開催し親睦を深めた。



親睦旅行で

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副支部長	県評議員	会員数	会費	特記事項
S40	森 盛五郎	菅野 増見	鈴木 武一	大島 房美	×	44 100 9月4日設立総会、懇親会、旅行
41	〃	〃	〃	〃	×	47 〃 会員名簿作成、懇親会、研修旅行
42	〃	〃	〃	〃	×	50 〃 恩給年金改善陳情、懇親会
43	〃	〃	〃	〃	×	52 〃 加入促進
44	〃	〃	〃	〃	×	55 〃 再就職援助、会則一部変更
45	〃	〃	〃	〃	森 盛五郎	57 〃 名簿作成、研修旅行、懇親会
46	〃	〃	〃	〃	〃	60 〃 恩給年金改善陳情、研修旅行
47	〃	〃	〃	〃	〃	61 〃 現職校長との教育懇談、懇親会
48	〃	〃	〃	菅野 増見	〃	63 〃 教育懇談、福祉充実の陳情
49	〃	〃	〃	〃	〃	67 200 叙勲祝賀会、教育懇談、懇親会
50	〃	〃	円谷 幸雄	〃	〃	〃 800 10周年記念誌「白河の関守」発刊
51	菅野 増見	鈴木 五郎	〃	〃	〃	71 〃 旅想発行、諸芸展示会、再就職援助
52	〃	〃	〃	〃	〃	69 1,100 叙勲資料配付、研修旅行、懇親会
53	〃	〃	〃	〃	〃	74 〃 年金調査、諸芸展、囲碁大会

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
54	鈴木 五郎	円谷 幸雄	円谷 秀雄	鈴木 五郎	円谷 幸雄	70	1,000	叙勲祝賀会, 再就職援助, 懇親会
55	〃	〃	〃	〃	根本芳之助	69	〃	名簿作成, 叙勲資料整備, 囲碁大会
56	円谷 幸雄	田辺 易	〃	〃	〃	70	〃	叙勲祝賀会, 恩給年金改善陳情
57	〃	〃	〃	円谷 幸雄	〃	75	〃	年金調査, 懇親会
58	田辺 易	根本芳之助	〃	田辺 易	〃	80	1,200	グループ活動の促進, 研修旅行
59	〃	〃	〃	〃	〃	81	〃	活動促進, 名簿作成, 懇親会
60	〃	〃	〃	〃	〃	83	〃	20周年記念誌「白河の関守」発刊
61	〃	〃	〃	〃	〃	82	1,500	叙勲祝賀会, 研修会, 懇親会
62	根本芳之助	円谷 泰秋	今井 直行	今井 直行	〃	84	〃	囲碁クラブ発会, 研修旅行, 講演会
63	〃	〃	〃	〃	〃	87	〃	懇親会, 研修旅行, 名簿作成
H元	〃	〃	〃	室 光夫	〃	〃	〃	叙勲祝賀会, 懇親会, 研修会
2	〃	〃	〃	〃	今井 直行	89	〃	再就職援助, 研修旅行
3	〃	〃	〃	矢萩 良朔	〃	93	2,500	工場見学, 講演会, 囲碁大会
4	〃	〃	〃	〃	〃	94	〃	県公立学校退職校長会白河大会
5	〃	鈴木 淳	緑川 武	鈴木 淳	野口 五郎	105	〃	叙位叙勲資料作成援助, 研修旅行
6	〃	〃	〃	〃	緑川 武	113	〃	懇親会, 講演会, 親睦旅行
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
8	〃	〃	〃	〃	〃	121	〃	
9	矢萩 良朔	水戸亥三郎	松川 昭三	矢萩 良朔	松川 昭三	130	〃	広報紙「白河の関守」初版発行
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3,500	叙勲祝賀会, 懇親会, 講演会
11	〃	〃	〃	〃	〃	133	〃	現職校長との交流会, 研修旅行
12	〃	〃	〃	〃	〃	136	〃	会則改正 (90歳以上会費免除)
13	松本 春帆	坂本 迪郎	白坂 昇	松本 春帆	坂本 迪郎	137	〃	クラブ編成と活動, 親睦旅行
14	〃	〃	〃	〃	〃	140	〃	叙勲祝賀会, 親睦旅行, 懇親会
15	〃	〃	〃	〃	〃	147	〃	慶弔規定一部改正, 中学生カンパ
16	〃	〃	〃	〃	〃	151	〃	県公立学校退職校長会白河大会
17	〃	〃	〃	〃	〃	161	〃	創立40周年記念誌「白河の関守」発刊
18	坂本 迪郎	鈴木 忠夫	〃	鈴木 忠夫	〃	〃	〃	規約一部改正, 5グループ活動
19	〃	〃	〃	〃	〃	158	〃	規約一部改正 (役員の選び方明記)
20	〃	〃	〃	〃	〃	156	〃	叙勲祝賀会, 親睦旅行, 交流会
21	〃	〃	吉田 隆	〃	〃	152	〃	交流会, 講演会, 親睦旅行
22	〃	〃	〃	〃	〃	149	〃	
23	〃	五十嵐 剛	〃	吉田 隆	〃	140	〃	東日本大震災, 総会を除く全事業中止
24	星 輝夫	〃	〃	星 輝夫	五十嵐 剛	141	〃	交流会 (はくや) 最後の親睦旅行
25	〃	関根 直次	緑川 利衛	〃	関根 直次	139	〃	交流会 (サンルート) 親睦旅行
26	〃	〃	〃	〃	〃	140	〃	創立50周年記念誌「白河の関守」発刊
27	関根 直次	鈴木 常武	福島 俊男	関根 直次	鈴木 常武	136	5,000	50周年記念事業、記念講演・記念誌発行
28	〃	〃	〃	〃	〃	135	〃	
29	〃	〃	〃	〃	〃	134	〃	
30	福島 俊男	〃	伊藤 渉	福島 俊男	〃	133	〃	
R元	〃	〃	〃	〃	〃	140	〃	
2	〃	栗林 正樹	大戸 祐一	〃	栗林 正樹	147	〃	総会開催中止・書面議決、各事業中止
3	栗林 正樹	関根 善輝	〃	栗林 正樹	大戸 祐一	145	〃	
4	〃	〃	〃	〃	〃	148	〃	総会開催中止・書面議決
5	〃	鈴木 且雪	〃	〃	鈴木 且雪	147	〃	各事業3年ぶりに開催
6	〃	〃	〃	〃	〃	143	〃	創立60周年記念事業、記念誌作成

9 東 白 川 支 部

1 支部の現況

- 会員数 58名 • 支部会費 3,500円 • 会報「東白の松風」現在166号（年3回発行）
- 定例行事（総会・研修会・懇親会 年1回，事務局会 年2回，評議員会 年2回，監査会 年1回）
- 他団体との懇親活動（現職校長との教育懇談会 年1回→郡内の現職小・中・高校長と当面する教育課題等について話題提供を受け，懇談している。新春教育懇談会 年1回→郡内の各町村長，各町村教育長，幼稚園長，小・中・高校長，小・中教頭等が一堂に会し，教育懇談を通して幼・小・中・高教育の現状について，話題提供を受けている。支部長が代表で参加。）
- 会員同士の交流（秋の研修会と懇親会 年1回→会員の親睦と研修を深め合う目的で研修会と親睦会を実施している。会員研修会・講演会 年1回→総会時の講演会の講師に会員だけでなく，3年に1回外部講師を招き実施している。祝賀伝達 年数回→全連退から賀詞を受けられた方や百寿，珍寿を迎えられた方，叙勲等を受章された方へ祝意を表すために役員が自宅を訪問する。）
- 設置クラブ 4（山野草，東南，ゴルフ，園芸）

2 創立50～60年の間の大きな出来事

(1) 支部規約改正

- 平成27年4月，支部活動の実情を考慮し翌年からの会費値上げを決めた。
- 平成31年4月，顧問の人数と慶弔規定の一部を改正した。

(2) 教育懇談会・研修会の開催

教育懇談会は，昭和59年より役員だけによる現職校長との教育懇談会と懇親会を開催してきたが，平成16年より郡内2高校長をはじめとする現職小・中校長会，退職校長会共に全会員が参加する形になり現在に至る。退職校長会は，改めて教育の動向を知ることができ，退職校長会からは，退職後に携わった体験等について話し，大変有意義な時間である。コロナ禍でここ数年開催できなかったが，令和6年度より再開した。

研修会は，昭和60年度より，研修と親睦を目的とした研修を1泊2日で実施していたが，平成6年度より春の親睦旅行と秋の社会見学の2回となり，平成22年には春の親睦旅行が中止となり，秋の研修会と親睦会を年1回行っている。しかし，令和元年度に実施以降コロナ禍のため中止が続き，令和5年度に4年ぶりに実施したところ，会員の高齢化や退職者の再任用等で参加者が減少し，バス代の高騰もあり参加者の負担が年ごとに大きくなっていくことから，令和6年度より2年に1回の実施とした。

(3) 設置クラブ改変

平成3年に囲碁・旅行・山野草・東南の4クラブで発足したクラブ活動を平成15年に旅行クラブを廃止して，研修旅行は本会の活動とし，新たにゴルフクラブを加えた。さらに平成19年には園芸クラブを加えて5クラブでの活動が続いたが，平成29年度に囲碁クラブが休部となり，現在では4クラブが自主的に活動している。

(4) 支部会報の発行

平成2年度より会員の相互理解と交流を図ることを目的に支部会報「東白の松風」を発行している。現在は年3回の発行で166号となっている。小さな支部でもあり，会員数の減少等から担当者は紙面作りに苦慮するところもあるが，昨年度から文芸欄を設け，会員の作品（詩・俳句・川柳・書・絵等）を掲載する等紙面内容の充実を図っている。

(5) 学校等支援ボランティアバンクの活動

郡内の教育向上発展に寄与することを目的に平成21年度に設置されたこの活動も今年度で15年目を迎えた。会員個々の経験や技能等を生かし、学校及び社会教育等の要請に応じて支援や援助を行っている。平成30年6月に行われた福島県公立学校退職校長会相馬大会では、発表支部としてこれらの活動の一端を紹介した。設立の経過や活動内容はもちろん、具体例や子供の声等を示しながら発表した。他支部でも行っていることは耳にしているが、これだけ組織的、継続的に実施しているところは少ないのではないかと自負している。主な活動として、こども園での読み聞かせ、小学校での学習支援や各種検定監督、各種コンクールの審査等があげられる。また、昨年度より新たにS教育委員会から小・中学生を対象とした夏休みの宿題支援ボランティアの要請が加わり、コロナ禍で停滞していた活動が再始動している。



学習支援ボランティアの1コマ

(6) 学校数の減少

支部活動に今後懸念されるのが郡内小学校の統廃合による学校数の減少である。この10年間で14校から8校となり、学習支援ボランティア活動や現職校長との教育懇談会等、現場との交流活動に影響してくるものと思われる。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副支部長	県評議員	会員数	会費	特記事項
S40	近藤 毅二	木村 宗喬	金沢 善次	近藤 毅二	×	22 300 創立、支部会則の制定
41	〃	〃	〃	〃	×	30 〃 組織強化、会員加入増加に努力
42	〃	〃	〃	〃	×	31 〃 恩給・年金改善陳情
43	〃	〃	〃	〃	×	〃 明治百年教育回顧録発刊協力
44	〃	〃	〃	〃	×	32 500 教育予算増額陳情
45	〃	〃	〃	〃	×	36 〃 老人医療費陳情、教育問題調査
46	〃	〃	〃	〃	×	39 〃 恩給・年金調査
47	〃	〃	〃	〃	×	40 600 会員名簿発行の協力
48	〃	〃	〃	〃	×	43 900 退職者の待遇改善陳情、会則の改正
49	〃	〃	〃	〃	×	44 〃 老人医療費について陳情
50	〃	〃	〃	〃	×	45 1,100 老人医療費について陳情
51	〃	〃	佐藤 美礼	〃	×	〃 1,200 年金実態調査
52	〃	〃	〃	〃	×	46 1,600 退職教職員互助会加入協力
53	〃	〃	〃	〃	×	47 〃 老人医療費陳情、恩給年金実態調査
54	〃	〃	〃	〃	×	46 1,800 老人医療費調査
55	溝井 周一	佐藤 美礼	大野 祐喜	溝井 周一	佐藤 美礼	50 2,000 会員名簿発行の協力
56	〃	〃	〃	〃	〃	49 2,300 老人医療費陳情
57	〃	〃	〃	〃	〃	51 2,400 老人福祉の充実陳情
58	〃	〃	〃	〃	〃	53 〃 叙勲申請の手引配付
59	〃	〃	〃	〃	〃	56 2,600 現職校長会との教育懇談会開始

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
60	〃	〃	〃	〃	〃	55	〃	1泊の親睦旅行開始（菊島温泉）
61	〃	〃	〃	〃	〃	57	〃	東洋健康センターで懇親会を行う
62	〃	〃	〃	〃	〃	60	〃	叙勲申請資料作成事務説明会開催
63	佐藤 美礼	大野 祐喜	菊地 稔	大野 祐喜	藤田 茂	62	3,000	親睦旅行（いわき方面へ1泊）
H元	〃	〃	〃	佐藤 美礼	〃	65	〃	親睦旅行（南会津、栃木方面へ）
2	山本 仁一	藤田 清	薄井 芳保	山本 仁一	西牧 宏樹	68	〃	支部会報「東白の松風」第1号発行
3	〃	〃	〃	〃	〃	69	4,000	クラブ活動開始、会則の改正
4	〃	〃	〃	〃	〃	67	〃	支部評議員選出の方法改正
5	〃	〃	〃	〃	〃	65	〃	支部総会で講演会実施
6	〃	〃	〃	〃	〃	72	〃	講演会「羽黒山の築城」
7	〃	〃	〃	〃	〃	70	〃	現職校長会役員との懇談会
8	〃	薄井 芳保	宗田 季夫	〃	白石 光雄	67	〃	社会見学（棚倉文化センター）
9	〃	〃	〃	〃	〃	69	〃	支部評議員と現職校長との懇談会
10	薄井 芳保	須藤 茂治	西牧 宏樹	薄井 芳保	〃	〃	〃	親睦・研修旅行実施（福井、石川方面）
11	〃	〃	〃	〃	〃	68	〃	講演会「私の仕事と諸団体とのかかわり」
12	〃	〃	〃	〃	〃	66	〃	研修旅行（伊豆方面）
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講演会「健康雑学と教職員の感動」
14	西牧 宏樹	平野久仁雄	白石 光雄	西牧 宏樹	〃	67	〃	研修旅行（福井、金沢方面）
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講演会「教育改革の一端」
16	〃	〃	〃	〃	〃	64	〃	研修旅行（酒田飛鳥方面）
17	〃	〃	〃	〃	〃	63	〃	社会見学（プレス加工業、サミット塙工場）
18	〃	坂本 善一	木村 澄男	〃	木村 澄男	62	〃	秋の研修会と懇談会
19	〃	〃	〃	〃	〃	63	〃	クラブ活動（4から5クラブに）
20	坂本 善一	木村 澄男	白坂 瑛	坂本 善一	〃	60	〃	機関誌の発行（年3回に）
21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	学校等支援ボランティアの開始
22	木村 澄男	白坂 瑛	二瓶 正夫	木村 澄男	萩原 照夫	62	〃	5月実施の研修旅行中止
23	〃	二瓶 正夫	渡邊 勇喜	〃	山本 純	61	〃	学校等支援ボランティア活動派遣
24	〃	〃	〃	〃	〃	60	〃	秋の研修会と懇親会（いわき方面）
25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	第49回福島県公立学校退職校長会東白川大会実施
26	二瓶 正夫	渡邊 勇喜	萩原 照夫	二瓶 正夫	〃	57	〃	ワンコイン・サポート支援基金の協力
27	〃	〃	〃	〃	〃	51	〃	規約改正、次年度から会費値上げ
28	渡邊 勇喜	萩原 照夫	下重 康仁	渡邊 勇喜	郷田 均	〃	5,000	秋の研修（いわき方面）
29	〃	〃	〃	〃	〃	48	〃	クラブ（5→4）
30	萩原 照夫	下重 康仁	藤田 充	萩原 照夫	〃	54	〃	相馬大会発表
R元	〃	〃	〃	〃	〃	57	〃	講演会「知って安心相続の話」
2	〃	〃	古張 金一	〃	佐川 幸信	〃	〃	総会紙面開催
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	総会紙面開催
4	下重 康仁	古張 金一	藤田 充	下重 康仁	〃	58	〃	3年ぶりの総会
5	〃	〃	〃	〃	〃	60	〃	4年ぶり秋の研修会
6	古張 金一	藤田 充	面川 春男	古張 金一	永山 陽一	58	〃	総会等通常開催

10 北会津支部

1 支部の現況

- 会員数 220名, 支部会費 3,000円, 会報「きたあいづ」現在86号(年2回発行している。)
- 定例行事(総会 年1回, 懇親会 年2回, 幹事会 年4回, 理事会 年2回, 会津方部連絡会 年1回)
- 他団体との懇親活動(教育懇談会年1回→現職小・中学校長会と輪番で担当し, 当面する教育課題等についての懇談, 教育懇談会, 懇親会等を開催している。)
- 会員同士の交流活動(生活向上のための会員研修会年2回→教育, 文化, 歴史, 健康などのテーマで学校視察, 自然観察や史跡巡り, ニュースポーツ等を実施している。祝賀懇親会等年3回→総会後に全退連から賀詞を受けられた方や, 米寿・喜寿を迎えられた方, 叙勲等を受けられた方を囲んでの懇親会や, 役員・幹事・連絡員等で暑気払いや新年会を兼ねた懇親会を開催している。)
- 設置クラブはスキークラブ(グループライン等で各自の情報を共有して, 都合のつく何人かで滑っている。年1回→宿泊での懇親会を開催し, 交流を深めている。)

2 創立50～60年の間の大きな出来事

(1) 経費の削減・事務連絡の効率化

平成28年度より, 総会要項, 各種封筒を業者への依頼による印刷から, 事務局による手作り印刷とした。年間約10万円の削減となった。事務連絡の方法としてSMS, FAXの活用を図るとともに, 役員・幹事間でラインのグループを作り効率化を図った。

(2) 総会開催日時等の変更

従来は, 土曜日午前中の開会でお昼を挟んでの懇親会であったが, 一日の時間の有効活用を考え, 平成30年度より午後の開会とした。また, 4月土曜日はPTA歓送迎会があり, 新会員が参加しにくいという現状から令和2年度より日曜日開催とした。

(3) 県大会開催

平成28年度県大会会津大会を耶麻支部を中心に, ワシントンホテルで開催した。会津は一つの合い言葉で4支部で実行委員会を立ち上げた。当支部から14名が実行委員となって準備にあたり, 当日は74名が参加した。記念講演・体験発表等成功裏に終わった。令和2年度県大会会津大会は, 両沼支部が中心となり, 実行委員会を4支部で組織して準備したが, 新型コロナウイルス感染症の蔓延により令和3年度に延期となり, 最終的に紙面開催となった。大変残念であった。

(4) 新型コロナウイルス感染症への対応

① 各種会議等

- 総会…令和2年度総会2日前の臨時役員会において休止を決定した。令和3年度は役員改選のため講演, 懇親会無しで開催。令和4年度も講演, 懇親会なしで開催した。令和5年度は, 役員改選, 教育事務所長による講演。令和6年度は, 来賓招待, 教育事務所長講演, 懇親会を実施した。
- 現退校長研究協議会…令和2, 3年度中止。令和4年度現職中学校長会担当で河東学園を会場に協議会のみ開催。令和5年度は退職校長会が担当し, 研究協議, 懇親会



令和6年度総会・支部長あいさつ

を実施した。久しぶりに現職校長、退職校長が親しく懇親を深めた。

② 暑気払い、新年会等の中止

- ・役員・理事・幹事・連絡員に声かけ、親しく親睦を深めてきたが、令和2、3、4年度と中止し、令和5年度より再開した。新型コロナウイルス感染症の影響が完全に抜けず慎重な考えもあったが、互いに健康を確認し合うことができ、有意義な会となった。

③ 会費の一部返金

- ・令和2、3、4年度と各種活動が制限され、予定された支出が少なかったことから、規約の改正が必要な会費の減額ではなく、一部を返金することで会員へ還元した。

(5) クラブの新設

会員の福祉、交流を深めるためにクラブ活動を奨励していたが、令和4年度末にスキークラブが11名でスタートした。猪苗代スキー場を中心として、ラインで情報を交換しながら、都合のつく会員が共に楽しく滑り、年1回の泊まりがけの懇親を深めた。

(6) 会報「きたあいつ」の発行

広報部が年2回発行しているが、令和3年度に記念となる第80号を10ページに増やし発行した。対談形式を取り入れ、過去の広報部長の話などから、本会の歴史を振り返った。現在も、内容や様式に検討を加え、会員が興味関心を示す会報作りに努力している。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
S 40	甲斐 操	吉田 昌証	栗城 義雄	鈴木 兵喜	×	×	43	300	創設、規約作成
41	〃	〃	〃	〃	吉田 昌証	×	68	〃	会員加入の勧誘
42	〃	〃	〃	〃	〃	×	75	〃	県総会開催協力
43	〃	〃	〃	〃	〃	×	79	〃	慶弔規定作成* 1
44	吉田 昌証	斎藤 武士	〃	〃	〃	×	85	500	遊園地調査・設置運動
45	〃	〃	〃	〃	鈴木 兵喜	×	94	600	老人医療費に関し陳情
46	〃	〃	〃	〃	〃	×	100	800	県総会開催協力
47	〃	〃	〃	〃	甲斐 操	小林 貞治	110	〃	会員名簿作成協力
48	〃	〃	渡部 喜一	〃	鈴木 兵喜	〃	130	900	老人福祉充実促進陳情
49	〃	〃	〃	〃	平山千代美	〃	135	1,000	叙勲資料の預託奨励
50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	139	1,500	県総会開催協力
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	143	〃	老人医療費に関し陳情
52	〃	田中 平作	安部 丑亥	秋元 宏	秋元 宏	〃	145	2,000	緊急電話連絡網作成* 2
53	〃	〃	〃	〃	安部 丑亥	〃	159	〃	慶弔規定の改善
54	秋元 宏	藤山 秀雄	小林 貞治	武藤 忠衛	〃	〃	165	2,100	県総会開催協力* 3
55	〃	〃	〃	〃	秋元 宏	〃	174	2,500	会員名簿作成協力
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	175	3,000	緊急電話連絡網整備
57	〃	大須賀正美	〃	〃	〃	〃	174	〃	「長寿への道」発行
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	173	〃	県大会開催協力
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	178	〃	20周年記念誌発行協力
60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	184	3,500	規約改正
61	〃	〃	鈴木 静一	〃	〃	鈴木 静一	183	〃	
62	〃	〃	〃	渡部 義健	清水 正夫	〃	194	〃	県大会開催協力
63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	198	〃	
H 元	〃	〃	〃	〃	小林 兵郎	〃	202	4,000	* 4

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	217	〃	
3	〃	〃	×	〃	〃	×	212	4,500	県大会開催協力
4	〃	〃	高久 英夫	〃	川島 忠夫	高久 英夫	218	4,000	管内市町村長陳情（～R6）＊5
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	226	〃	方部委員会議開催
6	林 俊	渡部 連造	〃	川島 忠夫	〃	林 俊	233	4,500	
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	232	〃	第31回会津若松大会開催
8	〃	〃	保志 和吉	〃	〃	〃	237	〃	
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	248	〃	会津方部支部長連絡協議会
10	〃	川上 良男	〃	〃	〃	〃	250	〃	クラブ活動等活性委員会
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	249	〃	県大会開催協力
12	川島 忠夫	〃	澁谷 健	浅沼 恒昭	〃	浅沼 恒昭	241	〃	広報名改称「きたあいづ」
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	247	〃	支部規約慶弔規定等改正
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	267	〃	
15	浅沼 恒昭	大竹 正容	片山 俊雄	国分 久榮	片山 俊雄	〃	266	〃	県大会開催協力＊6
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	271	〃	旅費規程運用見直し
17	宗像 精	〃	五十嵐 義	玉川 圭佑	宗像 精	玉川 圭佑	276	〃	
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	274	〃	
19	〃	渡部 悦夫	〃	平野 正彦	〃	渡部 悦夫	261	〃	
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	257	〃	功績調書預託率95.5%
21	渡部 悦夫	山内 徳次	本多 勝男	野中 恒男	山内 徳次	〃	252	〃	
22	〃	〃	〃	〃	〃	〃	259	〃	次年度県大会準備活動
23	〃	〃	〃	弓田 篤	〃	〃	247	〃	第47回会津大会中止
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	249	〃	第48回会津大会開催
25	山内 徳次	新國 正明	星 美法	〃	〃	湯田 一秋	241	〃	＊7
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	236	〃	50周年記念誌作成協力
27	新國 正明	湯田 一秋	〃	〃	新國 正明	星 幸雄	233	〃	教育事務所長総会講演
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	230	〃	第52回会津大会開催
29	湯田 一秋	星 幸雄	〃	〃	湯田 一秋	星 憲隆	231	〃	磐梯町教育長総会講演
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	235	〃	日新館館長総会講演、県大会相馬大会北会津体験発表
R元	星 幸雄	星 憲隆	川上 閔男	〃	星 幸雄	齋藤 秀一	239	〃	会津東山芸妓総会講演
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	233	〃	新型コロナにより支部総会中止、第50回会津大会次年度へ延期
3	星 憲隆	齋藤 秀一	〃	栗原 孝明	星 憲隆	菊池 芳次	236	3,500	新型コロナにより第56回会津大会中止（要項の発行）
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	229	〃	現職・退職校長会教育懇談会再開（オンラインによる）
5	齋藤 秀一	菊池 芳次	〃	〃	齋藤 秀一	本田 樹	226	〃	現職・退職校長会教育懇談会、懇談会再開、役職定年制度
6	〃	〃	〃	×	〃	〃	220	4,500	総会・懇親会再開、60周年記念誌作成

〈特記事項補追〉

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ＊1 明治百年回顧録編集刊行協力 ＊2 退職教職員互助会加入協力 ＊3 現職校長会との懇談会（以後毎年開催） ＊4 会津に4年生大学をつくる促進協議会の協力 | <ul style="list-style-type: none"> ＊5 市立美術館建設要望署名運動 ＊6 会津方部連絡会規約作成 ＊7 役員・理事・幹事・連絡員の合同懇親会 |
|---|---|

11 耶 麻 支 部

1 支部の現況

- ・会員数 77名, 支部会費 3,500円, 会報「やま」(年2回発行)
- ・定例行事(総会・懇親会 年1回, 理事会 年1回)
- ・他団体との懇親活動(教育懇談会 年1回→現職小・中学校長会と当面する教育課題等について話題提供し合い懇談している。)(会津方部連絡会 年1回→会津方部4支部の代表者が一堂に会し, 支部活動について情報交換をしている。)
- ・会員同士の交流活動(研修旅行→年1回, 自然物や文化財などの見学や視察を通して, 見聞, 研修を深め会員同士の懇親を深める機会としている。)(1年の健康を祝う会→今年の互いの健康を祝し, 会員の交流と親睦を深める機会としている。)(たまり場→開催場所と時間のみを決め, 内容や参加時間に余裕をもたせ, 会員相互の交流・親睦を図る場を設けている。)
- ・設置クラブ 4(囲碁, グランドゴルフ, 藤宝会, 大人の遠足クラブ)
 - ※藤宝会→宝生流小謡本を中心に謡い, 総会等の各種行事で披露している。
 - ※大人の遠足クラブ→会津地域の魅力を探しながら, 見る, 聞く, 食べる, 歩く事を通して健康増進を図り, 社会的見識を深めている。

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 県大会開催

平成28年6月15日, 会津若松ワシントンホテルにおいて, 耶麻支部が会津地区の事務局として第52回県大会会津大会を開催した。会津4支部の協力体制構築のため会津方部連絡会の機会を生かし, 会津地区が一丸となって万全を期して取り組んだことにより, スムーズに運営することができた。令和2年度の県大会会津大会は新型コロナウイルス感染症が拡大したために令和3年度に延期された。令和3年度になっても新型コロナウイルス感染症が収まりを見せないために, 一堂に会しての大会は開催せずに紙面による発表のみとした。

(2) 支部規約改正

会員減少や高齢化によって必要となった組織のスリム化を図るために, 平成の終わり頃から支部の規約改正等について検討を重ねてきた。令和3年4月17日の支部総会において, 地区委員と地区委員会を廃止し, 理事が地区委員の役割を兼ねること, 地区の数を減らして12に改変する案が承認された。会員数等を考慮した地区の割り振りを見直すとともに, 新たに12人の理事をお願いした。総会資料や各種広報紙等の配付について, 個別に訪問する理事の移動距離が長くなるなどの負担軽減を図るために郵送担当者の人数を増やした。

(3) クラブ活動の改編

平成27年度までは囲碁, 高砂クラブ(平成20年以降は同好会), グランドゴルフ, やってみんなクラブ, サンナイジャンクラブで活動してきたが, クラブ会員数の減少等により平成28年度には囲碁, グランドゴルフ, 藤宝会の3つとなった。現在は, 令和5年度に大人の遠足クラブが発足し, 4つのクラブで活動している。支部からはクラブ会員の人数に応じた支援金を支給することにより活動の充実を図っている。

(4) 安全確保のための会場変更及び行事削減

令和2年度からのコロナ禍の中で, 様々な活動やイベントが中止や縮小を迫られる社会情勢となり, 支部の活動も制限せざるを得ないことが多くなってきた。この状況下でも規約改正などの重要案件の審議や会員の負担を減らす方策に取り組む必要があった。令和3年4月17日に行われた支部総会は, 喜多方プラザ小ホールを使用し, 広い会場で間隔をとり, マスクの着用を徹底するなどの対策を行いながら, 重要案件の審議を実施することができた。例年実施して

きた総会後の懇親会や夏休み中の現職・退職校長会教育懇談会、懇親会、研修旅行や1年の健康を祝う会など感染リスクのある活動は中止せざるを得なかった。

(5) 県大会における体験発表

① 平成29年度 第53回県大会石川大会にて「会員による学校支援活動」
大堀 浄一氏

② 令和6年度 第60回県大会二本松大会にて「人づくりの指針への関わりを通して」 神田 優子氏



令和3年度の耶麻支部総会の一場面

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副支部長	県評議員	会員数	会費	特記事項
S40	田部千賀良	磯部 兼次	×	田部千賀良 磯部 兼次	30 300	結成総会（10月15日）
41	〃	〃	×	〃 〃	39 〃	
42	〃	〃	×	〃 〃	46 500	
43	〃	〃	×	〃 〃	51 600	新春囲碁大会開始
44	三橋 重	伊東 恒蔵	×	平田 広栄 斎藤 利政	56 700	
45	〃	〃	×	〃 〃	59 〃	
46	〃	〃	×	〃 〃	62 〃	
47	〃	〃	×	〃 〃	68 800	
48	〃	〃	×	〃 〃	71 1,000	クラブ活動実施
49	〃	〃	×	〃 〃	72 〃	現職校長対退職校長親善囲碁大会
50	〃	〃	×	〃 〃	74 1,500	賛助会員実施、会誌「声」発行
51	〃	〃	×	〃 〃	78 〃	
52	〃	〃	×	〃 〃	81 2,000	
53	〃	〃	×	〃 〃	90 〃	
54	〃	〃	×	〃 〃	97 2,500	幹事増員（庶務2名、会計2名）
55	〃	〃	×	〃 〃	99 〃	
56	〃	慶徳 健	平田 広栄	慶徳 健 平田 広栄	100 3,000	
57	〃	〃	〃	〃 〃	104 〃	
58	〃	〃	〃	〃 〃	109 〃	高齢者への記念品贈呈実施
59	〃	〃	〃	〃 〃	111 〃	地区委員制（連絡情報収集）を実施
60	〃	〃	〃	今井 新吉 慶徳 健	108 4,000	
61	〃	〃	〃	〃 〃	112 〃	
62	慶徳 健	宮城 功	今井 新吉	〃 田部吉兵衛	116 〃	会津若松大会への協賛
63	〃	〃	〃	〃 〃	113 〃	
H元	〃	〃	〃	〃 〃	111 5,000	

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
2	〃	〃	〃	〃	〃	109	〃	
3	松崎健一郎	今井 新吉	伊藤 森三	松崎健一郎	長谷川次男	111	〃	慶弔規定の改正, 広報活動の充実
4	〃	〃	〃	〃	〃	118	〃	
5	〃	〃	〃	今井 新吉	〃	〃	〃	
6	〃	〃	〃	〃	福田 悦雄	121	〃	部活動の推進
7	伊藤 森三	〃	田部吉兵衛	〃	〃	119	〃	連絡網の充実, 会津若松大会への協賛
8	〃	〃	〃	〃	〃	123	〃	特別慶弔会計の設置, 会報年2回発行
9	今井 新吉	田部吉兵衛	齋藤 重幸	田部吉兵衛	荒明 誠喜	122	〃	
10	〃	〃	〃	〃	〃	125	〃	喜多方大会諸準備, 慶弔規定一部改正
11	〃	〃	〃	〃	今井 新吉	123	〃	第35回公立学校退職校長会喜多方大会
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	会費免除会員資格90歳以上
13	齋藤 重幸	渡部 多吉	荒明 誠喜	齋藤 重幸	渡部 多吉	126	〃	盆栽部を園芸部に名称変更
14	〃	〃	〃	〃	〃	124	〃	功績調書預託事業の推進
15	渡部 多吉	荒明 誠喜	齋藤 安俊	荒明 誠喜	〃	121	〃	組織改善検討委員会, 賛助会員規約改正
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	功績調書預託事業の推進
17	荒明 誠喜	齋藤 安俊	笠間三男也	〃	笠間三男也	117	〃	規約大幅改正, 事務局・クラブ活動制
18	〃	〃	〃	〃	〃	113	〃	規約一部改正(会費免除会員について)
19	齋藤 安俊	笠間三男也	金子 文哉	齋藤 安俊	〃	〃	〃	緊急連絡網による電話連絡の開始
20	笠間三男也	高畑 睦雄	〃	高畑 睦雄	〃	111	〃	高砂クラブを同好会扱い, 地区の再編
21	高畑 睦雄	金子 文哉	鈴木 充正	〃	金子 文哉	110	〃	グランドクラブの発足(8/4)
22	〃	〃	〃	〃	〃	106	〃	確認事項一部改正, 85歳以上の会員訪問
23	金子 文哉	佐藤 輝雄	〃	鈴木 充正	〃	〃	〃	確認事項一部改正, 東日本大震災募金実施
24	〃	〃	〃	〃	〃	107	〃	確認事項一部改
25	鈴木 充正	〃	津川 紀雄	〃	佐藤 輝雄	104	〃	サンナイジャンクラブ発足
26	〃	〃	〃	〃	〃	98	〃	学校等支援活動事業の開始
27	佐藤 輝雄 津川 紀雄	津川 紀雄 須田 敬	須田 敬 五十嵐昭義	佐藤 輝雄 津川 紀雄	津川 紀雄 須田 敬	92	〃	佐藤支部長が病のためご逝去
28	津川 紀雄	須田 敬	五十嵐昭義	津川 紀雄	須田 敬	89	〃	県大会の事務局を担当, クラブ活動が3クラブ
29	五十嵐昭義	大堀 浄一	矢部 宥一	五十嵐昭義	大堀 浄一	91	6,000	会費を6,000円に変更
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	規約の一部改正
R元	大堀 浄一	矢部 宥一	齋藤 文泰	大堀 浄一	矢部 宥一	96	〃	組織のスリム化を検討
2	〃	〃	〃	〃	〃	91	〃	コロナ禍で支部総会中止
3	齋藤 文泰	猪俣 薫	菅井 一良	齋藤 文泰	菅井 一良	89	〃	規約の一部改正
4	〃	〃	〃	〃	〃	87	〃	広報等の郵送者増加
5	菅井 一良	〃	阿部 充也	菅井 一良	阿部 充也	80	5,000	会費を一時的に値下げ, 大人の遠足クラブ設置
6	〃	〃	〃	〃	〃	77	〃	規約の一部改正

12 両 沼 支 部

1 支部の現況

- 会員数 86名（令和6年5月現在）、支部会費 2,500円、支部広報発行（9月、11月の2回）
- 定例行事
 - 4月…支部総会（来賓：会津教育事務所長様、会津坂下町長様、支部現職校長会連絡会会長様）、研修会（講師：支部現職校長会連絡会会長様）、会員交流会
 - 6月…県大会参加、支部広報発行（6月1回）
 - 7月～11月…各クラブ活動実施（3クラブ活動）、地区退公連行事協力（夏季、冬季休業中の学習会補助）、支部現職・退職校長教育懇談会（8月実施、1分科会；現職校長3～4名＋退職校長3名程度で、6～7分科会別の懇談・情報交換）、支部現職・退職校長合同懇親会、会員親睦健康活動（10月、地区内歴史探索ウォーキング、親ぼくボーリング大会等）、県「十七文字のふれあい」事業協力
- 他団体との懇親活動（支部小学校長会及び中学校長会と教育懇談会、同懇親会）
- 会員同士の交流活動（年度始め会員交流会、クラブ活動、支部現職・退職校長教育懇談会＋懇親会、親睦健康活動）
- 設置クラブ 3（健康麻雀クラブ；会員数15名、年2回大会実施、ゴルフクラブ；会員数9名、年1～2回コンペ実施、囲碁クラブ；会員数10名、年1回大会実施）

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 第56回福島県公立学校退職校長会会津大会紙面開催

① 会津大会の持ち方

会津大会については、会津方部北会津、耶麻、両沼、南会津の4支部がそれぞれ持ち回りで主な担当を担い、他の3支部が協力する形で実施している。

平成28年度実施された第52回県大会会津大会は耶麻支部が担当したので、第56回県大会会津大会は会津方部のローテーションにより本支部が担当した。

② 紙面開催までの経過

令和元年度に庶務枠を1名増として県大会担当とした。年度内2回の会津方部会（4支会合同事務局会）、5回の実行委員会他を計画し、実施に向けて準備が進められてきた。

新型コロナウイルスが猛威を振るい国内に於いて緊急事態宣言が発出されたことにより、県事務局では、令和2年度の県大会を1年延期すると決定した。その後緊急事態宣言は取り下げられたが、新型コロナウイルス感染症対策として様々な制限や規制の中で社会活動が行われているときに、従来どおりの行事開催には無理があると判断し、県大会は紙面開催として無事実施の運びとなった。

③ 考察

大会関係部署の立ち上げから紙面開催までの約2年半の活動から、本支会は、以下の点についてとらえ直すよい機会を得たと考えている。

ア 本会の趣旨、意義をきちんと考えていくこと

イ その上で、従来行われてきた活動を問い直すとともに、本会の趣旨、意義をより具体的に体现できるものに改善していくこと

(2) クラブ活動の設置と健康親睦活動

① 経過

令和元年度までは、支部会員の交流と健康の維持増進を図る活動として

○囲碁将棋・麻雀大会 ○研修親善旅行等

上記2つをメインに活動してきた。

これらの活動は単発的な活動であり、気軽に参加ができない等の課題を抱えていた。

そこで、継続的な活動への移行を考え、「クラブ活動設置」を検討した。

意向調査の結果、「健康麻雀」と「ゴルフ」の2つが候補に挙がり、令和2年度より「健康麻雀」と「ゴルフ」がクラブ活動として発足することになった。また本活動については、本会より活動費を支給し活動を支援する体制を整えた。



R 6 年度囲碁クラブ活動の様子

また、令和2～3年度はコロナ禍の中、囲碁将棋大会は中止となったため、大会を発展的に解消し令和4年度より囲碁将棋クラブとして活動を開始した。

もう一方の研修親善の活動については、より会員の健康維持を図る活動へと内容を検討し直して、令和4年度より健康親睦活動として地区の史跡探索活動を主として開催することにした。

② 令和6年度クラブの活動状況（クラブ員数）

○健康麻雀クラブ（15名） 年2回 ○ゴルフクラブ（9名） 年1回

○囲碁クラブ（10名） 年1回（※令和5年度より囲碁専門になった）

③ 健康親睦活動

令和4年度 羽黒城跡探索活動（会津美里町本郷地区）

令和5年度 柏木城跡探索活動（北塩原村）

令和6年度 ボウリング交流

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副支部長	県評議員	会員数	会費	特記事項
S40	田代 文弥	田中新十郎	長谷川徳雄	田中 文弥	×	31 300 支部創立、組織作り
41	〃	〃	〃	〃	×	76 〃 支部組織強化、会員確保
42	〃	〃	〃	〃	×	84 〃 恩給年金制度改善活動
43	〃	〃	〃	〃	×	87 〃 会員増の努力
44	〃	小野 右恭	〃	〃	×	96 500 教育予算確保の陳情
45	〃	〃	〃	〃	×	97 〃 老人医療費改善の陳情
46	小野 右恭	目黒 利雄	栗田 賢正	〃	×	92 600 退職者医療制度改善陳情
47	〃	〃	〃	五十嵐耕作	×	95 800 会員名簿作成
48	目黒 利雄	近藤 文夫	〃	〃	小野 右恭	99 〃 教育100周年記念協力
49	〃	〃	〃	〃	目黒 利雄	98 1,000 研修会開催
50	〃	〃	〃	〃	〃	96 1,300 創立10年記念事業協力
51	〃	〃	〃	〃	〃	94 〃 研修会、研修視察、クラブ
52	〃	〃	〃	〃	〃	96 2,000
53	〃	二瓶 礼一	〃	〃	〃	98 〃 老人問題研修会
54	〃	〃	〃	〃	〃	92 〃 再就職促進の陳情活動
55	〃	〃	〃	〃	〃	96 〃 叙位叙勲資料の整備
56	〃	〃	〃	〃	〃	107 2,800
57	〃	〃	〃	〃	〃	105 〃
58	二瓶 礼一	笠間千代一	諏江 愿	〃	二瓶 礼一	106 〃 会員名簿作成

年度	支部長	副 支 部 長		県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
59	〃	〃	〃	〃	〃	105	3,000	創立20年記念事業協力
60	〃	〃	〃	〃	〃	109	〃	青少年健全育成体制作り
61	〃	〃	〃	新井田甚助	〃	112	〃	
62	笠間千代一	新井田甚助	佐久間佐一	笠間千代一	堀 新三郎	113	〃	賛助会員制度の確立
63	〃	〃	〃	〃	〃	121	〃	社会教育活動への協力
H元	〃	〃	〃	〃	〃	120	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	116	〃	現職校長との教育懇談会
3	佐久間佐一	星 茂八	堀 新三郎	横山 十郎	〃	〃	4,000	若松大会への協力
4	〃	〃	〃	〃	〃	115	〃	
5	笠間 主税	横山 十郎	稲林 敬一	〃	笠間 主税	121	〃	創立30年記念事業協力
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
7	横山 十郎	斎藤 正	船田 宗勝	〃	船田 宗勝	127	〃	若松大会への協力
8	〃	〃	〃	〃	〃	128	〃	
9	〃	〃	〃	〃	〃	125	〃	
10	〃	〃	〃	〃	〃	126	〃	
11	斎藤 正	佐藤 孝二	佐治 靖雄	斎藤 正	佐藤 孝二	127	〃	喜多方大会への協力
12	〃	〃	〃	〃	〃	125	〃	
13	佐治 靖雄	〃	田中 宗光	佐治 靖雄	田中 宗光	119	〃	
14	〃	〃	〃	〃	〃	118	〃	
15	佐藤 孝二	江川 誠	〃	佐藤 孝二	江川 誠	117	〃	下郷大会への協力
16	〃	〃	〃	〃	〃	114	〃	創立40年記念事業協力
17	田中 宗光	千代洋一郎	角田七兵衛	田中 宗光	千代洋一郎	113	〃	
18	〃	〃	〃	〃	〃	108	〃	
19	角田七兵衛	芦沢 健	佐藤 啓二	角田七兵衛	芦沢 健	104	〃	県大会会津坂下大会開催
20	〃	〃	〃	〃	〃	103	〃	研修旅行会津文化財巡り
21	佐藤 啓二	〃	中山 雄助	佐藤 啓二	中山 雄助	102	〃	
22	〃	〃	〃	〃	〃	101	〃	
23	芦沢 健	高久 庄三	児島 昌詮	芦沢 健	高久 庄三	95	〃	総会時新入会員 0
24	〃	〃	〃	〃	〃	103	〃	
25	児島 昌詮	〃	児島 厚	児島 昌詮	〃	100	〃	
26	〃	〃	〃	〃	〃	97	〃	
27	高久 庄三	児島 厚	新井田明義	高久 庄三	児島 厚	101	〃	
28	〃	〃	〃	〃	〃	99	〃	第52回会津大会；耶麻支部
29	児島 厚	佐藤 孝信	石井 幸雄	児島 厚	佐藤 孝信	〃	〃	
30	〃	〃	〃	〃	〃	101	〃	
R元	石井 幸雄	鶴見 常夫	佐藤 玄	石井 幸雄	鶴見 常夫	105	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	支部総会中止，第56回会津大会1年延期
3	鶴見 常夫	佐藤 玄	目黒健一郎	鶴見 常夫	佐藤 玄	106	〃	支部総会中止，第56回会津大会紙面開催
4	〃	〃	〃	〃	〃	96	〃	健康親睦活動開始，3クラブ活動
5	佐藤 玄	目黒健一郎	山口 健	佐藤 玄	目黒健一郎	99	〃	支部総会実施，現職校長との懇談会再開
6	〃	〃	〃	〃	〃	86	〃	

13 南会津支部

1 支部の現状

- 会員数は現在62名、内10名（16％）は90歳以上、80代が12名（19％）である。高齢者の中で特別養護老人ホーム等に入居する方も増えてきており、本会との音信が滞るなどの問題も散見される。70代は38％、60代が27％の会員構成となっている。60代会員の内、定年延長に伴い2名は現職校長として勤務を継続している。会への勧誘のためにも、会費の減額や免除等措置の検討が急務である。
- 支部会費は3,500円で、ここ10年間変更はない。県会費等と合わせ5,000円を定期総会時に納入することになっている。欠席者は郵便局の払込取扱票での入金をお願いしているが、高齢会員の入金が滞ることが増えてきている。やはり会費免除等の対応が必要である。
- 会報「みなみあいつ」は現在24号となっている（年1回発行）。業者には依頼せず、広報部長が中心となり原稿依頼、校正を行い、全面カラー印刷・丁合し、すべての会員に届くようにしている。会員の声を丁寧に拾い上げた近況報告や自由な投稿はもちろんのこと、南会津の美しい自然や素朴な山村風景の写真、それに呼応した俳句や短歌の掲載などが好評である。
- 定例行事として定期総会を年1回、4月に開催している。総会や合同研修会の開催に合わせ、事務局会や役員・理事合同会を年2回程度開催している。
- 他団体との懇親活動として、現職・退職校長合同研修会・懇親会を年1回実施している。後述したように新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度から2年間、合同研修会・懇親会を中止としてきた。令和4年度から様々な対策を講じ合同研修会は再開したものの、懇親会はさらに2年間中止し、令和6年にようやく開催したところである。
- 会員同士の交流活動として研修会を年1回、定期総会時に南会津教育事務所長、郡小・中学校長協議会長をお招きし、県および南会津のよさを生かした教育施策、及び教育現場の現状と課題について講話を拝聴している。また、会津方部連絡会を年1回、北会津・耶麻・両沼・南会津の4方部の支部長・副支部長・事務局員が集い意見交換し、終了後に懇親会を催し相互の交流を深めている。
- クラブは設置していない。他団体（退公連）と合同でパークゴルフを年1～2回行い親睦を深めている。

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) オンライン研修の実施

令和6年の現職・退職校長合同研修会で、Web会議システムのZoomを使い、遠隔地に居る講師から話を聴く、オンライン研修を初めて実施した。講師は十文字学園女子大学教授の塚田昭一氏で、「学校のやる気を奪う犯人の正体とは？」をテーマに約80分講演をお聞きし、我々の疑問にも丁寧にお応えいただいた。「久しぶりに学校教育に関わる貴重な講演を聴くことができ、とても有意義だった」「二学期からの学校運営に意欲がかき立てられた」など大変好評であった。南会津までわざわざお越しいただかなくとも、低料金で著名な方から聞きたいお話が聞ける可能性が広がったと言える。



現職・退職校長合同研修会

(2) 支部規約の改正（令和6年）

- ① 現職校長に賛助会費として一人500円の納入を依頼してきたが、これを廃止することとし

た（理由：半強制的である。使途の報告がない。県や支部の会報配付に送料は掛かっていない等）。

- ② ①の廃止に伴い、慶弔内規を改めた。
- ③ 事務局長、庶務会計の名称を廃し「庶務」及び「会計」に改め、文言整理をした。
- ④ 県の規約改正に合わせ、第4条（組織）に「役職（校長）定年者」を加えた。

(3) 県大会の開催延期と紙面開催

令和2年、第56回県大会会津大会を会津地区4支部合同で開催すべく、前年度から運営委員会、実行委員会に加わり準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い次年度に延期することとなった。次の年も新型コロナウイルス感染者数は増え続けたため、対面での開催を断念して紙面開催とし、全会員に要項を配付した。

(4) 第59回県大会会津大会（南会津での開催）に向けて

令和7年予定の第59回県大会会津大会を南会津で開催すべく、令和5年より実施案の検討に入った。会場を御蔵入交流館（大ホール800席、駐車場350台）とし、できるだけシンプルに、極力削れるところは削減し、南会津の少ない会員数でも無理なく実施できる大会にしようということで、会員・来賓含め200名規模での開催を計画している。会津地区4支部合同での実施案検討の後、南会津町長への挨拶、会場の仮予約を済ませ、令和6年には第1回の実行委員会を開催したところである。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長				県 評 議 員		会費	特 記 事 項
S40	室井 恒平	本名勝三郎	目黒 徳松	×	×	室井 恒平	×	18 350	創立
41	〃	〃	〃	×	×	〃	×	22 〃	組織強化
42	〃	〃	〃	×	×	〃	×	19 〃	名簿作成
43	〃	〃	〃	×	×	〃	×	〃 500	県負担金増額
44	〃	〃	星 幸輔	×	×	〃	×	14 700	
45	〃	〃	〃	×	×	〃	×	18 〃	
46	〃	平野 友吉	〃	×	×	〃	×	21 〃	
47	〃	〃	〃	×	×	〃	×	22 〃	名簿作成協力（県）
48	〃	〃	〃	×	×	〃	×	〃 〃	年金スライド制陳情
49	〃	〃	〃	×	×	〃	×	23 1,000	叙勲資料預託
50	〃	〃	〃	×	×	平野 友吉	×	24 〃	
51	〃	〃	〃	×	×	〃	×	25 1,500	年金実態調査
52	星 幸輔	〃	鈴木 義雄	×	×	〃	×	26 〃	福大学部増設陳情活動
53	〃	〃	〃	×	×	〃	×	27 〃	
54	〃	〃	〃	×	×	鈴木 義雄	×	29 〃	研修旅行（～S60）
55	〃	〃	〃	×	×	〃	×	32 2,000	名簿作成協力（県）
56	玉川 真助	阿久津弥重	横山 孝一	×	×	〃	×	〃 3,500	会報「みなみ山」創刊（～S60）
57	〃	〃	〃	×	×	野中宗右衛門	×	34 〃	就職促進協議会推進
58	〃	〃	〃	×	×	〃	×	〃 〃	県（会津）大会開催協力
59	〃	〃	〃	×	×	〃	×	35 〃	現職校長入会の促進
60	芳賀真太郎	田中 義衛	〃	×	×	芳賀真太郎	星 義幸	37 〃	小中校長賛助会員入会
61	〃	〃	〃	×	×	〃	〃	〃 〃	諸事情で総会未開催
62	星 喜平	〃	室井哲之輔	赤塚 尹助	白石 永甫	星 喜平	湯田 武夫	41 〃	慶弔内規を制定＊1
63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	44 〃	県大会で体験発表

年度	支部長	副 支 部 長				県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
H元	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	〃	高校長賛助会員入会
2	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	49	〃	研修会開催（総会時）
3	田中 義衛	星 亀雄	星 勇彌	〃	×	田中 義衛	猪俣 宏平	51	4,000	県（若松）大会開催協力
4	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	55	〃	叙勲資料配布
5	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	59	〃	県大会で体験発表
6	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	61	5,000	30周年記念大会参加
7	星 義幸	五十嵐徳三	〃	関 新	×	星 義幸	佐藤 基雄	62	〃	県（若松）大会へ協力
8	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	65	〃	県（郡山）大会参加
9	〃	〃	〃	〃	×	〃	星 義夫	63	〃	県（原町）大会参加
10	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	66	〃	合同研修会開催準備＊2
11	〃	〃	馬場 惇	〃	×	〃	〃	64	〃	支部長死去＊3
12	五十嵐徳三	×	〃	〃	×	五十嵐徳三	〃	62	〃	第1回合同研修会＊4
13	星 義夫	木下 宇平	〃	〃	×	星 義夫	室井 恒男	〃	〃	広報復刊第1号発行＊5
14	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	〃	県（下郷）大会の準備
15	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	65	〃	県（下郷）大会の開催
16	〃	〃	〃	〃	×	〃	〃	64	〃	県大会で体験発表
17	室井 恒男	〃	酒井 安正	堀金 保男	堀金 良臣	室井 恒男	玉川 孫一	〃	〃	県（いわき）大会参加
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	61	〃	県（福島）大会参加
19	木下 宇平	星 恒行	〃	〃	〃	木下 宇平	佐藤 俊幸	62	〃	規約一部改正＊6
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	賀寿伝達＊7
21	〃	〃	星 富子	×	〃	〃	五十嵐利明	65	〃	県大会で体験発表
22	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	64	〃	慶弔内規一部改正
23	星 富子	平野 裕	佐藤 俊幸	横山 恒廣	〃	星 富子	〃	61	〃	規約改正，震災義援金募金
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	64	〃	アンケート調査実施＊8
25	〃	〃	〃	〃	齋藤 龍雄	〃	〃	68	〃	ワンコイン・サポート事業協力
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	67	〃	ワンコイン・サポート事業協力
27	横山 恒廣	五十嵐利明	玉川 邦夫	齋藤 龍雄	×	横山 恒廣	田中 昭一	71	〃	県大会体験発表
28	五十嵐利明	松田 幸雄	〃	〃	角田 行雄	五十嵐利明	〃	69	〃	県（会津）大会開催協力
29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	72	〃	
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
R元	〃	小林 宗一	〃	〃	齋藤 修一	〃	川島 敬章	70	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	68	〃	新型コロナ感染拡大防止のため会議懇親会中止
3	小林 宗一	星 弘明	〃	星 尚子	〃	小林 宗一	〃	65	〃	
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	総会，合同研修会再開
5	齋藤 修一	〃	〃	橘 成美	馬場 永好	齋藤 修一	星 裕次郎	62	〃	懇親会のみ中止
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	通常通りに戻る

〈特記事項補追〉

- | | |
|---|---|
| <p>＊1 研修旅行再開（退公連との共催）（～H18）</p> <p>＊2 現職・退職校長合同研修会開催準備（～H11）</p> <p>＊3 支部長代理に副支部長五十嵐徳三氏就任</p> | <p>＊4 第1回現職校長・退職校長合同研修会開催</p> <p>＊5 会報「みなみあいづ」復刊第1号</p> <p>＊6 研修旅行中止</p> <p>＊7 賀寿（室井正夫氏，横山孝一氏）</p> <p>＊8 アンケート調査「支部活動の反省」</p> |
|---|---|

14 相 馬 支 部

1 支部の現況

- 会員数 174名, 支部会費 2,500円, 会報「そうま」(年2回発行, 現在86号)
- 定例行事(支部総会・懇親会 年1回, 理事会 年1回, 会報発行 年2回, 各地区総会・懇親会 年1回)
- 他団体との懇親活動(各地区内現職小・中・高校長〈賛助会員〉との懇親会)
- 会員同士の交流活動(総会後に長寿等の祝賀懇親会, 各クラブ内の懇親会)
- 設置クラブ 園芸(盆栽, 庭木, 山野草), 囲碁, 将棋, 書道, 短歌, 俳句, 旅行, 釣り, 保健, ゴルフ, パークゴルフ

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 支部規約改正

- クラブ員の減少や震災・原発事故の影響により, 11クラブ(13編成)中6つが休部していることから, 令和5年度の総会において, 『クラブ活動実施細則』の運営の項に, クラブ活動の休部・廃部・新設について新たに明記するとともに, 総会に報告するものとした。

① 休部・廃部

クラブ活動を休部するにあたっては支部長に申し出るものとし, 休部が3年以上継続したときは, 廃部について支部長と協議するものとする。

② 新設

クラブ活動を新たに発足するにあたっては, 4名以上の会員連名で支部長にクラブの名称や活動内容を申請し, 承認を受けるものとする。

(2) 県大会開催

- 平成30年度の県大会は当初の計画では双葉支部開催の予定だったが, 東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故により双葉支部の会員が避難を余儀なくされたので, 「双葉の灯は消さない」の合い言葉のもと, 浜ブロックの相馬支部の総意として相馬市において県大会を開催した。
- 「大震災から多くの方々の支援による復興を, 感謝の気持ちで伝えること」をテーマに, 実行委員会が組織され, 県大会の企画, 準備, 当日の運営が進められた。
- 250名の参加者が見守る中, 震災後, 県下全会員の5年間にわたる「ワンコイン・サポート事業」への感謝の意を込めてVTRを放映した。「7年前を思い出させられた」「津波の怖さを改めて実感した」, さらに「復旧・復興の様子が分かった」「復興の状況を見て安堵した」との声を多くの会員から寄せられ, 記憶と記録に残る大会となった。
- 「共に生きる社会を創る」(伊達支部), 「学校等支援ボランティアバンクの活動について」(東白川支部), 「魅力ある指導者(講師)をめざして～ともに学ぶ～」(北会津支部)の体験発表は, 三者三様の取組内容で, 参加者全員が明日に向かって自分の健康維持・増進と地域社会貢献活動に向かう気持ちを高めるものとなった。
- 記念講演は, 東北福祉大学大学院教育学研究科嘱託教授の岡田清一様より, 「外天・相馬義胤の生涯～相馬中村藩の礎を築いた戦国武将～」と題して, 当地相馬藩の歴史の一部分の話がなされた。地元においてもなかなか知る機会の少ない貴重な内容であった。



相馬大会の様子

- 大きな公共の会場が震災の被害を受けて利用できず、県内各支部の参加者には不便をかけたが、相馬支部会員の強い結束力により滞りなく大会を終ることができた。参加者からも実行委員会の多くの配慮と、実行委員の献身的な活躍に対して賞賛の声が寄せられた。

(3) 叙位叙勲資料預託の推進強化

- 平成22年に支部独自の功績調書基礎資料作成の手引きを配付し、基礎資料提出依頼を継続してきた。入会時に「叙位叙勲申請の手引」が配られているものの、提出が完全ではないので、令和6年度の支部総会において改めて資料提出を文書で依頼した。

(4) 大震災の発生と会員の散逸

- 平成23年3月の東日本大震災で、膨大な数の家屋倒壊・流出、道路網・ライフラインの壊滅的喪失、物流停止による日常必需品不足などの甚大な被害により、長期間にわたって不自由な生活を余儀なくされた。震災から10年以上過ぎてモノの復旧・復興は徐々に進み、生活が元の姿に戻りつつある。しかし、福島第一原発事故の被害の影響はモノの復旧・復興のようにはいかない。故郷を離れなければならない期間が長すぎた。放射線の影響が残る場所が「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」に指定され、事故直後に避難をした会員は、原発事故前まで生活していた故郷には戻れなかった。
- 一度故郷を離れた会員の中には、避難先に生活基盤を移して生活をし、時期を見て故郷を行き来したり、故郷には戻れないと住民票を移したりする会員もいる。それはやむを得ないことであるが、それでも相馬支部会員として継続してくれているのは有り難く心強い。故郷相馬を離れていても、これからも長く相馬支部会員を続けてほしいと願うばかりである。そのためにも連絡や会報等を通して連携を保っていく必要がある。

(5) 会員の減少予測

- 少子化傾向に加え、震災・原発事故後には学校統合等により校長の数が減った。2031年度まで続く定年の段階的引き上げの期間だけでなく、教員の成り手不足の問題とともに、退職者の減少による今後の支部の組織と活動の在り方について考えていかなければならない。

(6) 会費値上げ

- 本会のねらいに沿った余裕のある支部運営にするため、令和6年度の総会において、令和7年度から会費を500円値上げして4,500円（県会費等を含む）にすることを提案し、議決した。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副支部長	県評議員	会員数	会費	特記事項
S40	牛渡 整	半谷 虎雄	鈴木 忠徳	酒井 清明	青木 英明	97 100 昭和40.7.11設立
41	〃	〃	〃	〃	〃	103 〃 恩給年金実態調査
42	〃	〃	〃	〃	〃	105 〃
43	〃	〃	〃	〃	〃	〃 〃 退職教職員就職状況調査
44	〃	〃	〃	〃	〃	111 200 慶弔慰問細則制定、クラブ規程
45	〃	〃	〃	〃	〃	116 〃 遊園地調査、喜寿祝品（45～）
46	〃	〃	〃	〃	〃	119 〃 クラブ活動軌道にのる
47	〃	〃	〃	〃	〃	126 〃 名簿作成協力
48	〃	〃	〃	〃	〃	128 400
49	〃	〃	〃	〃	〃	135 〃 組織強化
50	鈴木 忠徳	今野 清助	伏見 忠亀	松野 栄吉	安良 恒三	136 500 85歳以上特別会員（会費免除）
51	〃	〃	〃	〃	〃	141 1,500 創立10周年式典＊1
52	〃	〃	〃	〃	〃	145 1,700 県総会相馬大会、互助会加入
53	〃	〃	〃	〃	〃	149 〃 退職校長教育関係就職調査
54	〃	〃	〃	〃	〃	150 2,000 年金・恩給のしおり配付
55	〃	〃	〃	〃	〃	152 〃 会報そうま創刊号（55～）
56	今野 清助	鈴木 栄	安良 恒三	今野 清助	立花 正敏	151 3,000 叙位叙勲申請書類預託開始

年度	支部長	副 支 部 長	県 評 議 員	会員数	会費	特 記 事 項		
57	〃	酒井 清明 太田 正	〃	〃	145	〃	高齢者人材調査	
58	松野 栄吉	八島 詮	〃	松野 栄吉 木幡 豊	146	〃	米寿・白寿祝品贈呈（58～）	
59	〃	〃	〃	〃	145	3,500	創立20周年式典	
60	〃	〃	〃	太田 正	〃	156	〃	県大会原町大会
61	〃	石橋 仁	〃	〃	〃	157	〃	叙位叙勲手引配付
62	石橋 仁	遠藤 栄	牛渡 治	石橋 仁 高橋 宗福	153	〃		
63	〃	〃	〃	〃	〃	150	4,000	
H元	〃	〃	〃	遠藤 栄	〃	〃	〃	会員名簿改訂版発行
2	〃	〃	〃	〃	〃	148	〃	努力事項追加＊2
3	遠藤 栄	庄司 国男	〃	牛渡 治 高橋 義一	151	〃	〃	老人福祉問題の調査
4	〃	〃	〃	〃	〃	158	〃	生涯学習に関する調査
5	牛渡 治	高玉 英一	高橋 義一	〃	志賀 英隆	157	〃	
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
7	〃	〃	〃	〃	〃	171	〃	健康状況調査
8	高橋 義一	吉津 守雄	久保田 誠	高橋 義一	〃	181	〃	医療、福祉の状況調査
9	〃	〃	〃	〃	〃	180	〃	郡山大会で相馬支部発表
10	〃	〃	〃	〃	〃	183	〃	クラブ活動の実態調査
11	〃	〃	〃	〃	〃	185	〃	
12	斎藤 春義	〃	志賀 英隆	斎藤 春義 佐藤 老松	182	〃	〃	
13	志賀 英隆	阿部 智義	田原口保貞	志賀 英隆 濱須 義昌	183	〃	〃	
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
15	〃	佐藤 老松	但野 博貞	〃	〃	187	〃	
16	〃	〃	〃	〃	〃	185	〃	
17	佐藤 老松	濱須 義昌	松本 義治	佐藤 老松 佐藤 幸雄	192	〃	〃	クラブ（グランドゴルフ新設）
18	〃	〃	〃	〃	〃	196	〃	
19	濱須 義昌	伏見 裕方	佐藤 幸雄	濱須 義昌 高橋 清	200	〃	〃	
20	〃	〃	〃	〃	〃	197	〃	
21	〃	〃	〃	〃	大浦 清孝	199	〃	南相馬大会実施＊3
22	〃	〃	〃	〃	〃	196	〃	東日本大震災発生、東電原発事故
23	〃	〃	〃	〃	〃	197	〃	支部総会中止＊4
24	鈴木 則久	江井 芳朗	大浦 清孝	鈴木 則久 遠藤 功一	〃	〃	〃	支部総会再開
25	〃	〃	〃	〃	〃	191	〃	ワンコイン・サポート事業＊5
26	廣瀬 要人	遠藤 功一	藤本 忠平	廣瀬 要人 杉浦 伸吉	187	〃	〃	
27	〃	〃	〃	〃	〃	185	〃	
28	〃	梅田 正彰	前山 利栄	〃	〃	186	〃	
29	佐藤 史生	村山 正之	杉浦 伸吉	佐藤 史生 太田 孝泰	180	〃	〃	石川大会で体験発表
30	〃	〃	〃	〃	〃	190	〃	県大会相馬大会
R元	杉浦 伸吉	〃	高野 逸夫	杉浦 伸吉 高篠 忍	187	〃	〃	
2	〃	〃	〃	〃	〃	186	〃	支部総会・懇親会中止
3	山下 富夫	浜名 俊明	高篠 忍	山下 富夫 菊地 義広	183	〃	〃	支部総会のみ開催
4	〃	〃	〃	〃	〃	182	〃	支部総会（書面開催）
5	高野 敦夫	島 義一	渡辺 金作	高野 敦夫 井上 恭一	181	〃	〃	郡山大会で体験発表、支部総会のみ開催
6	〃	〃	〃	〃	〃	174	〃	会費値上げ議決（R7）、支部総会のみ開催

〈特記事項補追〉

- | | |
|--|---|
| <p>＊1 1年遅れて実施</p> <p>＊2 社会福祉活動への参加</p> <p>＊3 第45回福島県退職校長会南相馬大会</p> | <p>＊4 東日本大震災及び原発事故により、会員に大きな被害が生じ総会を中止した。</p> <p>＊5 ワンコイン・サポート事業により県から相馬支部に支援金送られる。</p> |
|--|---|

15 双 葉 支 部

1 支部の現況

- 会員数 103名
《未だ多くの会員が他地区に避難している。帰還者14名，県内他市町村居住者74名，県外居住者15名。》
- 支部会費 2,500円（県会費，全連退負担金を含めて4,000円を徴収）
《平成23年3月に，東京電力福島第1原子力発電所の事故が起こり，双葉郡の全町村が強制避難という状況になってからは，平成25年までの2年間，会費を徴収していなかった。平成25年からは，全国に避難している会員への全国・県・支部の会報等の郵送，会員の慶弔をするための活動に絞り，4,000円としてきたが，県事務局から多額のご支援を頂いているお陰で，何とか活動を継続することができている。しかし，郵送料の値上げへの対応や活動の充実を図るべく，令和7年度から6,000円に戻すことが，令和6年度の定期総会で決定した。》
- 会報「双風」（現在45号）
《平成24年からは，臨時号として，A4判2頁を基本として，経費を削減するために，自宅での印刷で発行。これまでに24号を発行し，会員相互の連携の絆としている。》
- 定例行事（総会・懇親会・新入会員歓迎会 年1回，執行部会 年2回，理事会 年1回）
《原発事故により平成23年は開催できず。平成24年以降，総会・懇親会・新入会員歓迎会年1回，執行部会と理事会は，合同会議として，年1回開催してきた。双葉郡内で開催可能な会場がなかったことや会員の居住地区を考慮して，郡山市内で開催してきたが，令和6年度，総会・懇親会・新入会員歓迎会を，震災後初めて双葉郡内の浪江町において開催することができた。》
- 他団体との懇親活動及び会員同士の交流活動（「紅葉会」年1回⇒現職の小・中・高校長から当面する教育課題等についての話題を提供して貰う。情報交換と懇談を通しての交流）
《原発事故により平成23年からは開催できずにいたが，平成28年から双葉郡外において再開。令和5年は，震災後初めての双葉郡内，楡葉町のJビレッジで開催することができた。》
- 設置クラブ 3（囲碁，パークゴルフ，ウォーキング）
《平成23年以降，3つのクラブについては活動していないが，令和2年より新たに，ゴルフ同好会と登山ウォーキング同好会の2つがスタートした。登山ウォーキング同好会については，相馬支部との合同開催である。》

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 「双葉の灯は消さない」（第1集・第2集）の発刊

震災後5年目の平成28年，会員相互の安否と避難の現状を確認するため「双葉の灯は消さないー東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の記憶と記録ー」（第1集）を発刊。各会員をはじめ県本部，各支部に送付。また，震災後10年目の令和4年3月，その後の会員の10年後の今を記録に残し，会員相互で確認し合うために「双葉の灯は消さない～あれから10年の今とこれから～」(第2集)を発刊。各会員をはじめ県本部，県内各支部，全国の都道府県退職校長会に送付した。



「双葉の灯は消さない」第1集(左)・第2集(右)

(2) 学校訪問の実施

郡内の学校の現状を把握し，校長先生を始めとする教職員を激励するため，支部長と執行部

役員による学校訪問を平成27年度から始め、その様子等については、支部会報「双風」や「紅葉会」などの機会を通して会員にも知らせるようにしてきた。コロナ禍で訪問を見合わせた年以外は、複数校ずつ毎年実施している。

(3) クラブ活動の再開

平成23年の震災以前に活動していたクラブについては、未だ活動できない状態が続いているが、令和2年より新たに、ゴルフ同好会と登山ウォーキング同好会の2つがスタートした。登山ウォーキング同好会については、相馬支部との合同開催である。もう少しクラブ数を増やしたいという会員の声もあり、クラブの増設については今後の課題である。



震災後初めて郡内で開催した令和5年度の「紅葉会」

(4) 他団体との懇親活動の再開

現職の小・中・高校長と退職校長が、交互に、当面する教育課題や退職後の活動等についての話題を提供し合い、情報交換と親睦を深める会（「紅葉会」）をもっていたが、平成23年の震災後は開催できない状況が続いていた。平成28年から、双葉郡外において再開。令和5年は、震災後初めて、13年ぶりに双葉郡内、楡葉町で開催することができた。

(5) 東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難からの帰還開始

双葉郡内の8町村は、この10年の間に以前の町村に徐々に帰還を果たしているが、会員の多くは、避難生活を続けたり、新たに避難先に居を構えたりしており、以前の町村に戻った会員はわずかである。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
S 40	北原 操	斉藤 一夫	坂下清次郎	猪狩三九十	×	×	22	300	創立、会報発行
41	〃	〃	〃	〃	北原 操	×	19	〃	恩給調査
42	斉藤 一夫	坂下清次郎	猪狩三九十	遠藤 景芳	斉藤 一夫	×	20	〃	
43	〃	〃	〃	〃	〃	×	29	500	規約一部改正
44	〃	〃	〃	〃	〃	×	33	〃	
45	〃	〃	〃	〃	〃	×	40	〃	クラブ活動、規約改正
46	〃	〃	〃	〃	〃	×	45	1,000	規約改正
47	〃	〃	〃	〃	〃	×	55	〃	
48	〃	〃	〃	〃	〃	門間 政夫	59	〃	
49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	58	〃	
50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	61	1,500	
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	63	2,000	現職校長と連携
52	〃	〃	〃	〃	〃	〃	69	〃	年金改善について陳情
53	〃	〃	〃	〃	〃	矢澤 一	72	〃	
54	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3,000	規約改正
55	〃	〃	〃	〃	〃	〃	73	5,000	関係諸団体との連携
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	規約一部改正
57	〃	〃	〃	〃	〃	〃	79	〃	叙勲資料の預託
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	年金改善陳情
59	遠藤 景芳	〃	古田 愿	坂本 惣助	遠藤 景芳	〃	84	〃	現職校長との懇談会
60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	86	〃	教育懇談、教育相談

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
61	〃	古田 愿	坂本 惣助	田中 泰雄	〃	〃	96	〃	教育相談（各教委ごと）
62	〃	〃	〃	〃	〃	〃	98	〃	
63	〃	〃	〃	〃	〃	松本 勉男	101	〃	
H元	〃	坂本 惣助	田中 泰雄	志賀 貞成	松本 勉男	志賀 貞成	100	〃	
2	高橋 一郎	井出 宣	堀 泰	荒 盛政	高橋 一郎	星 重良	98	〃	
3	〃	〃	〃	〃	〃	半谷 晋一	96	〃	
4	井出 宣	小笠原 弘	〃	〃	〃	〃	103	6,000	
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	102	〃	規約一部改正
6	荒 盛政	紺野 義尚	志賀 武男	橋本 正文	荒 盛政	安齊 悦夫	103	〃	年金改善要望（各教委）
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	102	〃	
8	〃	〃	〃	〃	〃	石井 宏	98	〃	
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	99	〃	
10	根本 重信	清水 茂	松本 道夫	青戸 可一	根本 重信	〃	97	〃	
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	95	〃	
12	〃	松本 道夫	青戸 可一	柴 愛吉	〃	大河原正二	93	〃	退校会大熊大会への取組
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	96	〃	37回大熊大会開催
14	柴 愛吉	坂本 和夫	小山 恒雄	石井 宏	柴 愛吉	渡辺 俊一	〃	〃	
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	97	〃	
16	坂本 和夫	小山 恒雄	石井 宏	今野 末治	坂本 和夫	杉本 幹雄	95	〃	
17	〃	〃	〃	〃	〃	〃	93	〃	
18	石井 宏	今野 末治	門馬 洋二	中野 純一	石井 宏	木幡 恭一	92	〃	
19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
20	門馬 洋二	松本 忠清	小泉 泰次	〃	門馬 洋二	青田 忠文	94	〃	
21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	97	〃	
22	高田 久夫	〃	白瀬美智男	渡邊 俊一	高田 久夫	鈴木 恵一	95	〃	
23	〃	〃	〃	〃	〃	〃	96	徴収せず	全会員原発事故強制避難
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	99	〃	臨時会報「双風」発行開始
25	江尻 邦夫	〃	松本 貞男	〃	江尻 邦夫	〃	102	4,000	
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	105	〃	臨時会報「双風」 9号
27	〃	吉田 弘見	青田 忠文	松本 貞男	〃	〃	101	〃	臨時会報「双風」10・11号
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	99	〃	震災と原発事故の記録「双葉の灯は消さない」発行
29	鈴木 恵一	〃	〃	〃	鈴木 恵一	星 秀美	103	〃	臨時会報「双風」14・15号
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	105	〃	
R元	〃	〃	遠藤 弘通	〃	〃	〃	108	〃	コロナ拡大により、各種行事中止
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	106	〃	
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	105	〃	「双葉の灯は消さない」第2集発行
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	101	〃	
5	〃	小野田敏之	〃	〃	〃	小野田敏之	100	〃	震災後初の双葉郡内での「紅葉会」開催
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	103	〃	震災後初の双葉郡内での定期総会開催

16 いわき支部

1 支部の現況

- 会員数 365名, 支部会費 4,000円, 会報「七浜」現在165号（年2回発行）
- 定例行事（総会・懇親会 年1回, 理事会 年1回, 方部委員会 年2回, クラブ部長会 年1回）
- 他団体との懇談活動
 - ◇教育懇談会 現職小中高校長会と当面する教育課題等について懇談 年1回
 - 市教育長と教育行政の現状と課題について懇談 年1回
 - 教育事務所長と教育行政上の諸問題, 指導管理行政について懇談 年1回
- ◇いわき十日会 現職校長会会員と退職校長会会員との情報交換と懇親会 年1回
- 設置クラブ 7クラブ（囲碁, 旅行, 船釣り, 園芸, 絵画, ゴルフ, バードゴルフ）

2 創立50年～60年の間の大きな出来事

(1) 支部規約改正

この時期, いわき支部会則の改正はない。

(2) 県大会開催

この時期, 県大会いわき大会の開催はない。

(3) クラブの改変

令和4年, 観賞石クラブを廃止とし, 8クラブとした。

令和5年, 俳句クラブを廃止とし, 7クラブとした。

(4) 度重なる災害と退職校長会いわき支部の対応について

- 令元年度………台風19号による水害
- 令2～5年度…新型コロナウイルス感染症の蔓延
- 令5年度………台風13号による水害

- ① 令和元年10月12日に, 台風19号がいわき市を襲い, 甚大な被害をもたらした。特に, 市内を流れる夏井川, 好間川, 鮫川などが多くの場所で決壊し, 平窪地区や好間地区などの家々で床上浸水等の大きな被害を受けた。

退職校長会いわき支部の会員の中には該当する地区に住んでいる会員も多く, 自宅が被害を受けたり長く避難を余儀なくされたりした方も多くいた。

- ② 令和2年の春頃からは, 新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し, 日本でも緊急事態宣言が出されるなどした。そして, 第2波, 第3波と感染者の増減を繰り返した。

この間の約3年半にわたり, いわき支部の活動も中止や制限をするなど大きな制約を受けた。しかし, 少人数で開催したり, 場所を工夫したりしながら, それぞれ工夫してできる範囲での活動を実施した。

- ③ 令和5年秋には, 台風13号が再びいわき市を襲い, 初めて線状降水帯が発生する等して,



初めての講演会



十日会「5年ぶりの再会」

短時間大規模降雨をもたらした。いわき市内の内郷地区等では、小規模の川が氾濫し、宮小学校や内郷第二中学校等が大きな被害を受けた。

平成27年度からの10年間を振り返ると、東日本大震災後の苦しい時期であるにもかかわらず、度重なる災害やコロナ禍に見舞われ、各会員は大きな困難に直面した10年間であった。

しかし、会員相互のコミュニケーションを大切にし、少人数での会議を実施したり、初めて「講演会」を実施したりしながら、会員同士の親交を深めてきた10年でもあった。

3 支部の組織等

会費欄は県会費、全連退負担金を含む実質集金額です。

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
S 40	千葉 右近	菅波 国尚	新家 芳美	×	日野良太郎	新家 芳美	142		昭和41年3月5日創立
41	〃	〃	〃	×	〃	〃	〃	400	支部だより創刊号発行
42	〃	〃	〃	×	〃	〃	150	〃	
43	〃	〃	〃	×	〃	〃	151	〃	支部細則、慶弔規程制定
44	〃	〃	〃	齊藤 栄一	〃	〃	165	600	第5回県総会いわき大会
45	高木 長年	〃	〃	〃	〃	片野 孝平	172	〃	
46	〃	〃	〃	〃	〃	〃	181	1,000	現職校長会と懇談会開催
47	〃	〃	〃	〃	〃	〃	193	〃	
48	〃	〃	〃	〃	〃	〃	196	1,100	第9回県総会いわき大会
49	〃	〃	〃	〃	酒井 忍	〃	204	1,500	
50	〃	〃	〃	松原 萬	〃	〃	207	1,700	
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	217	2,200	
52	〃	〃	〃	〃	〃	〃	222	2,500	
53	新家 芳美	松本 茂寿	×	〃	風間 覚雄	塚越 弘平	226	〃	顧問制設定
54	〃	〃	竹岡 傳	〃	〃	〃	238	3,100	支部スローガン創設
55	〃	〃	〃	〃	〃	〃	249	3,600	
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	258	4,500	第17回県総会いわき大会
57	〃	〃	〃	〃	〃	高杉 清寿	257	〃	
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	260	〃	青少年健全育成協議会発足
59	高杉 清寿	小松藤治郎	赤津 千町	植田 文夫	〃	〃	269	〃	
60	小松藤治郎	小泉 公明	〃	〃	〃	小松藤治郎	272	5,000	創立20周年記念大会
61	〃	〃	〃	根本 篤	〃	〃	291	5,200	市長との教育懇談会開催
62	〃	〃	〃	〃	〃	赤津 千町	299	5,500	
63	〃	〃	〃	大谷 健	大谷 健	〃	304	〃	
H 元	〃	〃	〃	〃	〃	〃	317	〃	
2	赤津 千町	高木寿一郎	鴨志田義康	〃	松本 久	〃	323	〃	
3	〃	〃	〃	山田 良	〃	高木寿一郎	347	〃	

年度	支部長	副 支 部 長			県 評 議 員		会員数	会費	特 記 事 項
4	松本 久	鈴木 一	金成 榮久	〃	〃	鈴木 四郎	352	〃	
5	〃	〃	〃	〃	金成 榮久	〃	363	〃	第29回県いわき大会
6	〃	〃	〃	高濱 兼一	〃	秋山 芳郎	375	〃	
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	388	〃	創立30周年記念大会
8	鈴木 一	磯上 昌弘	田山 末男	阿部 武	鈴木 一	〃	389	〃	
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	391	〃	
10	磯上 昌弘	阿部 郁夫	〃	〃	磯上 昌弘	〃	400	〃	
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	397	〃	
12	阿部 武	〃	〃	長谷川三雄	阿部 武	高木 清	403	〃	会報「七浜」100号発行
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	402	〃	第50回いわき十日会開催
14	阿部 郁夫	高木 清	山野 宣夫	渡邊 茂	阿部 郁夫	渡部 祐亨	406	〃	
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	415	〃	
16	高木 清	渡部 祐亨	〃	〃	高木 清	山内 正衛	419	〃	
17	〃	〃	〃	〃	〃	〃	430	〃	創立40周年記念大会、第41回県いわき大会
18	渡邊 茂	〃	猪狩 佳久	山内 正衛	渡邊 茂	三星 賢二	420	〃	
19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	418	〃	
20	渡部 祐亨	賀澤 裕三	三星 賢二	〃	渡部 祐亨	鈴木 雅之	426	〃	
21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	423	〃	
22	山内 正衛	〃	〃	鈴木 雅之	山内 正衛	増井 健二	412	〃	
23	〃	〃	〃	〃	〃	〃	390	2,000	東日本大震災に伴う対応
24	賀澤 裕三	増井 健二	〃	〃	賀澤 裕三	金山 一彦	404	5,500	
25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	409	〃	ワンコイン・サポート事業
26	三星 賢二	〃	三瓶 清	〃	三星 賢二	〃	408	〃	第50回県創立50年記念いわき大会
27	〃	鈴木 雅之	増井 健二	×	〃	〃	405	〃	
28	鈴木 雅之	増井 健二	平澤 芳朗	助川 俊一	鈴木 雅之	矢内 金五	409	〃	
29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	404	〃	
30	増井 健二	平澤 芳朗	笹川 直樹	武田 幸子	増井 健二	沢 宏一	407	〃	
R元	〃	〃	〃	〃	〃	〃	408	〃	台風19号被害
2	〃	武田 幸子	沢 宏一	根本 良政	〃	〃	401	〃	コロナ禍
3	〃	〃	〃	〃	〃	飯塚 啓文	393	〃	コロナ禍
4	沢 宏一	〃	根本 良政	飯塚 啓文	沢 宏一	村田 哲	381	〃	コロナ禍
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	373	〃	台風13号被害、4年ぶりの総会
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	365	〃	



第2章 大震災・原発事故及び 新型コロナウイルス感染症に 関わる記録

I 東日本大震災，東京電力福島第一原子力発電所事故の概要	62
II 県事務局の対応	63
III 被害・影響が顕著だった支部のその後	68
1 双葉支部	68
2 相馬支部	69
3 いわき支部	70
4 田村支部	71
5 伊達支部	72
6 岩瀬支部	73
IV 3.11から10年以上が経過して	75
V 被災地の学校のその後	77
1 浪江町立なみえ創成中学校	77
2 大熊町立学び舎ゆめの森	78
3 須賀川市立第一小学校	79
VI 新型コロナウイルス感染症の発生と対応	80
1 新型コロナウイルス感染症の発生とその影響	80
2 県事務局の対応	81
3 各支部の状況と対応	83
4 コロナ禍の学校では	88
◇郡山市立芳山小学校	88
◇会津若松市立第一中学校	88
◇福島県立福島高等学校	89
* 福島県公立学校退職校長会会則並びに規程	90
* 令和6年度福島県公立学校退職校長会役員一覧	93
* 参考文献等，編集後記	94



I 東日本震災，東京電力福島第一原子力発電所事故の概要

1 東日本大震災

平成23年（2011年）3月11日午後2時46分、マグニチュード9の東北地方太平洋沖地震（最大震度7）が発生し、広範囲に及ぶ太平洋沿岸に巨大津波が襲来した。さらに余震の頻発により未曾有の大規模地震が長期にわたり続いた。また、死者行方不明者は1万8千人を超え、平成26年7月4日現在29万人以上の人々が避難を余儀なくされた（復興庁調べ）。

2 東京電力福島第一原子力発電所事故

平成23年（2011年）3月13日から3月15日にかけて東京電力福島第一原子力発電所事故が起こった。大津波により電源を喪失し、原子炉内部と核燃料プールへ冷却水が送れず、1～3号機の全炉心溶融（メルトダウン）を起こし、水素爆発した。大量の放射性物質が放出され、浜通り地域の人々は避難を強いられるなど県内外に大きな影響を与えた。

その後、浜通り・中通りを中心に放射能に汚染された地域の除染が行われ、それらの除染土は原発周辺の中間貯蔵施設に集められた。また、建物やインフラなどのライフラインの復旧・復興は進んだが、放射線の影響で浜通り地域（特に双葉地区）では避難先から帰還できないでいる人々が多い状況が14年経った今でも続いている。

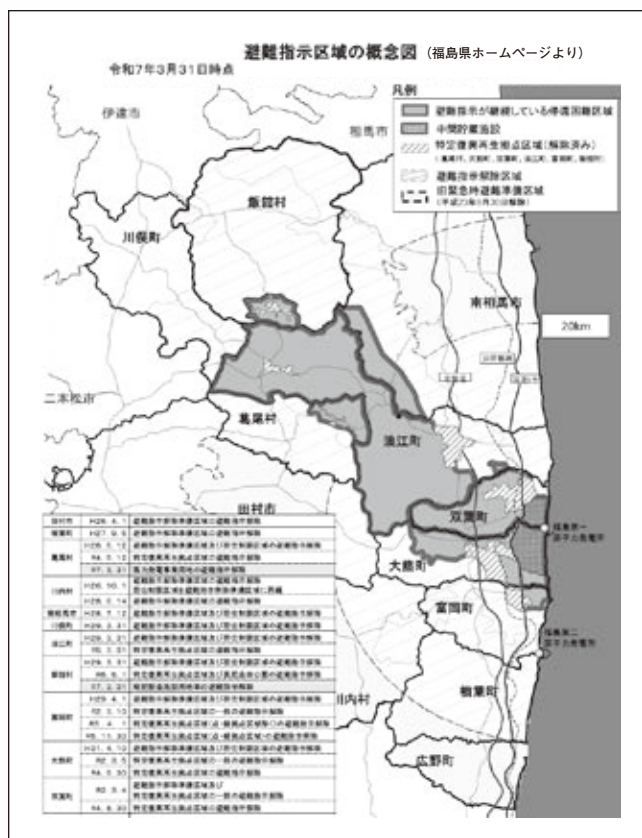
3 学校等への影響

震災・原発事故の学校への影響も大きかった。県立高校の合格発表は3月14日の予定から、中通り・会津は16日に、浜通りは22日に延期された。卒業式が実施できない学校は多数にのぼり、入学式も4月中旬にずれ込んだ地域もあった。また、震災・原発事故後、地域ぐるみで学校を移転、仮校舎で再開したり、避難先の学校へ転入学をしたりした。高校ではサテライト校などで授業を再開した。

平成24年度の定期人事異動は、新採用は4月1日、それ以外は8月1日に先送りされた。また、避難による児童生徒の県外流出に伴い、教職員の大幅な定数減が見込まれ、平成24年度の教員の新採用は見送られた（平成25年度からは再開）。

4 平成27年度以降

浜通り地方の海岸沿いにはかさ上げされた堤防や防災林が設置され、復興・復旧は進んでいるが、原発事故の影響は多く残っている。平成23年（2011年）12月に福島第一原子力発電所の廃炉に向けた中長期ロードマップが示され、令和元年（2019年）7月には福島第二原子力発電所も廃炉が決定し、それに向けた作業が開始された。しかし、第一原子力発電所にたまった処理水の海洋放出、除染土の処理、デブリの取り出しなど多くの課題が残されている。



双葉町、大熊町、富岡町では帰還困難区域の一部を先行解除し、特定復興再生拠点区域の整備が進められ、住民帰還へ向けての新たなまちづくりの整備をしているが、帰還している住民は少ない。

震災・原発事故から14年が経過し、避難解除区域の小・中学校の児童・生徒数は事故発生前の1割程度である。大熊町では「学び舎ゆめの森」（認定こども園を併設した小中一貫の義務教育学校）を、浪江町では「なみえ創成小・中学校」（併設型小中学校）を、飯館村では「いいたて希望の里学園」（義務教育学校）を開設している。

震災・原発事故以降10年以上が経過したが、原発事故の影響が大きく、双葉地区に住んでいた本会会員はほとんどが県内外各地に避難し生活しており、帰還している会員は極めて少ない状況である。

令和6年10月の東北地区退職校長会協議会福島大会では、2日目に東日本大震災・原子力災害の現状への理解を深めようと、田中昭光全連退会長をはじめ、各県代表者34名が参加して双葉地区の視察研修（大熊町立「学び舎ゆめの森」、東日本大震災・原子力災害伝承館）を行った。

Ⅱ 県事務局の対応

1 震災・原発事故当初

地震発生から1週間後、連絡が取れた範囲で臨時の事務局会を開催。車田喜宏会長・鈴木信光副会長（事務局長兼務）・大場眞一会計・玉手武夫会計・熊田晴彦庶務の5名が浜田町富士ビル内の県校長会事務局に集まり、当面する緊急の課題について相談した。

4月に入り県事務局員の全員無事を確認。各支部の支部長、事務局長等の所在の確認は困難を極めた。4月8日、震災後初めて事務局会が開催された。車田会長より次の3点について指示があった。

- 平成23年度事業計画と予算編成の見直しについて
- 県内各支部会員の被災状況と避難状況の調査について
- 被災支部、被災会員、被災学校及び被災児童生徒への支援の方法について

2 再起への歩み

(1) 被害状況調査

4月22日、臨時の事務局会を開催。前回の指示に基づき「被災支部・被災会員の被災状況及び避難状況」の調査を行った。（調査依頼 平成23年5月2日、調査期限 平成23年6月3日）

◇死亡、行方不明、負傷会員 ⇒ 0名

◇家屋損壊

いわき支部：全壊2・半壊5・損壊多数
田村支部：損壊多数

相馬支部：流出2・損壊2
双葉支部：調査不能

◇避難会員

県内避難208名、県外避難16名、双葉支部は調査不能

（双葉支部の消息確認は困難を極め、平成24年2月によりやく全会員の把握ができた。

会員の避難先は1都1府8県にわたり、県内に68名（71%）、県外に28名（29%）が避難。）

(2) 事業計画の組み替え

県事務局としての事業計画の見直しの素案の作成には鈴木信光副会長（事務局長兼務）が当たり、4月12日付で起案された。その後検討会を行い、6月23日開催の評議員会を経て、震災・原発事故後の本会活動の方向付けとなった。

- ・平成23年6月23日の第47回県大会（会津大会）は中止
- ・被災支部（相馬・双葉・いわき）及び被災会員の県会費を免除
- ・各支部の会員の安否や被災・避難状況等について調査依頼
- ・当面の会議の開催は状況が改善されるまで延期
- ・平成23年度末退職予定者の入会勧誘は後日実施
- ・平成23年度の会員名簿は「新入会員名簿」のみ作成
- ・会報「松風」は年3回発行
- ・平成23年度の要望書の内容は再検討
- ・各支部では地域や被災者への支援、支部活動の在り方を工夫

(3) 予算案の組み替え

被災会員の全連退及び県の会費免除に伴う収入減に対応する予算案に組み替える。被災支部への復興支援等の経費を予算案（予備費）に計上。他県からの「見舞金」は被災支部への支援に活用。これらに対応するため、支出の節減・削減した予算を工夫した。

(4) 全国連合退職校長会（全連退）への対応

全連退理事会・総会は平成23年6月7日（火）～8日に開催され、鈴木信光副会長・熊田晴彦事務局長が出席。そこで全連退会長あてに「会費免除」の申請書を提出し、受理された（平成23年度の会費免除者数は約700名、平成24年度は約200名、以後実情に応じて免除、平成29年度で終了）。また、鈴木信光副会長が各県の28団体からの「見舞金・義援金」に対して感謝の意を表し、有効に使わせていただく旨、報告した。

(5) 全国から寄せられた「見舞金」等

東日本大震災・原発事故に伴い、全国各地の退職校長会から多くのお見舞いや激励の言葉、義援金等が寄せられた。平成23年段階では次の29団体からである。（敬称略、順不同）

全国連合退職校長会	長野県退職校長会	広島県退職校長会
青森県退職校長会	岐阜県退職校長会	岡山県退職校長会
山形県退職校長会	静岡県退職校長会田方支部	山口県退職校長会
群馬県退職校長会	静岡県榛原地区退職校長親和会	徳島県退職校長会
埼玉県退職校長会	静岡県富士市退職校長親和会	香川県退職校長会
千葉県退職校長会	滋賀県退職校長さざなみ会	高知県退職高等学校長会
東京都退職校長会狛江支部	京都市退職校園長会西京支部	福岡県退職小学校長会
新潟県公立学校退職校長会	舞鶴市退職校園長会	福岡県退職中学校長会
富山県退職校長会	兵庫県退職校長会連盟	大分県退職校長会
石川県退職校長会	奈良県退職校長会	

また、東北地区退職校長会協議会・鹿児島県退職校長会・沖縄県退職校長会・熊本県退職校

長会の4団体からは丁寧な見舞い状をいただいた。

その後も、福岡県退職小学校長会からは、平成23～25年の3年間にわたり義援金が寄せられた。さらに、平成26年4月、秋田県退職校長会から約130万円の浄財が支援金として寄せられた。これまでに寄せられた義援金・支援金の累計総額は、6,273,305円に及んだ。

(6) 被災支部、被災学校への支援金・見舞金の贈呈

全国各地から寄せられた義援金の中から被災復興支援として、平成23年11月に被災支部の双葉支部・相馬支部に各20万円、いわき支部に10万円、被災した県立学校へとして福島県高等学校長協会に50万円を贈呈。また、平成24年1月～2月に県内で被災した公立学校65校へ、各市町村教育委員会を通し、1校につき5万円、325万円を贈呈した。その際、「子どもたちに豊かな未来を！～ふる里の復興と教育の再建を願って～」という車田喜宏会長のメッセージを添えて見舞金を託した。また、本会会長から各団体への礼状も送付した。

贈呈した学校数及び付託した教育委員会 ※（ ）内は当時の教育委員会所在地

浪江町教育委員会（二本松市）	9校	飯舘村教育委員会（福島市飯野町）	4校
田村市教育委員会	3校	楡葉町教育委員会（いわき市）	3校
葛尾村教育委員会	2校	広野町教育委員会（いわき市）	2校
川俣町教育委員会	2校	いわき市教育委員会	7校
富岡町教育委員会（郡山市）	4校	双葉町教育委員会（埼玉県加須市）	3校
川内村教育委員会（郡山市）	2校	南相馬市教育委員会	18校
伊達市教育委員会	3校	大熊町教育委員会（会津若松市）	3校

(7) 平成24年度以降

平成24年3月、双葉支部に被災支部運営・活動支援として15万円を贈呈。また、双葉支部会員の第48回福島県公立学校退職校長会会津大会への参加費支援、さらに平成24年度末に平成25年度支部活動支援として20万円を贈呈。そのほか、平成24年度末に福島県教育会館の「東日本大震災による被災児童生徒への『夏休みの友』『福島県書きぞめ展』『福島県高等学校入試問題集』無償提供措置」支援のため、5万円を寄付。平成26年度には、東京都退職校長会からテキスト「先輩から後輩へのメッセージ」150部の寄贈を受け、平成26年度採用小学校教員117名に配付した。

3 その後の措置

(1) 会費免除措置と経費節減策

会費免除措置は平成24年度以降も実施され、毎年150名程度の会費免除措置を行い、平成29年度で終了した（全連退会費免除も終了）。この会費減収に伴い、平成27年度からの県大会開催助成金の減額や会議費、報償費、旅費等の削減を行い、可能な限り経費節減を図った。

(2) 「ワンコイン・サポート事業」の展開、「ワンコイン・サポート基金」の創設・運用

本会として自助・共助の精神に立ち、「双葉の灯を消さない」を合言葉に、平成25年度に「ワンコイン・サポート事業」を立ち上げた。会員に一口500円（ワンコイン）の支援金をお願いするという被災支部を支援するためのサポートである。平成25年度から平成29年度までの5年間継続した。その際、全国からの義援金の残金（約6.6万円）を引き継いだ。初年度の平成25年度には会員から68万円余の支援金が寄せられ、平成26年度の活動資金として被災支部の双葉支部に30万円、相馬支部に10万円の支援をした。平成26年度は115万円余の支援金が集まり、平成27年度の活動資金として田村支部、いわき支部へ各10万円、相馬支部へ20万円、双葉支部

へ70万円、さらに平成27年度開校した「ふたば未来学園高等学校」へ10万円の支援をした。

平成27年度からは「ワンコイン・サポート基金」として運用した。5年間で支援金総額は、募金総額4,873,785円と義援金残金等をあわせて、4,940,677円にのぼった。この基金による支援総額は4,838,754円になった。その内訳は、被災支部支援として4支部に3,900,000円。また、学校支援として800,000円である。
(詳しくは下記の支援報告を参照のこと)



佐藤俊市郎副会長から
飯館村教育委員会教育長へ支援金の贈呈

ワンコイン・サポート事業支援基金による支援報告 (平成25年度～平成29年度)

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| (1) 支援基金総額 | 4,940,677円 |
| 内訳 募金総額 | 4,873,785円 |
| | (500円×9,747口+285円) |
| 義援金残金 | 66,450円 |
| | (平成25年度以前の全国からの東日本大震災義援金残金) |
| 利息 | 442円 |
| (2) 基金による支援総額 | 4,838,754円 |
| 内訳 被災支部支援 | 3,900,000円 |
| (双葉支部 | 2,700,000円) |
| (相馬支部 | 800,000円) |
| (いわき支部 | 300,000円) |
| (田村支部 | 100,000円) |
| 学校支援 | 800,000円 |
| (ふたば未来学園高校 | 400,000円) |
| (川俣町立山木屋小・中学校 | 80,000円) |
| (飯館村立小・中学校 | 80,000円) |
| (浪江町立なみえ創成小・中学校 | 80,000円) |
| (富岡町立小・中学校 | 80,000円) |
| (葛尾村立小・中学校 | 80,000円) |
| 支援事務経費 | 138,754円 |
| 送金手数料〈募金送金 支援金贈呈送金〉 | 29,536円 |
| 事務経費〈趣意書・募集要項印刷送付 運営委員会・支援金贈呈旅費等〉 | 109,218円 |
| (3) 支援金残額 | 101,923円 |
| 残金は、福島県公立学校退職校長会本会計に繰り入れさせていただきます。 | |

以上のとおり5年間の支援について報告致します。

平成30年9月25日

福島県公立学校退職校長会 会長 室井 君男

(3) 「ぬくもり基金」の創設・運用

平成26年4月に秋田県退職校長会から寄せられた浄財約130万円をもとに、大震災及び原発事故の被災により本会運営が困難な状況に対応するために助成することを目的とし、「ぬくもり基金」を創設した。平成27年度の評議員会の承認を得て、福島県公立学校退職校長会「ぬくもり基金運用規程」、福島県公立学校退職校長会「ぬくもり基金運用要綱」を定め、本会運営の充実と活性化のために向こう10年を目途に運用することとした。

これまでに主に補助金が減額された県大会（平成27年度51回県大会伊達大会、平成28年度52回県大会会津大会、平成29年度53回県大会石川大会、平成30年度54回県大会相馬大会、令和元年度55回県大会福島大会、令和3年度56回県大会会津大会、令和5年度57回県大会郡山大会、令和6年度58回県大会二本松大会、令和7年度59回県大会会津大会）の運営や東北地区退職校長会協議会福島大会（平成28年度、令和6年度開催）の補助等に充てられてきた。令和6年度末の決算報告は右のとおりであり、今後もしばらく運用していく予定である。

令和6年度ぬくもり基金決算報告

収入総額	735,216円
内訳・繰越金	734,918円
・利子	298円
支出総額	120,000円
・東北地区協議会助成金	60,000円
・会津大会助成金	60,000円
差引残額	615,216円

(4) 浜ブロック（双葉支部主管）の県大会の持ち方への対応

それまで支部長会や理事会等で、今後の県大会の持ち方（浜ブロック・双葉支部主管の扱いをどうするか）について意見を出し合ってきたが、大きな課題として残っていた。

平成31年度（令和元年度）の評議員会で、改めて今後の県大会の持ち方が協議された。浜ブロックにおいては、「双葉支部会員が県内外に避難しており、県大会が実施できない状態であり、開催や発表順番がすぐ回ってきて負担が大きい」という意見が出され、全支部で支援するとの理解に立ち、双葉支部主管での開催が可能になるまでの間、双葉支部主管の浜ブロック開催は抜かして実施することが承認された。ただし、体験発表は行うこととした。

平成30年度54回県大会相馬大会（浜ブロック）



令和元年度55回県大会福島大会（県北ブロック）



令和3年度56回県大会会津大会（会津ブロック）



令和5年度57回県大会郡山大会（県中南ブロック）



※次は浜ブロック（双葉支部主管）であるが
県北ブロックで開催

令和6年度58回県大会二本松大会（県北ブロック）



・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅲ 被害・影響が顕著だった支部のその後

1 双葉支部

1 地域の状況

原子力発電所事故後、双葉郡各町村が指定されていた帰宅困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域なども除染が行われて徐々に解除され、立ち入りや居住が認められるようになってきている。震災と原発事故から13年目の令和6年現在、双葉郡8町村の状況は、帰還した順に以下のとおりである。

- 広野町…平成24年に帰還。同年に学校も町内再開。
- 川内村…一部「帰還困難区域」を残して平成26年に帰還。同年に学校も村内再開。
- 楡葉町…平成27年に帰還。平成30年に学校も町内再開。
- 葛尾村…平成28年に帰還。平成30年に学校も村内再開。一部「帰還困難区域」を残す。
- 浪江町…平成29年に一部帰還。全体の約半分の「帰還困難区域」を残す。平成30年、学校は統廃合を経て町内再開。
- 富岡町…平成29年に一部帰還。一部「帰還困難区域」が残る。平成30年に学校も町内で再開。避難先で開校していた三春町の学校は、令和4年まで存続する。
- 大熊町…令和元年に一部帰還。「帰還困難区域」は、いまだ多く残る。令和5年に学校も町内再開。
- 双葉町…令和4年に一部帰還。全体の約半分の「帰還困難区域」を残す。学校は、いまだ避難先だったいわき市での開校が継続している。

現在、全町村で避難指示は解除され（半数の町村は部分的解除）、地域住民は帰還可能にはなったが、除染やインフラ整備、放射線への不安などから、帰還したのは震災前の人口の半数にも満たない町村が多く、若者の帰還は少ない。そのため学校等も極少人数のところが多い。

2 支部としての状況

(1) 会員の状況

地元へ帰還した会員は14名であり、そのほとんどは70から90代である。震災と原発事故から14年が経過し、会員の多くは、ふる里への帰還を諦めて中古住宅を購入したり、新築したりしている。避難先での生活が定着しており、今後戻る見込みは少ないと思われる。

(2) 支部の状況

現在は、県外7都府県に15名、県内10市町村に74名が避難している。帰還した会員、県外から県内に戻った会員もいる。当分は、新入会員がいるために、会員数は増えていくが、その後は、新入会員の増加は望めない状況である。

3 支部としての対応

会員相互の安否と避難の現状を確認するため、震災後5年目の平成28年、「双葉の灯は消さない 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の記憶と記録」（第1集）を発刊。また、震災後10年目の令和4年3月、その後の会員の10年後の今を記録に残し、会員相互で確認し合うために「双葉の灯は消さない ～あれから10年の今とこれから～」(第2集)を発刊。各会員をはじめ県本部、県内各支部、全国の都道府県退職校長会に送付した。自宅印刷の会報「双風」の発行も継続し、「双葉の灯は消さない!」を確認している。

また、避難先や帰還先で開校した学校を訪問し、校長先生をはじめとする教職員を激励している。学校の課題を聞き、支部の活動や県本部の活動に反映できるように努めてきた。

これまで、定期総会は、郡山市の磐梯熱海で開催してきたが、令和6年度は、会場や宿泊先が確保できたことから、郡内開催が可能となり、令和6年度は13年ぶりに地元浪江町で開催することができた。



学校訪問の様子

4 今後の展望

避難指示が解除され、居住可能な地域は少しずつ増えてはいるが、戻る住民、会員は極めて少ない。支部の現状はまだまだ深刻であり、楽観的な見通しは期待できない。

2 相馬支部

1 地域の状況

(1) 学校数（平成27年度→令和6年度）

【新地町】 小3校、中1校、高1校 → 小3校、中1校、高0校

【相馬市】 小10校、中5校、高2校、養護学校1校 → 小9校、中4校、高2校

【南相馬市】 小15校、中6校、高4校 → 小11校、中6校、高3校、支援学校1校

【飯館村】 小3校、中1校、高1校 → 義務教育学校1校、高0校

(2) 統廃合等

ア 小中学校

【相馬市】 玉野小、玉野中 →（平成28年度末廃校）

【南相馬市】 鹿島小、八沢小 →（令和6年度統合）鹿島小

※真野小は平成26年度に鹿島小に統合

小高小、福浦小、金房小、鳩原小 →（令和3年度統合）小高小

【飯館村】 草野小、飯樋小、白石小、飯館中 →（令和2年度統合）いいたて希望の里学園
イ 高等学校

・新地高、相馬東高 →（令和4年度統合）相馬総合高

・相馬農業高校飯館校 →（平成24年度から福島明成高に開設の後、令和5年9月廃校）

・小高商業高、小高工業高 →（平成29年度統合）小高産業技術高

(3) 児童・生徒数

震災の津波の被害を受けた沿岸部の住民はもちろん、内陸部であっても東京電力福島第一原子力発電所から20km圏内で警戒区域指定（後に避難指示解除準備区域）を受けた南相馬市小高区、20km圏外で計画的避難区域（後に居住制限区域）の指定を受けた飯館村は避難を余儀なくされた。それに伴い各学校も、より安全な地域の学校の校舎を借用したり、仮設校舎を設けたりして授業を再開した。

しかし、時は過ぎても住民が避難した街には生活基盤を失った人々が戻らず、在校生である児童・生徒の数も減り、入学生も激減した。このことと時代の流れとが重なり、新しい学校の

形を整えて前に進んでいるのではあるが、児童生徒の数が激減し、学校の統廃合が急激に進んで学校数が減少した。

2 支部の状況と対応

平成26年度は187人だった会員数が、自然減もあり令和6年度は、新地地区7人、相馬地区62人、鹿島地区17人、原町地区68人、小高地区20人の計174人である。

震災・原発事故後、特に小高地区の会員をはじめとして、一時避難後地区内に戻って生活を再開した会員がいる一方で、地区外に住所を変更した会員もいる。生活基盤を他地域に移して新たな生活を作り上げている会員にとって、自分とそして家族のことを考えた決断だと理解する。その会員の方々も相馬支部会員として継続していただいていることは心強い限りである。

このような状況下で、相馬の地を離れている会員には、支部、各地区の総会等のお知らせと資料や全国・県・支部の会報等を現居住先へ郵送してつながりを大切にしている。



いいたて希望の里学園

3 今後の展望

復興・創生は徐々に進みつつあっても学校数減に伴い校長の数も減ることから、支部会員減少の心配は尽きない。しかし、退職校長会のねらい「会員相互の親睦」「会員の生活の向上」「地域の教育に資する」のために、校長の職に就いた者同士の連携・連絡を、これからも大切にしていきたい。

3 いわき支部

1 地域の状況

(1) 東日本大震災と原発事故の発生当時は、巨大地震による家屋の倒壊、屋根瓦の落下、道路の亀裂、液状化現象、そして大津波の襲来による海岸部の壊滅的な被害があった。

さらには、原発事故による放射性物質の飛散により、いわきは「原発から近い所」であり、原発から30km圏内の地域もあるということで、多数の会員や家族が県内外への避難を強いられた。また、その後のライフラインの不安定化により、日常生活への不安を強いられた。

(2) その後復興が徐々に進み、「いわき七浜」と呼ばれ親しまれてきた海岸部には、高さ約10mの防波堤が連なった。放射線量が低下してきたことと道路や建物の復旧が進んだことにより、地元いわきに戻る会員も増えてきた。

退職校長会の各事業も、当初、総会を開くことができず理事会で代替したが、その後は、徐々にではあるが再開することができた。

2 支部の状況と対応

- (1) 東日本大震災と原発事故を受けて、退職校長会いわき支部がまず取り組んだことは、
- ・被災された支部会員や家族を支援すること
 - ・学校の子供たちと避難してきた子供たち、その子供たちに力を注いでくれている現職教職員に対して支援していくこと
 - ・支部のスローガンである「老いを楽しむ・社会参加・生涯学習」を最低限実践していくこと

等の取組の考えを整理し、当時の山内正衛支部長を中心に『被災後の支部としての基本方針』としてまとめ、様々な対応をしたことである。

- (2) その後、「様々な事務・事業を早く再開し通常に戻す」ことに力を注ぎ、以前の事業等を徐々に再開することができた。

いわき支部の会員も、震災以前400人強であったが、震災後は400人前後で推移してきている。

3 今後の展望

- (1) いわき支部の近年の課題としてあげられることは、

○原発からの処理水の放出が開始されたこと

○原発の廃炉の進捗がなかなか見えないこと

○新型コロナウイルス感染症が3年半にわたって続き、5類となったコロナ禍後の支部の在り方を検討していくこと

○約10年程前から再任用制度がスタートし、令和5年度からは退職年齢の引上げがスタートし、新会員の勧誘に苦勞するようになってきたこと

などがあげられる。

- (2) 今後の展望

退職校長会いわき支部は、昭和40年3月5日に設立総会を開催しスタートした組織である。それぞれの時代に様々な課題や苦勞があったが、それぞれの時代の先輩方がその時々で精一杯苦勞され、立ち上がってきたのも事実である。

私たち現在の支部会員も、先輩会員の様々な努力を見習い、会員一人一人の声を丁寧に聞き取りながら、課題の解決に当たっていきたい。

4 田 村 支 部

1 地域の状況

【都路地区の児童生徒数の推移（帰還後）】

平成26年4月、都路地区の小学校2校（古道、岩井沢）と都路中学校及び都路こども園は、3年1か月に及ぶ仮校舎での生活から帰還した。地域住民は、「おかえりなさい都路へ」の横断幕を掲げて出迎えた。一方、避難地域への生活拠点移転や放射能への不安を拭えない保護者もあり、約6割が町外からの通学であったが、生活環境の整備が進むにつれ、町内通学が徐々に増えていった。

年 度	小学生	中学生	備 考
平成26年	95名	57名	都路で学校再開
平成29年	57名	58名	小学校統合
令和6年	28名	30名	小規模特認校導入

地域存続の危機感と復興への思いを共有する学校と保護者・地域が一体となった教育の推進は、令和元年「第1回ふくしまジュニアチャレンジ」の最高賞「グランプリ」を受賞するとともに、令和5年度には都路ソフトボール少年団県大会優勝、中学校女子バレーボール中体連県大会出場を果たすなど地域再生の一端をも担っている。

令和6年1月末現在、都路町の人口は1,946人である。帰還率は93.1%であるが、子育て世代の帰還率は低く、震災当時32.7%であった高齢化率は50%に達している。復興事業の一環として、複合商業施設（R7完成）やライスセンター（R4稼働）、大規模牧場（R7一部稼働予定）の整備などが進められているが、原木シイタケや山菜などの出荷停止が続くとともに、営農再開できない田畑も少なくない。

なお、船引地区旧櫛山小学校を仮校舎としていた滝根地区菅谷小学校は、平成24年9月に危険校舎が解体され、本来の校舎に戻ることなく、平成28年3月末で閉校し、滝根小学校へ統合された。

2 支部の状況と対応

全町避難を余儀なくされた都路地区では、生活拠点を移転した会員がいるものの、多くは日常を取り戻し、退職校長会の事業もコロナ禍による影響以外は実施されている。都路の学校再開時は、前支部長などが訪問し、学校経営状況を把握するとともに児童・生徒や教職員を激励した。その後も、授業研究会の指導助言にあたり教員の指導力向上の一助となるとともに、キャリア教育の講師として生徒への講話を行った。令和5年3月には、都路小学校の東日本大震災追悼式で児童や教職員へ講話を行ったところ、震災の記憶がないという6年児童から「先輩たちはたくさんの不安をかかえながら一生懸命勉強していたということ、今も昔もたくさんの人に支えられていることが分かった。」という感想があった。

また、田村地区各学校の学校運営協議会をはじめ、教育及び行政にかかわる各種委員会や地域の社会奉仕団体等の構成員となり、地域の復興や活性化に尽力する会員が多数いる。



伝統の和太鼓演奏を披露する都路小児童 R6運動会

3 今後の課題

都路小・都路中は、令和6年4月から小規模特認校制度を導入した。学区外からの通学も可能にすることで一定程度の児童生徒数を確保し、小規模校のよさを最大限に生かした特色ある教育の実現を目指している。継続されている教員加配や教育復興推進事業を効果的に活かした教育を推進するとともに、放課後の居場所づくりなど地域と一体になって教育の充実を図ることが一層求められる。人口減少・少子高齢化が急速に進む地域にあって、教育の向上を目的の一つに掲げる県退職校長会のさらなる支援が望まれる。

本地区では、児童・生徒数の急減により、過去10年間で小学校12校、中学校3校が閉校し、令和6年度は、小学校14校、中学校9校となり、震災による影響が皆無とは言えない。今日的課題である教員不足などから教員の働き方改革の実効ある取組が求められる中、教育現場の要望や会員の声に耳を傾けながら、組織や活動の在り方について工夫改善を図っていきたい。

5 伊達支部

1 地域の状況

震災から14年、以前のような姿に戻っているように思えるが、一部道路や橋等の復旧が終了していないところもある。公共施設では桑折町と国見町の庁舎が新築された。学校では梁川小、保原小、保原高の被害が甚大であったが、梁川小と保原小は以前とは別の場所に新築された。保原小の跡地には福島県立伊達支援学校が新設された。保原高は仮設校舎から新校舎での授業を実施してきたが、令和4年に梁川高と合併し伊達高と名称を変更した。震災は児童・生徒数の減少に拍車をかけ、小学校の統廃合が進んでいる。今後もこの傾向は続くと考えられる。

放射線量への心配はなくなっているが、他県に避難したまま戻らない人や新たに伊達地区に避難して来た人もいて、地域のコミュニティにも変化が見られる。震災後起きた新型コロナウイルス

ス感染症の影響は大きく、各種団体の紙上総会の実施や懇親会の廃止など、人と直接触れ合わない生活が多く見られるようになってきた。



伊達市立保原小学校新校舎



伊達市立梁川小学校新校舎

2 支部の状況と対応

- 会員は年々減少して、令和5年度は支部発足以来、初めて新入会員の該当者がいなかった。令和6年度は4名の新入会員を迎え活動のスタートができた。まだ入会していない対象者にも声を掛けて組織を維持していきたい。
- 会員同士が触れ合う機会が減少しているので、新たなクラブ活動を設置して会員の親睦を深めたい。
- 役員の担い手が長期にわたる現状を是正するため、若手の登用と役員会等の開催時期を考慮していきたい。
- 会員の減少による予算不足については、もう一度活動計画を見直して会費の増額はしないようにしたい。

3 今後の展望

大震災による被害や原発事故による放射線量の問題、長期間にわたる新型コロナウイルス感染症の流行等により我々会員の生活も大きく変化してきた。また、定年延長や年金支給の開始年齢の引き上げで会員が活動に参加しにくい状況もある。社会の変化に対応して現実的に組織を運営していかなければならない。会員の声を反映した取組が大切になる。

組織を充実発展させるのは、会員一人一人の自覚と会員の絆であると考え、それに沿った活動を模索していきたい。

6 岩 瀬 支 部

1 地域の状況

本地区は特に地震による被害が顕著で、須賀川市役所庁舎、須賀川市立第一小学校校舎、鏡石町立第一小学校校舎が全壊し、危険で入室できない状況だった。須賀川一小では、校舎内の児童が無事避難できたことが何よりと思われた。さらに、藤沼湖決壊、一般家庭の全壊や半壊が多数あった。鏡石一小、須賀川一小の改築も進み、平成



被災した須賀川市立第一小学校

29年、市役所も新庁舎での業務が開始された。

2 支部の状況と対応

震災直後2年間は、予定した事業の実施や情報交換の場の設定など充実した運営はできなかった。その中でも、「生き生き生活する活動の推進」として、ゴルフ、囲碁など各部の活動の推進に努めてきた。互いに声を掛け合って交流を図ることは震災からの復興にもつながると考えてきた。

また、被災校舎・施設等の復旧と耐震化・老朽化対策、通学路の安全対策などを機会あるごとに、市町村教育委員会等に要望するように努めてきた。そのためにも、現職校長との情報交換が重要であるととらえ、コロナ対応の年を除き、退職・現職合同研修会並びに懇談会を実施してきた。県立の校長、地教委校長籍の賛助会員を含めた合同研修会並びに懇談会は価値ある会となり、過去にない多数の参加者を得てきている。

本会の目的には、「地域教育の向上」があり、震災後特に取り組んできたのは、地域貢献である。スクールジュニア事業「寺子屋」講座、「子どもの祭典」など地区主催の事業に貢献してきた。震災での被害・影響が顕著だったのは子供たちの方が大きかったものと思われた。これらの活動で、子供たちから直接の感謝の言葉を受け、子供たちに貢献できたという成果を感じている。



ゴルフクラブ

3 今後の展望

震災やコロナで活動が十分にできないとき、会の存在価値が問われていたと思われる。

「活動しなくても何とかできるのであれば、岩瀬地区退職校長会がなくてもいいのか。」そんな思いにはっきり反論できるものが必要だと考え、続けてきた会員相互の交流活動、クラブ活動。そして、会報の発行により、生き生きとした姿が広報され、紙面を通して交流でき、「広報を楽しみにしている」という会員の声が聞こえている。地域貢献として、退職・現職合同研修会により、何か、現職校長先生への情報提供ができていたものと感じている。「子どもの祭典」などの貢献活動では、子供たちから直接の感謝の言葉を受け、地域教育の向上にわずかながら貢献できていると信じている。

会の存在価値を見失うことなく、多くの方々からのご助言を生かしながら、今後も会を発展させていきたい。



「子どもの祭典」

Ⅳ 3.11から10年以上が経過して

1 「双葉の灯は消さない」第1, 第2集(双葉支部)から

「双葉の灯は消さない」第1集(平成29年3月11日発行)から

平成23年3月11日。友人の病氣見舞いのため、双葉町の病院に向かう途中地震に遭遇した。(中略)旧国道に進路を変え家路へ急いだが、鴻草に入ると建物の倒壊で通れず、山沿いの道へ迂廻、寺沢、井出地区から谷津田橋を通りやつの思いで4時過ぎ我が家に着き、家族の無事が確認でき一安心した。(中略)余震も幾度となく発生、その夜は一睡もできず恐怖の一夜を過ごした。

翌12日。夜の明けるのを待ってカメラを手に町内の被害状況を記録に残そうと車を走らせた。(中略)請戸地区の家々は、全部津波に押し流され、一軒も残っていなかった。(中略)外出から戻り、はじめて原発による避難指示が発令されたことを知った。すでに避難の人達で福浪街道は渋滞していた。夕方津島の知人宅に家族、親戚総勢18名で避難し5日間お世話になった。津島を後に福島市、千葉県、栃木県を転々と6ヶ所の移動を重ね、最終的には現在的那須町に落ち着くことにした。(中略)

避難中はいろんな事があった。猪苗代に避難していた姉が他界し悲しい思いもした。また、移動中同席した埼玉県の婦人には福島県から避難して来たと話すと「うつる」と言われて、席を立たれ大きなシヨックと屈辱を受けた。大人でさえこのような偏見を持っていると思うと、知らない土地に避難を余儀なくされている孫達はじめ多くの子供達が「いじめ」や苦しみにあっているのではないかと心が痛み、(中略)

一時帰宅で家屋に入ると小動物や家畜に荒らされ、庭には雑草が伸び放題で悲しくなるばかり、故郷がだんだん遠くなるような感じがした。しかし生まれ育った故郷には先人が延々と築いてきたすばらしい歴史、文化、風習、また美しい山河がありこのような浪江町ふるさとへの思いは断ち難く、今一度故郷での生活ができる日を待ち続けている。(以下略)

避難のあしあと

岸

眞

(浪江町・栃木県那須町に避難)より

今から5年前、平成23年3月11日、忘れない、忘れられない事態に遭遇した。(中略)突然の激震と津波におそれ、何もかもがパニックになったことを思い返す。建物の外庭を見ると、まるで大蛇がはったのかと思う程深く大きな亀裂が走っていた。部屋の中は足の踏み場もなかった。急いで庁舎に行き、窓から海を見ると一本の真白な帯状の線が見えたかと思うと、その帯はまたたくまに真黒な水流に変わり、周りの田畑、民家を次々と押し流して行った。(中略)

追いつけ追いつけかけの原状に原子力発電所の事故が発生し、目の前の対応に追われる事態に陥った。住民の避難は？：児童生徒の安否は？：学校の状況は？：一つ一つの対応はあまりにも大きすぎた。(中略)震災・原発事故発生後、いつも「感謝」と「絆」という言葉が頭から離れることがなかった。県内をはじめ全国から多くの方々に物・心両面にわたり支援をいただき、更に、温かい言葉をたくさんいただいた。(中略)

子ども達は、それぞれの避難場所でも頑張っている。その一人一人を何とかしてあげなければならないという思いがあった。(中略)そんな時、いつも励まされたのが現場の先生と、元気な子ども達の声だった。何としてもその声に応えたかった。自分は何をしてやればよいのかを先輩の先生方に聞きながら、ようやく震災の翌年4月に仮校舎を設け学校再開にこぎつけた後、仮設校舎での学校運営ができる運びとなった時は、本当にありがたかった。(中略)

一日も早く従来の双葉郡の多くの同志と語り合いながら、再び「明るい双葉の灯」がともる日を願いたい。

忘れることの怖さを肝に銘じて

高橋 尚子

(檜葉町・いわき市に避難)より

あるじ待つ 庭の水仙 今盛り

浪江町にある自宅の庭には、東京電力福島第一原子力発電所の事故の一年前、庭の改修をした際に、郡山市の教え子が植えてくれた水仙の花が、避難開始から一ヶ月ほどたった四月に、一列だけ咲いていました。

あれから十年目の今年の四月にも私達の帰りを待っているかのように寂しく咲いていました。

ふるさとでの人との繋がりや避難先で母を亡くしたこと（二〇一一年四月）など、この「十年間の

喪失感」は、筆舌に尽くしがたいものがありますが、これまでに何とかやってこれたのは、家族からの励ましはもちろん、友人や先輩達からの叱咤激励があったればこそと、感謝しております。（中略）



昨年、苦渋の決断をしました。浪江町に住むことを諦め、避難していた郡山市湖南町を「終の棲家」に決めました。（中略）

本当は、今からでも、浪江町に帰りたい気持ちは消えていませんが…。（以下略）

「創造」することの喜びが感じられるように

鈴木 恵 一（浪江町・郡山市に避難）より

「何もなかったら、今日が卒業式だったんだな」という三月二十三日、わずかばかりのガソリンを頼りに、避難していた南会津の親類宅から、大熊町の災害対策本部がある田村市総合体育館に向かった。数日前から子どもたちの所在を確認していたが、どこに避難したかわからない子どもたちがまだ大勢いた。（中略）

明日が見えなかった震災当時から、もう十年が経とうとしている。双葉郡の子どもたちや先生方にとって、この十年は、本当に暗中模索の時間だった。ある日突然、住んでいた町を追われ、見えない放射能という敵と戦った。先生方にとっては、今何が必要なのか、今何をすればいいのかを問われる毎日であつたし、知らない町でひとりぼっちにされた子どもたちにとっては、本当に辛い日々だったことだろう。

（中略）

今、震災後の十年を降り返ってみると、本当に日々いろいろなことがあった。その時々にくくさんの人たちに支えられた十年だった。仮設校舎の建設のために支援していただいた皆さん、毎日安全に送迎してくれたスクールバスの運転手の皆さん、被災した私たちを勇気づけるために、全国から来てくれたたくさんの人たち…。

（中略）

震災から自分は何を学んだろうか…。

「人は、支えたり支えられたりしながら、生きていくということ。」「今まで支えていたいただいたことを、決して忘れてはいけないということ。」

そして、「どんなに小さな事でも、目の前の仕事を全力でやり遂げること。」

いつか誰かを支えられる自分でありたい。

震災から何を学んだか 堀内 弘志

（双葉町・いわき市に避難）より

V 被災地の学校のその後

浪江町立なみえ創成中学校（なみえ創成小・中学校として開校）

「未来のなみえ」を想う学校

浪江町立なみえ創成中学校長 青 田 亮 一

平成23年3月11日の東日本大震災とその後の福島第一原子力発電所の事故で浪江町は全町避難を強いられ、町立の小学校6校と中学校3校の全てが臨時休業となりました。同年8月25日から避難先の二本松市で浪江小学校と浪江中学校、また津島小学校が平成26年4月1日から教育活動を再開しましたが、残りの小学校4校と中学校2校は臨時休業が継続されました。避難先再開校では、ふるさと学習を教育の柱に据え、ふるさとの豊かな自然、伝統、文化を学び、浪江町の人々の思いを知り、誇りを感じ、ふるさとのために自分ができることは何かを考え、教育活動に取り組んできました。

平成28年10月に浪江での学校再開に向けた検討委員会、翌年には浪江町学校教育復興推進協議会が設置され、新たな学校づくりが進められ、平成30年4月1日、多くの方々の思いが込められた小中併設のなみえ創成小・中学校が開校しました。児童8名、生徒2名によるスタートでした。

本校新設は同時にこれまで休校となっている小学校6校、中学校3校の終焉を意味します。避難再開校は最後の児童・生徒の卒業とともに休校となり、令和3年3月に9校の合同閉校式が行われました。各校には輝かしい歴史や実績、培ってきた文化や伝統があります。母校の取り壊しを目の当たりにした多くの方々は、胸が締めつけられる思いだったことでしょう。この歴史と文化を次の世代に継承し、さらに発展させていくことが、浪江町内唯一の学校である、なみえ創成小・中学校に課せられた役割だと考えます。

現在（令和6年10月）は生徒数も25名となり、様々なご支援やご協力を得ながら充実した教育活動に取り組んでいます。少人数の学校ならではの、地域のヒト・モノ・コトとの密接なつながりは、豊かな体験とともに、「未来のなみえ」を想う教育活動として確立されてきました。これからも、子供たちがふるさと浪江を支える人材に成長することを願い取り組んで参ります。



なみえ創成小・中学校落成式



大堀相馬焼体験

大熊町立学び舎ゆめの森

子供たちの学びと町の未来創造の相乗効果創出を目指して

大熊町立学び舎ゆめの森校長・園長 南 郷 市 兵

原子力災害による会津若松市への学校避難を経て、令和5年度にようやく大熊町に学校が帰還した。義務教育学校、認定こども園、放課後児童クラブが一体となった大熊町立学び舎ゆめの森で、現在0歳から15歳までの約70名の子供たちが元気に生活している。震災当初に約1,500名居た大熊の子供たちは避難により全国に離散し、平成23年度の会津での園・学校の再開時には半数の約700名が集まった。しかし12年を経て、町帰還直前の令和4年度は9名にまで減少していた。現在の約70名という人数は着実な復興の歩みとも言える。しかし一方で令和6年現在、町に住民票を有する子供は約1200名居り、うち約6%しか帰還できていない厳しい状況とも言える。

双葉郡の本格的な教育復興の胎動は、平成24年の福島県双葉郡教育復興に関する協議会の発足に遡る。各校が避難先で苦しみ、なかには学校再開も見通せない町村がある中、双葉郡八町村の教育長会・県・国が結束して中長期的な教育復興ビジョンを議論した。ビジョン前文には「震災・原発事故…をその背景も含めて受け止め、価値観を大きく転換し、復旧を越えた復興を目指す」覚悟が述べられている。このビジョンが、県立ふたば未来学園中高創設や、各町村立学校の総合学習での、ふるさとの課題や価値に真正面から向き合う「ふるさと創造学」の探究に繋がっている。

学び舎ゆめの森は、こうした理念と先人の奮闘の礎の上に立ち、子供たちが自らの興味や関心を発揮し、ひいては唯一絶対の正解の見えない困難な状況でも自ら解を創造していく資質・能力を育成していくために、園児の遊びの個性化、学校における学習と探究の個性化に徹底的に取り組んでいる。そして、双葉郡教育復興ビジョンが掲げている「子供たちの実践的な学びが地域の活性化にもつながる、教育と地域復興の相乗効果を生み出す」ことで、学校教育が一つの起点となり、真の復興に向けて邁進していきたいと考えている。これから町への学校帰還を目指す双葉町を含め、地域が真の復興へたどり着けるその日まで、域内の学校で一丸となって取り組んでいきたい。



帰還して初の地域も参加してのスポーツフェスティバル
(5.9.30)



帰還した大熊町での校舎落成式で校歌を歌う幼児と小中学生
(5.9.21)

新校舎で学ぶ子供たちの涙から「あの日」を振り返る

須賀川市立第一小学校長 柿 沼 孝 明

平成23年3月11日、午後2時46分。国内観測史上最大の大地震は、昭和41年に完成した歴史ある旧校舎を大きく損壊させた。床や天井がくずれ、廊下にはコンクリート片や窓ガラスの破片が散乱した。このまま校舎内にとどまることは危険だと判断した教職員が、自身の適切な判断のもと子供たちを校庭に避難させた。そこで、子供たちが目にしたのは、校庭に無数に広がる地割れと変形した遊具、そして校庭の南側半分が完全に崩落した光景だった。当時の教員の回想記録に「あまりに衝撃的な光景に立ち尽くす子供たち。私は、思わず、そばにいた子供の目を、私自身の手のひらで覆った。」とある。

震災後、市内並木町での4年4か月余の仮設校舎生活を経て、平成27年度には、もともと本校があった場所に新校舎の再建がなされ、新しい学校生活が始まった。新校舎には、「風景と思い出の継承」をテーマとして旧校舎と新校舎の思い出を共有できる「メモリアルガーデン」、活動の多様性を生む『ひろば』空間としての「昇降口の大屋根」、自然採光と通風をもたらす「学年ユニット多目的スペース」、豊かな学びを願い校舎の中心に位置する「桜水ホール」、明るく広い体育館、小プール併設型のプール施設、多目的な情報センター機能を有する学校図書館など、子供たちが夢中で学ぶことのできる豊かな教育環境が整えられている。

この春、学校評議員の一人が来校された際に、自主制作の映像を見せてくださった。その映像は、旧校舎が解体される日から新校舎が完成する日までの数年間、ほぼ毎日、定点から校舎を撮影した写真をつないだものだ。BGMには、震災復興応援ソングとして、本校の子供たちが大切に歌い継ぐ「きぼうの歌～カワセミのように～」が流れている。新校舎完成から9年。旧校舎で過ごした子供たちはもういないが、この映像を見せると「なんだか分からないけど涙が出そうになる。」とつぶやく子がいる。今、その涙が、あの日の「命」の話の入口になっている。



新校舎「風景と思い出の継承」

Ⅵ 新型コロナウイルス感染症の発生と対応

1 新型コロナウイルス感染症の発生とその影響

令和元年（2019年）12月、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、日本を含め世界中の経済・社会・文化等に極めて大きな影響を及ぼし、日常生活の営みを一変させた。

令和2年（2020年）1月、中国武漢では、急激な感染拡大と死者の増加が進み、人の往来を止める都市閉鎖（ロックダウン）を行い感染の拡大を食い止めようとしたが、すでに世界各国に感染が広がっていった。日本では、マスコミ等で中国武漢の病院等の混乱した様子や2月横浜港に入港したクルーズ船での集団感染が報じられ、大きな衝撃が走った。

3月に入ってヨーロッパやアメリカでも感染拡大が見られ、世界保健機構（WHO）はパンデミック（世界的な大流行）を宣言した。政府は「新型インフルエンザ等対策特別措置法」を改正し、その後の非常事態に備えた。

国内では、クラスター（患者集団）を特定し濃厚接触者を調査するなどして感染防止を目指したが、感染経路が不明な感染者が報告されるなど市中感染が広がりを見せた。政府は、急速な感染拡大を防ぐため、大規模なスポーツやイベントの自粛を要請し、3月緊急事態宣言を発出し不要不急の外出を控えるよう促した。また、3月2日から春休みまですべての学校の臨時休校措置を要請した。春の選抜高校野球は中止、7月開催予定の東京五輪は1年程度延期され、翌年無観客で実施されることとなった。4月には感染者が増加して病床が不足する状況が起こり、保健所などが療養場所を判断し、宿泊施設や自宅で療養する措置をとるようになった。

本県でも、3月7日県内初の感染者が確認され、急激に感染拡大が進む中、全国に緊急事態宣言が発出されたのを受けて、4月21日から5月6日まで県内学校を3月の1回目に続いて2回目の一斉休校としたが、感染が止まらずその後も大半の市町村が休校を延長した。

令和3年（2021年）5月14日、知事は31日までの非常事態宣言を発令し、県民に対して外出自粛や飲食店などに対して時短営業などを要請した。新型コロナウイルスの特性や感染力等が分かり、初期対応などの知見を踏まえて対応したが、高齢者や基礎疾患のある人の感染・重症化のリスクが高く、夏の感染拡大、秋冬の感染拡大などに対して緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等を実施し、感染防止の徹底を呼びかけた。8月に入り、いわき市、郡山市、会津若松市、福島市などの都市部を中心に感染が広がり、県は旅行や帰省の中止を求めた。しかし、新型コロナウイルスはアルファ株やデルタ株、令和4年（2022年）冬のオミクロン株などの変異を繰り返し、感染の広がりや感染者の増加に大きな影響を与えた。この頃の世界全体の感染者数は累計5億人を超えた。7月には、県内では1日の新規感染者は1,000人に迫るまでになり、令和4年（2022年）9月末には国内感染者数は累計170万人、死者数は累計1万7千人を超えた。また、オミクロン株の流行期には、医療現場は病床のひっ迫など混乱を極め、医療崩壊の危機にさらされた。

発生から1年余りでワクチンが開発され、令和3年（2021年）4月に入って感染リスクの高い高齢者等へのワクチン接種が開始され、6月には18歳から64歳にも、さらには職域接種など全国で本格的に始まった。その後2回目、3回目、…と接種し、感染予防に努めた。しかし、感染拡大はおさまらず、令和5年（2023年）2月には、国内感染者数累計3,000万人を超え、国内死者数は6万人に達した。

令和5年（2023年）5月、WHOはパンデミックの終了を宣言した。日本では8日、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けがインフルエンザと同じ扱いの5類に移行した。発生から3年余り続いた新型コロナウイルス感染症に対して、ようやく様々な制限が緩和され、ウィズコロナの中で日常生活を送ることが出来るようになった。

この間、日常ではマスクの着用や手洗いの徹底、手指消毒、フィジカル（ソーシャル）ディス

タンス、3密（密閉、密集、密接）の回避、テレワークやオンラインの活用などの新しい生活様式が推奨された。教育現場では、授業や学校行事、クラブ活動等への対応が大きく変化した。集団での活動はほとんど見られなくなった。マスク着用・消毒はもちろんのこと、徹底した感染防止対策をとり、給食は黙食に変わり、授業では一人一台のタブレットの導入が進み、オンライン授業も行われるようになった。

2 県事務局の対応

(1) 活動・諸会議等の自粛

令和2年（2020年）2月から令和5年（2023年）5月まで、新型コロナウイルス感染症の流行により、本会の活動にも大きな影響を及ぼした。新型コロナウイルス感染症は高齢者の感染・重症化リスクが高く、大半が高齢者である本会会員の活動や諸会議等の自粛が求められた。

平成2年（2020年）3月、感染が拡大をはじめ、10日の理事会は一堂に会せず協議事項を送付し、協議内容の承認や意見をいただいた。また、佐藤俊市郎会長は4月28日に開催予定の評議員会を中止し、書面決議とした。さらに感染拡大が顕著になり、感染防止の観点から6月17日に開催予定の県大会会津大会は次年度に延期することとした。数回に及ぶ県事務局会や9月14日の支部長会は、換気やマスク着用、消毒などの感染防止を徹底した上で開催し、本会運営が滞らないようにした。各支部の活動においても理事会・総会等の中止やクラブ活動の縮小・中止の対応をとった。（P83「各支部の対応」参照）

(2) ガイドラインに沿って

令和3年（2021年）県事務局は3月2日付けで「新型コロナウイルス感染症にかかるガイドライン」を作成し、各支部に送付し理解と協力を求めた。3月の理事会、4月の評議員会は感染防止策を徹底した上で、福島市吾妻学習センターで開催した。

しかし、6月の県大会会津大会（両沼支部主管）は、新型コロナウイルス感染拡大が危惧される中、これまで2年かけて準備してきたことから、前例のない紙面開催とし、大会要項を会員全員に配付して実施した。



「評議員会」はマスク着用、距離をとって

11月の支部長会、翌年3月の理事会は、「新型コロナウイルス感染症にかかるガイドライン」に沿って開催した。

令和4年（2022年）の県大会は、郡山大会（郡山支部主管）の予定だったが、コロナ禍での準備・開催は難しいとの判断により、1年延期して令和5年（2023年）6月に開催した。

5月には、新型コロナウイルス感染症はインフルエンザと同様の扱いの5類に分類されたが、コロナウイルスが完全に終息したわけではなく、ウィズコロナ、アフターコロナとして日常生活を送ることとなった。県大会が延期もなく開催ができたのは、令和6年（2024年）6月の二本松大会からである。

「新型コロナウイルス感染症にかかるガイドライン」は、令和6年4月30日の「感染症にかかるガイドライン」（第7版）まで適宜見直しがなされ、本会の活動・運営や諸会議の開催等の指針となっている。

新型コロナウイルス感染症にかかるガイドライン

福島県公立学校退職校長会

以下のガイドラインを原則遵守することにより、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、本会員の健康を守る。

1 評議員会、支部長会、理事会、監査会等開催の可否について

- 緊急事態宣言中（県知事の要請時も含む）には、原則として開催せず、書面決裁やWEB会議等によることとする。
- 各支部における総会、理事会等も原則として同様の対応とする。

2 事務局会の開催の可否について

- 原則会長の指示によりその可否を決定する。
- 各支部における事務局会の開催については各支部長の指示によりその可否を決定する。

3 諸会議を開催する場合

- (1) 会場選定 当該会場の収容人数の原則を順守して選定する。
- (2) 開催時間 およそ2時間以内で話し合い等が終了することを原則とする。
- (3) 出席可否 次に該当する場合は、出席させないことを原則とする。
 - ① 会議当日37.5度以上の発熱または平熱比+1度以上の発熱がある場合。また、息苦しさ、だるさ、咳、咽頭痛、味覚や臭覚異常などの症状がある場合。その他体調不良の場合。
 - ② 会議開催日から起算して14日以内に感染拡大している国、地域へ訪問したことがある場合。
 - ③ 会議開催日から起算して14日以内に所属する職場や学校等において新型コロナウイルス感染症のため、閉鎖や臨時休業等があった場合。
 - ④ 会議出席者の同居する家族が、①、②、③に該当する場合も同様とする。
- (4) 会議開催
 - ① 終日、マスクを正しく着用する。
 - ② 密を避けるため、十分な距離を確保する。
 - ③ 会場入場時に体温測定をするとともに手指消毒を行う。
 - ④ 定期的に換気を行う。
 - ⑤ 会議開会前と会議終了時に消毒作業を行うことを原則とする。
- (5) その他
 - ① 会議終了後、2週間以内に発熱、風邪症状があった場合は、必ず報告をすることとする。
 - ② 上記以外の諸活動にあっても緊急事態宣言中は原則中止、それ以外の場合は感染防止対策を万全に行う。
 - ③ 本ガイドラインは、必要に応じ適宜見直す。

令和3年3月2日 第1版

(※平成6年4月30日 第7版まで、適宜見直しが行われた。)

3 各支部の状況と対応（新型コロナウイルス感染症への対応）

福島支部

- 1 会議会合…県ガイドラインに沿って会議や活動に制限を加えて実施した。
 - (1) 支部総会…令和2年（2020年）第56回総会は4月理事会で中止決定。5月に総会要項を配付し書面開催とした。3年～5年まで4月理事会と同日に開催（理事会9：30～総会10：30～11：30）。参加者は理事・役員・事務局。懇親会や来賓招待はしない方式で行った。6年（2024年）支部総会から5月総会・懇親会方式に戻した。来賓や挨拶などの人数や時間を見直して効率よく進むよう計画した。
 - (2) 理事会・事務局会・運営等…状況に対応しながら計画どおり実施した。
令和2年から理事会を4回から3回に減らした。慶弔面では葬儀の方法に対応して弔問した。
- 2 クラブ活動…活動が激減。クラブ長会も中止した。
令和4年から「クラブ活動紹介」を更新配付して会員の拡大に努めている。6年はクラブ長会を実施して情報共有を図った。

伊達支部

新型コロナウイルス感染は高齢者や基礎疾患をもつ人に重症化のリスクがあるため、密閉・密集・密接（三密）を避ける生活が求められた。その様な状況下で支部活動をどう展開すべきか事務局会・理事会（旧方部役員会）で協議した。緊急事態であることから県の活動に準じて進めていくことに決定した。①事務局会・理事会・総会の開催は中止する（役員改選についても書面決議・書面報告）。事務局会は必要に応じて十分な感染防止対策を講じて開催する。②クラブ活動（俳句・囲碁・旅行）を中止とする。③会員への情報提供は会報に限定される事になったため、内容の充実を図り会員間の絆を希薄化させないように努める（会員の近況・県・支部の活動についての詳細な内容掲載）。

現在コロナは第11波、変異株の「KP.3」が到来している。今後も継続的な感染予防の手を緩めてはいけない。

安達支部

- 令和2年度においては、「総会」は、開催直前にて急遽中止とし、全会員に総会要項を配付し会員へ運営への理解を図った。また、年間2回開催予定の「研修会」及び「現職校長との教育懇談会」並びに「懇親会」も、止むを得ず中止とした。しかし、年間5回の事務局会と年間2回定期的に開催する役員会、年度末の会計監査会は、予定どおり実施した。令和3年度、4年度も新型コロナウイルス感染症は猛威を振るったが、感染症対策を講じ、総会、役員会、研修会、現職校長との教育懇談会等を年次計画どおり全て実施した。ただし懇親会は自粛としたが、経済活動支援の観点から折詰料理のテークアウト（持ち帰り）方式を採用した。
- コロナ禍にあっても、年3回の会報「阿多多羅」の発行は、休むことなく継続した。コロナ禍の中、会員同士の交流を深め、会員相互の絆を深める上で、会報「阿多多羅」の発行は実に効果的で、実に重要な活動となり、大いに意義あるものとなった。
- 令和5年度以降は、新型コロナウイルス感染症も5類取扱いとなり、懇親会も実施してきた。

郡山支部

- 1 令和2年度中止にした会合等
 - ①支部総会（会員に総会要項を送付し了承を得た）②特別委員会・クラブ長合同会（文書で報告、活動については、それぞれの委員会・クラブに判断を委ねた）③第1回理事会④方部委員会

(方部委員から活動等の課題を集約) ⑤会員研修会 ⑥郡山市小・中校長会との教育懇談会(平成元年度も台風19号による水害で中止しているので2年連続)を中止とした。⑦会報「燃える」74号は休刊(75号から発刊)とした。なお、第2回理事会については実施した。

2 令和3年度中止にした会合等

①特別委員会・クラブ長会 ②第1回理事会 ③方部委員会・研修会 ④教育懇談会を中止とした。他については実施した。令和4年度は、予定どおり開催した。

岩瀬支部

岩瀬支部においても新型コロナウイルス感染症によって大きな影響を受けた。令和2年度の退職校長会総会・懇親会や役員会、理事会は中止とし、書面開催とした。さらに退職・現職校長会研修会並びに懇談会も中止にしたが、会報「いわせ」については、計画どおり2回発行することができた。各クラブ活動は、各クラブによって対応はまちまちになった。ゴルフクラブは、第1,2回ゴルフコンペを中止としたが、第3回を延期して3月に実施した。グラウンド・ゴルフは、感染症対策を講じて実施。囲碁クラブは、公共の施設が利用できず、また三密の様態を避けるため、緊急事態が解除されるまで様子を見ることにした。麻雀クラブも同様にしばらく様子を見ることになった。

このように各活動は、中止や延期をしたり、感染防止の対策を講じて実施したりするなど、活動に大きな影響を受けた。令和4年度が過ぎると、多くの活動が再開となった。

石川支部

1 諸会議・活動について

- ・大人数による会合等(総会・ボランティア活動・現職校長との合同研修会)はすべて中止とした。総会は開催せず、令和2年度～4年度までは総会要項配付による書面決議とした。
- ・事務局会(年4回)、理事・委員長会(年1回)、役員会(年1回)は通常どおり実施した。
- ・履歴書・功績調書預託推進委員会での提出啓発活動、会報編集委員会の支部会報「石かわ」の年2回発行は継続できたが、旅行委員会の活動は中止とした。
- ・4つの設置クラブ(文化財、ゴルフ、園芸野草、書道絵画)は、すべて活動中止とした。

2 活動の再開について

- ・令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上2類から5類に移行され、重症化リスクが低くなったことで、令和5年度総会は会員が参集して開催することができた。しかし、総会後の懇親会開催については、慎重論が多く、見合わせることにした。現職校長との合同研修会やボランティア活動も令和5年度より再開したが、依然消毒・手洗い・マスク着用を奨励し、三密(密閉・密集・密接)を避けた慎重な活動実施が求められている。令和6年度になり、コロナ収束状況を踏まえ、交流・懇親会開催などの活動が増えつつある。

田村支部

1 事業

- ・令和元年度までの事業は例年の計画どおりすべて実施できたが、令和2年度、令和3年度の会員が集う事業については、役員会からの最小限の実施とせざるを得なかった。
- ・令和2年度・令和3年度、田村支部情報の共有及び会員交流の機会として、会員に記事の投稿を依頼し、支部会報の発行回数を増やした。
- ・令和4年度、例年行事である会員研修旅行を3年ぶりに再開した。
- ・令和5年度、4年ぶりに田村支部総会・懇親会、現職校長会との交流会を再開した。

2 会員交流を図る事業

- ・田村支部「研修旅行」を、支部の恒例行事として事業計画に組み入れ毎年実施している。
- ・令和5年度より支部会員交流クラブの設置を検討し、令和6年度より取組を開始する。

西白河支部

- 1 会議会合…県ガイドラインに沿った運営となるよう内容や方法を工夫して実施
 - (1) 支部総会…令和2・4年度は、支部総会を中止。要項を配付し書面による承認を行った。令和3・5年度は、支部総会のみ来賓を招待せずに実施し、懇親会は中止した。
 - (2) 理事会・評議員会…開催当時の状況に応じ、延期や中止・統合等を含め実施方法を工夫した。
- 2 現職校長との研修会交流会、親睦旅行、叙勲祝賀会
令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。令和5年度から再開した。
- 3 設置クラブ…クラブ員の高齢化や減少で活動を継続できないことなどから、令和5年度里山散策クラブが休止、現在は囲碁クラブとゴルフクラブの2つのクラブとなった。

東白川支部

- 1 総会（研修会・懇親会）等
令和2～3年度の総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期とし、その後全会員に総会資料を届け、紙面決議とした。4年度は、役員改選の年でもあったので、総会とクラブ打合せのみ実施し、5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されるのを受け、総会、クラブ打合せ、茶話会を実施した。6年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで、周りの生活状況も以前の姿に戻ってきたため、総会を含め、会員を講師に地元出身の日本画家の功績についての研修会を開催できた。
- 2 クラブ活動、その他の活動
園芸とゴルフクラブは、感染拡大に留意しながら回数を減らして活動した。現職校長との教育懇談会は、現場の感染拡大も懸念されることから令和元年度を最後に見送られてきたが、6年度に再開した。支部会報は、コロナ禍にあって会員交流の場として年3回の発行を継続し、その役割を果たした。学校等支援ボランティアバンクは、要請は少なかったものの活動が途切れることはなかった。

北会津支部

- 1 事業
 - ・コロナ禍では文書配付及び会報の見直し・充実により会員の交流を図ってきた。ほぼ実質的な活動を行うことはできなかったが、令和4年度よりコロナの沈静化が見え始めたため、総会や現職・退職校長会教育懇談会をオンラインにて実施した。さらに施設訪問等の活動を再開し、令和5年度以降は、懇親会も含め従前の計画に沿った活動が再開でき、久しぶりの活動に親睦と充実感を味わうことができた。
- 2 クラブ活動
 - ・コロナ禍の中では活動を行うことが出来なかったが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し社会が回り始めたため、令和4年度末には新しい活動としてスキークラブが発足し冬期間の交流・親睦を深めることができた。
- 3 その他
 - ・感染症に対する理解も深まり、率先して対応する体制（マスク対応、手の消毒、密をさける、部屋の換気等）が整ってきている。

耶麻支部

1 事業

令和2年度の支部総会は新型コロナウイルス感染症対策に関する基本方針を踏まえて中止とし、臨時理事会の議決をもって総会に代えることとした。総会の資料は臨時理事会を6月に実施した後に個別に配付した。事務局会は会の運営や情報交換、広報誌等の配付を行うため、マスク着用で実施した。支部の会報「やま」については活動自体が減ったために1回のみの発行とした。その他の懇親会を含む会合、現職・退職校長会教育懇談会、研修旅行や1年の健康を祝う会など一堂に会して行うものは中止とした。

令和3年度の支部総会は感染症のリスクを下げながら、広い会場である喜多方プラザ小ホールを使って実施した。懇親会等の会合は令和2年度と同様に中止した。令和4年度からは「感染症にかかるガイドライン」を順守し、各種行事や事業等、従来どおりに実施している。

2 クラブ活動

感染状況や体調等を考慮し、その都度実施するかどうかを各クラブの判断で実施した。

3 その他

令和2年度から4年度まで事業や活動の制限があり、支部の会計支出が減少したため、令和5年度と6年度は2年間限定で会費を5,000円に引き下げた。

両沼支部

令和2年1月以降のコロナ禍の中で、本支部が対応した点は以下のとおりである。

本支部の本来的な主な活動としては、会議関係では、総会並びに研修会、各地区代表からなる理事・評議員会、年4回開催する事務局会、監査会等であり、その他の活動としては、退職・現職校長会教育懇談会、会員相互の親睦を図るための囲碁将棋大会や親善ゴルフ大会、研修旅行等であった。会議関係では、事務局会、理事・評議員会、監査会については、感染防止対策を万全にしながら予定どおり開催したが、総会については、特例的に紙面による開催を余儀なくされた。その他の活動は、基本的には中止とせざるを得なかった。

なお、コロナ禍を契機として研修旅行や各種親睦大会等の見直しが図られ、令和3～4年度にかけて「ゴルフ」「健康麻雀」「囲碁」の3つのクラブが立ち上がり、それぞれ感染防止策をとりながら年1～2回活動するようになった。また、研修旅行に代わり「親睦と健康増進を図る活動」が新たに企画され、令和4年度秋から年1回実施している。

令和5年度からは3年ぶりに総会や退職・現職校長会教育懇談会を開催するなど、ほぼ全事業をコロナ禍以前のような形で実施するようになった。

南会津支部

他支部同様に南会津支部でも定期総会・懇親会を中止し、書面決議の対応を行った。県会報や支部会報の配付は、一部郵送であるものの、ほとんどは方部理事が会員宅を訪問し配付を行っているが、訪問した際の近況の確認等の会話はできるだけ控えることとなり、電話やメールが中心となってしまう。同様に現職校長・退職校長合同研修会・懇親会も中止。唯一屋外での交流の機会であるパークゴルフも中止となった。当然、各町村長や教育長への要望活動もマスクを着用し距離をとっての短時間の懇談となった。

このような対応が2年ほど続き、ようやく令和4年度から対策を講じながら4月の定期総会、8月の合同研修会が対面で開催できるようになってきたが、懇親会は依然開催できない状況が続いた。令和6年からは、コロナ禍前と同じように懇親会も対面で開催できるようになった。

相馬支部

令和2年度は、4月初旬に国から新型コロナウイルス感染拡大に関する緊急事態宣言が出され、先の見通しが立たないことから、予定していた支部総会・懇親会を中止した。総会前に開催した理事会を総会に代わるものとし、その議決をもって総会における決議事項とした。支部内5地区総会も中止せざるを得なく、クラブ活動も中止・延期と当初の計画を変更してスタートした。

令和3年度は総会のみ実施。懇親会、各地区総会は中止。令和4年度は感染再拡大の影響を鑑み、再び総会・懇親会ともに中止にした。各クラブ活動では、屋外での活動は感染症対策をした上で活動をした。また、文化活動は対面での活動機会を避け、作品郵送などで活動を続ける工夫をした。

令和5・6年度は懇親会なしで総会のみを開催。5年度は各地区の総会を含む活動も予定はしたが開催はできなかった。6年度によりやく諸活動が再び動き始めた。この間、「会員相互の親睦と健康増進を図る」「生きがいのある生活の推進」のための事業が、計画どおり進められず残念であった。

双葉支部

1 事業

定例行事である総会・懇親会・新入会員歓迎会は、感染拡大防止に配慮し、令和2年度より4年度までの開催を見送り、会員への総会要項と通知送付をもってこれに代えた。学校訪問、現職校長との交流会についても、この期間の開催を見送った。執行部会、理事会、また「双葉の灯は消さない」編集会議については、十分な対策をとった上で何とか開催してきた。

2 クラブ活動

本支部では、震災と原発事故後10年間休部状態にあったクラブ活動が、令和2年より新たに、ゴルフ同好会と登山ウォーキング同好会としてスタートした。このクラブについては、開催回数を少なくするなどの対応をとりながら、この期間中も活動を継続してきた。

いわき支部

1 事業やクラブ活動、その他の活動への影響と対応について

新型コロナウイルスによる感染拡大により、いわき支部では総会が3年間中止となり、理事会や方部委員会、クラブ部長会等も大きな制限を設けた。室内で行うクラブも実施できないことが多々あった。現職校長会や市教委、教育事務所との教育懇談会は、人数を制限して小規模で実施した。また、年1回の「いわき十日会」も、4年連続で中止となり、懇親を深められない時期が続いた。

コロナ禍の中でいわき支部として当初対応したことは、支部独自の新型コロナウイルス感染症に係るガイドラインを作成し、それぞれの事業での道しるべにしたことである。また、様々な変異株が現れ感染者数も増減を繰り返した中で、会員同士が会う機会がないことを何とかしたいとの思いで実施したのが、「講演会」の開催である。再会した会員の「久しぶり」と声を掛け合う姿を見て、コミュニケーションの大切さを改めて感じた。令和5年に4年ぶりとなる総会が、令和6年に5年ぶりとなる「いわき十日会」が開催できた時に、「本当によかった…」とつくづく感じた。

4 コロナ禍の学校では

コロナ禍における学校の取組

郡山市立芳山小学校長 難 波 和 生

2020年3月、新型コロナウイルス感染症の影響が本格的に出始め、全国の学校が臨時休校となった。2023年5月までのコロナ禍の期間中、小学校では子供の安全と教育の継続を両立させるために様々な取組が行われた。その取組の一端を紹介する。

〈子供の安全を守る感染症対策〉 学校生活での感染症対策として、手洗いや消毒の徹底、マスクの着用、教室や廊下の換気が重要視された。特に、登校時や給食前には手指の消毒を徹底させるよう指導が行われた。昇降口には自動体温測定器が設置され、子供だけでなく来校者の体温も測定するようになった。給食も感染症予防の観点から「黙食」するように指導が行われ、会話のない寂しい時間となった。授業中もソーシャルディスタンスを保つため、机の配置を工夫し、対面での座り方を避けるようにした。グループ活動も制限され、個人での学習が多くなった。子供たちは、次第にこれらの習慣にも慣れ、自ら進んで手を洗ったり消毒したりする姿が見られるようになった。

〈学びの保障〉 子供たちの学びを保障するために、GIGAスクール構想によって一人一人に貸与されたタブレット端末を活用し、学校閉鎖中や登校制限時には、オンライン授業や配信型の授業を行ったり、タブレットドリルでの学習ができるように学習環境を整えたりした。これらのことにより、子供たちは日常的にタブレットを使うようになり、ICTのスキルが飛躍的に向上した。

〈行事の精選〉 入学式や卒業式、運動会や学習発表会、修学旅行など、規模を縮小したり、参加人数を制限したり、オンラインの配信で行ったりした。行事を通して仲間との協力や達成感を味わう経験は、子供たちにとって貴重であり、感染症対策を徹底しながらも開催できるよう努力が続けられた。

コロナ禍における小学校の取組は、子供たちの安全と教育機会を守るために多岐にわたった。学校と家庭、地域が協力し、子供たちが安心して学べる環境を維持していくことが、子供たちの成長にとって重要であることを改めて感じる事ができた。



マスクをしての修学旅行

コロナ禍の影響を受けた子供たち

会津若松市立第一中学校長 原 孝 行

給食に関わる会議があるため何か話題にすることはないと、給食の様子を見に教室へ行った。そこには、令和6年4月に7年ぶりに学校現場に復帰した私にとって衝撃的な光景があった。全員が前を向き、無言で食事をしていた。コロナ禍の影響がまだ残っていた。

本校では、令和2年国の緊急事態宣言が5月6日までの期間で全国に発令されたことを受け、4月17日から、登校時に、昇降口で教職員が検温チェック表で確認してから生徒を教室へ移動させるようにした。また、平日の部活動は最大1時間半に制限し、週休日や5月の連休は一切の活動を中止にした。事態はさらに深刻さを増し、そのわずか3日後の4月20日には、4月22日から5月6日までを臨時休業にした。保護者には、健康状態のきめ細かな観察や、風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く場合などは、帰国者・接触者相談センター（会津保健所）に相談し、学校へ連絡するよう「あいべ

あ（インターネット）」を利用してお願いした。結局、この臨時休業は5月18日まで続くことになった。5月19日から5月28日までは、「3つの密」を避けるため、分散登校を実施し、その後、普通登校へ移行していった。8月26日から8月28日にかけても、会津若松市内において、新型コロナウイルスの感染者の中に、本校の生徒が含まれていることが判明し、臨時休業にした。この頃になると、感染者や濃厚接触者は被害者であり、差別・偏見・いじめ・誹謗中傷などの対象にならぬよう家庭にも指導をお願いした。



給食は黙食

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症になるまでのおよそ3年間、激動のコロナ禍対応であったが、今現在、教育活動への直接的な影響は感じられない。果たして、コロナ禍前のように、生徒が班を作り、たわいもない会話をしながら昼食をとる光景をこれから見ることはできるのだろうか。生徒の豊かな実体験不足が懸念される。コロナ禍の影響は計り知れない。

コロナ禍を乗り越えて

福島県立福島高等学校長 丹野 純 一

令和2年、県立高校は3月2日から臨時休業となり、4月は通常どおり始業したものの感染拡大を受け4月21日から再び臨時休業となった。この間、生徒の学びの保障や心身の健康の保持のため、ICTなどを活用した家庭学習支援、分散登校日の設定などにより学習・生活支援を行って学校再開に備え、6月1日から全面的に授業を再開した。その後も幾度も押し寄せた感染の波に対応し学校教育活動を一部停止・縮小し、修学旅行も中止、延期、行先変更がなされ、各種大会も中止、縮小を余儀なくされた。これらの中で、現場の管理職、教員、教育委員会の職員も、誰も正解を知らない問題に次々にさらされ、解決を迫られ、判断し決定して、その結果に時に意見が対立し、多くの人が傷ついた。そのことを痛みをもって思い出す。

そして、何より生徒たちが、常にマスクの生活の中で互いの表情を見ることができず、対話も会話も制限され、精一杯歌うこともできず、ぶつかり合うこともできない、大変つらい状況に追い込まれ、しかもそれが何年も続いた。そこで失われたものの大きさは計り知れない。

しかし、忘れてならないのは、そうした中であっても、「かわいそうな学校生活」で終わることをよしとしなかった多くの生徒たちが、コロナ禍にあってもできることを探し、実行したことだ。公開文化祭の代わりに各クラスが動画を撮影しフィルム上映会を開催したり、花火を打ち上げたり、それぞれの学校でいろいろなドラマが生まれた。

一方、教師たちも、コロナ禍というピンチをチャンスに変えたのだ。オンライン授業を実施し、双方向での遠隔授業にチャレンジしたほか、例えば、複数の教師がある単元の授業動画を作成し、アーカイブにしていずれも見れるようにし、それを生徒たちが見比べることによってより理解が深まったり、教師自身の指導力向上につなげたりもした。そこで培われたスキルや方法はポストコロナで急速に進んだDX化にもスムーズに対応できる土壌を形成した。

以上のように、コロナ禍を乗り越えた経験は、私たちに、そして生徒たちに、新たな時代を乗り越えていく力と財産を残してもくれたのである。



オンライン授業

福島県公立学校退職校長会会則

(名称・事務所)

第1条 この会は、福島県公立学校退職校長会と称し、事務所を会長が指定する所に置く。

(目的)

第2条 この会は、会員相互の旧交をあたため、生活の向上を図るとともに、本県ならびにわが国教育の向上につとめることをもって目的とする。

(事業)

第3条 この会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

会員の親睦会、機関紙の発行、会員の互助慶弔、会員の経済的社会的地位の向上、教育振興のための社会活動、その他本会の目的達成のため必要な事項。

(組織)

第4条 この会の会員は、福島県の公立学校長職にあった退職者、および役職（校長）定年者をもって組織する。

さらに、現職にある公立学校長を賛助会員とすることができる。

(役員)

第5条 この会に次の役員をおく。

会長1名、副会長5名、監事3名、評議員若干名、理事若干名

(役員の選出及び任期)

第6条 会長・副会長・監事は評議員会で、会員の中から選出する。

評議員は、各支部から2名を選出する。うち1名は支部長をこれに充てる。

理事は、会長が委嘱する。

役員の任期は2年とし再任を妨げない。補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

役員の任期が終了しても、後任役員が定まらないうちは、なおその職務を行うものとする。

(役員の任務)

第7条 会長は会務を総理し本会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長事故有るときは、あらかじめ会長の定める順序でその職務を代理する。監事は会計を監査する。評議員は会員を代表して会務を審議し、これを議決する。理事は会務を処理する。

(顧問)

第8条 この会に顧問をおくことができる。顧問は評議員会で推薦し、会長の諮問にこたえる。

(事務局)

第9条 この会に事務局をおく。事務局の組織は別にこれを定める。

(会議)

第10条 この会の会議は、評議員会・大会・理事会・支部長会とする。

評議員会は本会の決議機関であって、会則・役員選出・予算その他重要事項の審議にあたる。

大会は毎年1回以上開き、必要な事業を行う。

理事会は会務の執行について協議し、これを処理する。

支部長会は、会務の円滑な執行を図るため、必要に応じて開催することができる。

(会計)

第11条 この会の経費は、会費・寄付金等をもってこれに充てる。ただし、満90歳以上の会員からの会費はこれを徴収しない。

会費の額は評議員会で決める。

この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(支部)

第12条 この会に次の支部をおく。

(福島・伊達・安達・郡山・岩瀬・石川・田村・西白河・東白川・北会津・耶麻・両沼・南会津・相馬・双葉・いわき)

支部に関することは別にこれを定める。

(会則改正)

第13条 この会の会則は評議員会の決議によらなければ変更することができない。

(細則)

第14条 この会に必要な細則は理事会でこれを定めることができる。

(施行)

第15条 この会則は昭和40年4月9日から施行する。

昭和44年5月28日改正施行

昭和48年6月25日改正施行

昭和49年5月27日改正施行

昭和50年5月31日改正施行

昭和52年5月28日改正施行

昭和54年6月2日改正施行

昭和57年4月22日改正施行

昭和59年4月22日改正施行

昭和60年4月26日改正施行

平成10年4月22日改正施行

平成12年4月19日改正施行

平成19年4月19日改正施行

令和5年12月8日改正施行(第4条役職定年)

ただし、改正後の会則11条の施行以前の免除会員については、なお従前の例による。

【福島県公立学校退職校長会申し合わせ事項】

1. 会則第6条（役員の選出及び任期）に関する事 〔平成15年4月17日評議員会決議〕
任期中に副会長（ブロック選出）・監事に欠員が生じた場合には、当該ブロックで選出した者をそれぞれ、その任に充てるものとする。
 2. 会則第11条（会計）に関する事 〔平成16年4月22日評議員会決議〕
会員の会費の徴収について、次の2点を16年度より実施する。
 (1) 毎年度、4月1日から5月31日までに亡くなられた会員の会費は徴収しない。
 (2) 心身の障害等で支部会費を免除されている会員については、本会の会費を免除することができる。
 3. 会則第4条（組織）に関する事 〔平成19年4月19日評議員会決議〕
県外の公立学校長職にあった退職者で、県内に在住し、当該支部が認めた場合は会員となることができる。
 4. 会則第3条（事業）に関する事 〔平成20年4月17日評議員会決議〕
年度途中緊急の依頼によって、会の事業として引き受けなければならない事態が生じた場合、会長の判断により引き受けることができる。ただし、その結果を次年度の評議員会に報告するものとする。
 5. 慶弔規定3（弔意）に関する事 〔平成30年4月17日評議員会決議〕
会員やその家族等と「やむを得ない事情」で連絡が取れずに、死亡が判明した時には、会費未納期間が2年以内の場合、会員死亡として弔意を表す。ただし、遺族等からの辞退申し入れがあった場合は、この限りではない。なお、この申し合わせ事項は、既に心身の障害等で支部会費が免除されている会員及び90歳以上で会費を免除されている会員には該当しない。
 (1) 会員継続の意思判断が得られない場合
 (2) 本人の所在が不明である場合
- ※会則10条（会議）に関する事 〔平成31年4月23日評議員会決議〕
「支部長会は、会務の円滑な執行を図るため、必要に応じて開催することができる。」とあるが、「当分の間、毎年1回開催する。」〔平成16年4月22日評議員会決議〕を削除する。

福島県公立学校退職校長会慶弔規程

1. この規程は会則第14条に基づき慶弔に関する規程を定める。
2. 会員が95歳及び100歳を迎えたときは、記念品を添えて「賀寿」を贈呈する。その他の慶事に関しては、特別な場合を除き支部に委ねる。
3. 弔意は次のとおりとする。会員死亡の場合、弔辞及び香典3,000円を贈る。ただし、元現の会長・副会長・監事・顧問・支部長・理事に弔辞及び香典5,000円を贈る。
4. 必要生じたる場合、会長において裁量し、理事会に報告する。
5. この規程は昭和56年11月25日から施行する。
 - ・昭和56年4月14日改正施行
 - ・平成3年1月30日改正施行
 - ・平成22年4月20日改正施行
 - ・平成24年4月27日改正施行

福島県公立学校退職校長会事務局規程

1. この規程は、会則第9条、第14条に基づき、事務局の組織及び運営に関する事を定める。
2. 事務局員は、会長の指名する理事（常任理事という）をもって組織する。
3. 事務局に次の部を置く。
 - (1) 事務局長
 - (2) 総務部 若干名
 - (3) 会計部 若干名
 - (4) 調査部 若干名
 - (5) 広報部 若干名
4. 事務局の任務は、おおむね次のとおりとする。
事務局長は、会長の命を受けて事務局を総括する。
 総務部は、総務関係事務を処理する。
 会計部は、会計関係事務を処理する。
 調査部は、調査関係事務を処理する。
 広報部は、会報等広報関係事務を処理する。
5. 必要に応じ本会の運営及び事務処理について協議するため、事務局会を開く。
6. この規程は昭和56年11月25日から施行する。
 - ・平成9年4月改正施行
 - ・平成25年3月改正施行

福島県公立学校退職校長会 旅費に関する規程

- 第1 この規程は会則第14条に基づき、旅費に関する必要な事項を定め、会務の円滑な運営に資するとともに、会費の適正な支出を図ることを目的とする。
- 第2 本会の役員が会務を遂行するために自宅を離れ用務地に移動したときは、当該役員に旅費を支給する。
- 2 旅費の種類は鉄道賃・車賃、日当、宿泊料、その他用務に必要な費用とする。
- 第3 支給する鉄道賃・車賃の基準は次のとおりとする。
- (1) JR等の電車（新幹線含む）・バス等の交通機関を利用する場合は、その鉄道賃・車賃の実費を支給する。
- (2) 私有自動車を使用した場合、車賃は次のとおりとする。
- ①単独で使用する場合は、1km当り25円で計算する。
- ②同乗者と共に使用する場合は、1km当り40円で計算する。ただし、同乗者には車賃を支給しない。
- ③高速道を使用した場合は、その料金を別途支給する。ただし、片道の走行距離が30km以上の場合とする。
- 第4 日当は、用務の日数に応じ1日当りの定額により支給する。
- 2 次の各号に該当する用務の日当は、1日当り1,000円とする。
- (1) 会則第10条に定める会議（評議員会・県大会・理事会（事務局会を含む）・支部長会）
- (2) 監査会
- (3) 全連退理事会及び総会、副会長会、事務局長会
- (4) 東北地区退職校長会協議会
- (5) その他会長が必要と認める用務
- 第5 宿泊を伴う用務については、宿泊に要した費用の実費を支給する。その際、宿泊費の上限は、一泊について10,000円とする。
- 第6 その他用務に必要な費用は、全連退総会、東北地区退職校長会協議会の参加費を含み、当該用務の参加費の実費を支給する。
- 第7 この規程は、平成21年4月21日から施行する。

附 則

平成27年4月27日改正施行

平成29年3月10日一部改訂 4月1日施行

福島県公立学校退職校長会 「ぬくもり基金」規程

1. 名 称
福島県公立学校退職校長会（以下「本会」という）に基金を置き、「ぬくもり基金」（以下「基金」という）と称する。
2. 目 的
基金は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災により、本会運営の困難な状況に対応するために助成することを目的とする。
3. 原 資
基金の原資として、秋田県退職校長会から寄せられた支援金及び同様な目的のために寄せられた支援金・義援金や寄付金をもって充てる。
4. 委員会
本会事務局に若干名からなる「ぬくもり基金運用委員会」を設置する。委員は会長が任命し、委員長は互選とする。委員長は、運用全体を統括する。
5. 運 用
基金の運用は、別に定める「ぬくもり基金運用要綱」に従って「ぬくもり基金運用委員会」が行う。
6. 報 告
「ぬくもり基金運用委員会」は、基金運用事業について毎年評議委員会に報告する。

附 則

この規程は平成27年4月27日より施行する。

福島県公立学校退職校長会 「ぬくもり基金」運用要綱

1. 助成対象
助成対象は以下のいずれかに当てはまる事業とする。
- (1) 県大会の運営に関すること
- (2) 東北地区協議会に関すること
- (3) 緊縮予算の補填に関すること
- (4) その他「ぬくもり基金運用委員会」が必要と認めた事業
2. 助成金額
1件に関する助成金額を、原則として6万円以内とする。
3. 助成件数
助成件数は原則として年間3件以内とする。
4. 助成選定
助成対象の選定は、「ぬくもり基金運用委員会」が行う。選定結果を事務局会に報告し、会長の承認をもって最終決定とする。
5. 成果報告
助成を受けた事業については、終了後に事業報告書（別紙）を提出する。

附 則

この要綱は、平成27年4月27日より施行する。

令和6年度 福島県公立学校退職校長会役員

顧問	佐藤 昌志	小野 孝雄	室井 君男	佐藤 俊市郎
会長	福士 寛樹			
副会長	飯沼 信一(事務局)	鈴木 昭雄(県北)	工藤 博(県中南)	
	齋藤 秀一(会津)	沢 宏一(浜)		
監事	栗林 正樹	菅井 一良	鈴木 恵一	
評議員				
(福島)	鈴木 昭雄	持地 隆一	(伊達) 古宮 睦男	蓬田 吉穂
(安達)	伊藤 末吉	高島 徹也	(郡山) 工藤 博	皆川 晃
(岩瀬)	渡邊 真二	須田 元大	(石川) 富岡 高春	矢吹 伸一
(田村)	根本 保男	佐久間 光春	(西白河) 栗林 正樹	鈴木 且雪
(東白川)	古張 金一	永山 陽一	(北会津) 齋藤 秀一	本田 樹
(耶麻)	菅井 一良	阿部 充也	(両沼) 佐藤 玄	目黒 健一郎
(南会津)	齋藤 修一	星 裕次郎	(相馬) 高野 敦夫	井上 恭一
(双葉)	鈴木 恵一	小野田 敏之	(いわき) 沢 宏一	村田 哲
理事	峯島 和彦	浅野 テル子	安田 喜市郎	野崎 修司
	勝見 五月	渡辺 勝則	大和田 修	長岐 博
	原 美子	小檜山 宗浩	吉田 務	穴戸 弘治
常任理事(事務局)				
(事務局長)	坂爪 靖夫			
(事務局次長)	鈴木 博			
(総務部)	鈴木 博(兼)	小柴 治紀	内藤 良行	井関 和明
	佐藤 秀雄			
(会計部)	吉岡 映子	根本 幸枝		
(調査部)	小松 隆	橘内 薫		
(広報部)	二瓶 洋允	佐藤 洋一		

福島県公立学校退職校長会創立60周年記念誌編集関係

編集委員会 事務局常任理事で構成
執筆者

- ・福士 寛樹(会長) 飯沼 信一(副会長) 坂爪 靖夫(事務局長) 鈴木 博(事務局)
- 小柴 治紀(事務局) 内藤 良行(事務局) 井関 和明(事務局) 佐藤 秀雄(事務局)
- 吉岡 映子(事務局) 根本 幸枝(事務局) 小松 隆(事務局) 橘内 薫(事務局)
- 二瓶 洋允(事務局) 佐藤 洋一(事務局)
- ・持地 隆一(福島) 古宮 睦男(伊達) 渡邊 勝則(伊達) 鈴木喜三郎(伊達)
- 高橋 孝(伊達) 高島 徹也(安達) 渡邊 芳光(郡山) 安田 柳一(岩瀬)
- 矢吹 伸一(石川) 根本 保男(田村) 佐久間光春(田村) 根内喜代重(田村)
- 菊地 好博(西白河) 永山 陽一(東白川) 齋藤 秀一(北会津) 菊池 芳次(北会津)
- 川上 関男(北会津) 本田 樹(北会津) 馬場 俊忠(耶麻) 横田 順(両沼)
- 星 裕次郎(南会津) 小野田敏之(双葉) 高野 敦夫(相馬) 沢 宏一(いわき)
- ・浪江町立なみえ創成中学校長 青田 亮一 大熊町立学び舎ゆめの森校長 南郷 市兵
- 須賀川市立第一小学校長 柿沼 孝明 郡山市立芳山小学校長 難波 和生
- 会津若松市立第一中学校長 原 孝行 福島県立福島高等学校長 丹野 純一

参 考 文 献 等

- 原子力災害対策本部発表内容（2011年3月～）
- 厚生労働省：東北地方太平洋沖地震の被害状況及び対応について（2011年3月）
- 気 象 庁：地震・火山月報（防災編）（2011年3月）
- 日本気象協会：東北地方太平洋沖地震津波の概要（2011年4月）
- 福島県公立学校退職校長会編「二十年の歩み」「三十年のあゆみ」「四十年のあゆみ」「50年のあゆみ」
- 福島県公立学校退職校長会会報「松風」
- 「双葉の灯は消さない 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の記憶と記録」福島県公立学校退職校長会双葉支部
- 「双葉の灯は消さない～あれから10年の今とこれから～」福島県公立学校退職校長会双葉支部
- 「東日本大震災の記録集 ふくしまの絆 ～学校は、復興の最大の拠点～」福島県小学校長会
- 「東日本大震災記録集 ふくしまの絆 総合版」福島県小学校長会
- 「東日本大震災を越えて ～ふくしまを生きる～」福島県中学校長会
- 全国連合退職校長会広報誌「会報」「年間紀要」
- 東北地区退職校長会協議会広報誌「東北地区情報」
- その他新聞報道など

編 集 後 記

ようやく記念誌「60年のあゆみ」が完成しました。ご理解とご協力をいただいた各支部の皆様はじめ、原稿をお寄せくださった学校長の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

本記念誌では、平成27年度から10年間の本会活動を中心にまとめようとしたのですが、編集の過程で、平成23年3月11日の未曾有の東日本大震災その後の福島第一原発事故の影響があまりにも大きく、各方面からの多くの支援をいただきながらその困難を乗り越え歩んで来た証として、被災当時の本会の活動状況もできるだけ載せることにしました。

さらに、令和2年2月、「新型コロナウイルス感染症」が発生し、感染が拡大し、社会生活や行動が制限されるなどして、中止や延期、縮小など本会の活動に大きな影響を与えました。

本会発足以来、これまで経験したことのない「震災・原発事故」、「新型コロナウイルス感染症」という二つの出来事に遭遇しながらも、会員全員が力を合わせ、全力で乗り越えてきた本会60年の歴史の重みを痛感しています。

次の新しい時代に向け、さらに力強く進んで行くことを切に願い、任を終わらせていただきます。

発刊にあたってのご理解ご協力本当にありがとうございました。

福島県公立学校退職校長会創立60周年記念誌

「60年のあゆみ」

令和7年4月1日 印刷

令和7年4月1日 発行（非売品）

編集・発行 福島県公立学校退職校長会

会長 福 士 寛 樹

事務局 福島県公立学校退職校長会事務局

福島市浜田町4-16 富士ビル2F

TEL(024)534-5411 FAX(024)531-1195

印刷 陽光社印刷株式会社

福島市南矢野目字萩ノ目裏1-1

TEL(024)553-4600

